

第2次掛川市総合計画 改定版 (案)

目次

第1部 総論

- 第1章 計画策定趣旨
- 第2章 計画の構成と役割
- 第3章 掛川市の現況と主要課題

第2部 基本構想

- 第1章 まちづくりの基本理念と将来像
- 第2章 将来人口
- 第3章 土地利用構想
- 第4章 戦略方針

第3部 基本計画

- 第1章 計画策定の基本的考え方
- 第2章 戦略目標
- 第3章 個別施策
- 第4章 計画の推進にあたって

掛川市

第 1 部 総論

第1章 計画策定趣旨

本市は、平成17年（2005年）4月に、旧掛川市と旧大東町、旧大須賀町との合併により誕生しました。第1次掛川市総合計画（平成19～28年度（2007～2016年度））では、「海と山と街道がつながり、夢・未来を創るまち」を将来像に掲げ、新市融合に向けた基盤づくりと市民目線の成果を重視した施策の推進により、人づくり、まちづくりを進めてきました。

合併後は、リーマンショックによる経済の落ち込み、東日本大震災の影響、グローバル化の加速、人口減少、少子化及び長寿化の進展など、社会経済情勢の急速な変化にともない市民ニーズはますます多様化しています。

こうした社会状況を踏まえ、多様化する市民ニーズに柔軟に対応するとともに、独自のまちづくり戦略を打ち出し、将来に向けて市民が豊かさと幸せを実感できるよう、本市のまちづくりの新たな指針となる「総合戦略書」として、平成28年（2016年）に「第2次掛川市総合計画」（計画期間：平成28年度（2016年度）～令和7年度（2025年））を策定しました。

新しい令和の時代となり、Society5.0の到来やSDGsの取組、人生100年時代構想への対応等、近年の社会情勢の変化等に的確に対応するために、総合計画の改定を行うことにしました。

《 計画策定の視点 》

■掛川市自治基本条例に基づく計画づくり

平成 25 年（2013 年）4 月に施行した掛川市自治基本条例は、本市における市民自治によるまちづくりの最高規範であり、総合計画の策定を規定しています。自治基本条例に示された基本理念や本市の将来像などのまちづくりの方針を踏まえた計画とします。

■人口減少に対応した計画づくり

平成 21 年（2009 年）をピークに本市の人口は減少に転じており、今後も減少傾向と推測されていることを踏まえ、人口減少の抑制対策と適応対策を盛り込んだ計画とします。

■令和の新時代到来を見据えた計画づくり

社会情勢の変化等に的確に対応し、SDGs や人生 100 年時代構想等の観点を計画内容に反映させ、20 年後を見据えた新時代に相応しい計画とします。

■市民が参画する計画づくり

市民が真に期待していること、必要としている内容を的確に計画へ反映させるため、市民参加の計画づくりに努めます。市民意識調査や公募市民を中心とした市民委員会での検討を行うなど、市民の意見を積み重ねた計画とします。

第2章 計画の構成と役割

1. 計画の構成

第2次掛川市総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3部より構成します。それぞれの役割と期間は、次のように定めます。

2. 基本構想の役割と期間

基本構想は、20～30年後を見据えたとき、本市が実現すべきまちづくりの姿「掛川市の将来像」やまちづくりの基本的な考え方「基本理念」を示すとともに、本市の将来像を実現するための柱となる「戦略方針」を定め、基本計画の指針としての役割を果たすものです。

基本構想で掲げられている「掛川市の将来像」及び「基本理念」は、長期的な視点から設定したため、当初の目標年度である令和7年度（2025年度）を最終年度とします。

3. 基本計画の役割と期間

基本計画は、基本構想に掲げられた将来像の実現に向けたまちづくりの戦略書としての役割を果たします。基本構想に示した戦略方針に基づき、主要施策や主要プロジェクトを示します。

基本計画の計画期間は、平成28年度（2016年度）を初年度とし、4年後に見直しするとされていたことから改定を行いました。改定に当たっては、令和の時代となり、将来の社会情勢の変化等に的確に対応し、実情に即した計画となるよう改定を行いました。

本改定版の計画期間は令和2年度（2020年度）を初年度とし、令和7年度（2025年度）が最終年度とします。

4. 実施計画の役割と期間

実施計画は、基本計画の主要施策を効果的に実施するための具体的な事業や活動を年度毎に示した事業計画書としての役割を果たします。

社会環境の変化や財政状況を見極めながら、PDCAサイクルにより毎年度進捗管理を行い、確実な目標達成を図ります。

第3章 掛川市の現況と主要課題

1. 掛川市の概況

(1) 位置

本市は静岡県の西部に位置し、静岡県の二大都市静岡市と浜松市の中間に位置しています。東側は島田市、菊川市、御前崎市に、西側は袋井市、森町に接しています。

市中央部に、JR 東海道新幹線、JR 東海道本線、東名高速道路、国道1号が横断するとともに、市南部には国道150号、市北部には新東名高速道路が横断しています。さらに、本市の東側約15kmには富士山静岡空港があり、日本の大動脈を抱えているとともに広域交通の要所に位置しています。

(2) 面積と地勢

本市の面積は265.63k㎡であり、県内の3.4%を占め、県内で7番目に広い都市です。本市は東西約15km、南北約30kmで南北に細長く、市中央部でくびれた形状をしています。市北部は、標高832mの八高山をはじめとする山地であり、その南側に平地が開けるとともに、市中央部には標高264mの小笠山があり、その山麓は複雑な谷戸を持った丘陵地となっています。市南部には平地が広がり、遠州灘に面し、約10kmにわたる砂浜海岸があります。

(3) 歴史

本市は遠州灘に面し、温暖な気候と生活しやすい地形に恵まれていることから、縄文時代には既に集落が営まれ、5世紀前後になると和田岡に大規模な古墳群が築造されるなど、早くから組織化された社会が形成されていたことがわかっています。戦国時代には、徳川、武田攻防の要所として高天神城を舞台とした戦いが行われ、その後は掛川城と横須賀城を中心に城下町が形成されました。江戸と上方との中間に位置することから、城下町としての発展とともに、東海道の宿場町として、また海上交易の中継地としての役割も果しつつ栄えてきました。

明治22年(1889年)に市制町村制が施行された当時は、新市は1町28か村に分かれていましたが、昭和29年(1954年)から昭和35年(1960年)にかけての合併によって、掛川市と大須賀町が誕生し、昭和48年(1973年)には大浜町と城東村が合併して大東町が誕生しました。そして、平成17年(2005年)4月1日には、掛川市、大東町、大須賀町がさらなる発展を目指して合併し、新しい掛川市が誕生しました。

(4) 掛川市の主な特性

①立地環境からの特性

本市は、東京と大阪のほぼ中間に位置し、関東・関西の両経済圏にアクセスしやすく、全国でも「もの」の生産や供給、流通に有利な特長を備えています。一方、本市は静岡県の政令都市である静岡市と浜松市のほぼ中間にも相当することから、商業集積が進みにくい環境にあります。本市は、大都市圏と大都市に挟まれた「中間立地」の特性があ

ります。

②交通環境からの特性

本市は、JR 東海道新幹線、JR 東海道本線、東名高速道路、新東名高速道路、国道 1 号、国道 150 号などが東西に横断し、新幹線掛川駅、東名掛川 I.C が設置されているなど広域交通体系に恵まれた条件を備えています。さらに本市に近接して御前崎港や富士山静岡空港が設置されています。

本市は、新幹線、高速道路、重要港湾、地方空港の結節点となり、県内の交通の要衝であるといえます。

③人口規模からの特性

本市は、人口約 12 万人であり、効率的な行政経営に必要な人口規模を備えています。ただし、我が国の人口が減少時代に移行する中であって、本市においても平成 21 年(2009 年)をピークに人口は減少に転じ、この傾向が継続しています。

また、本市の昼夜間人口比率は 100.4 (平成 22 年国勢調査)であり、夜間人口よりも、通勤・通学で本市に滞在する昼間人口の方が上回っています。

※昼夜間人口比率

夜間人口(常住地による人口)100人あたりの昼間人口(従業地・通学地による人口)

④世帯状況からの特性

本市の世帯数は、約 4 万戸であり、人口が減少に転じている中であって、増加を続けており、核家族化が進行しているといえます。核家族において、単身世帯も増加傾向にあります。

⑤産業からの特性

本市の産業別就業者については、第 1 次産業就業者の割合が継続して減少している一方で、第 3 次産業就業者の割合が増加しています。第 2 次産業就業者の割合は、平成 2 年(1990 年)までは増加していたものの、その後徐々に減少しています。

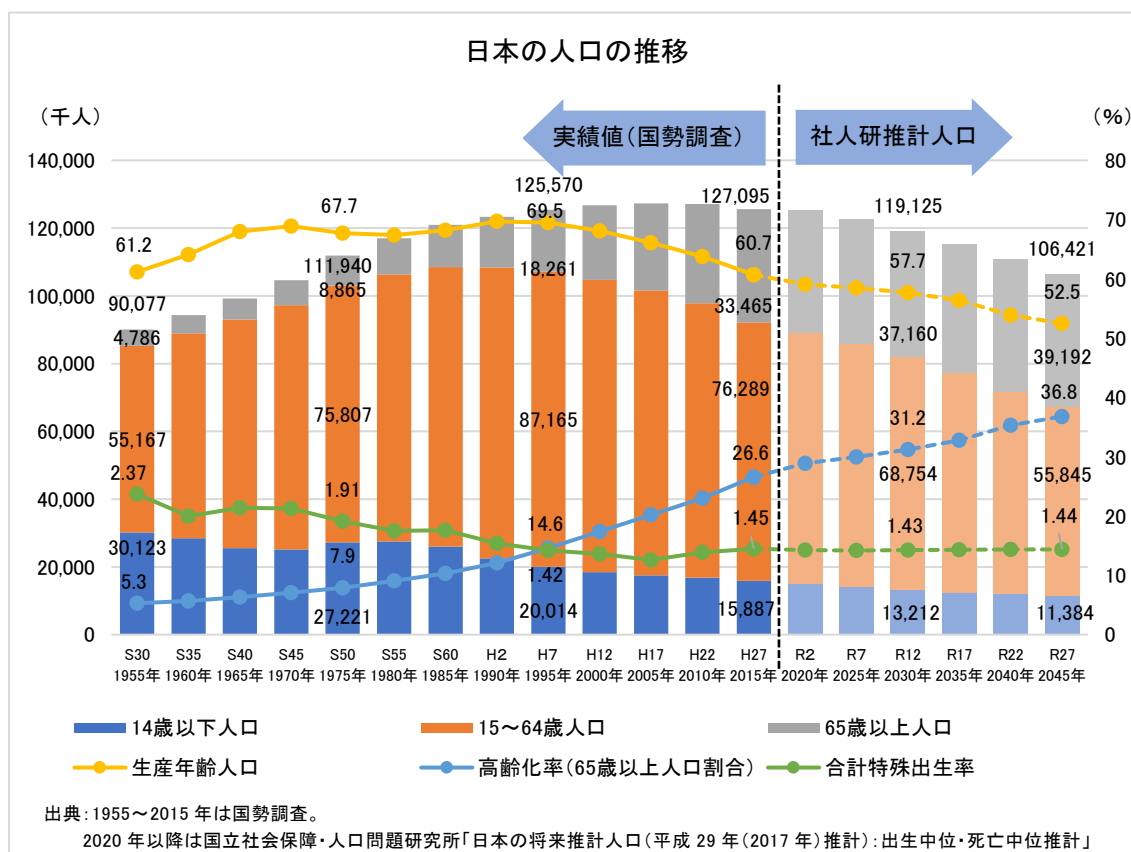
2. 掛川市が直面している喫緊の課題

本格的な少子高齢・人口減少社会の到来

■全国的な傾向

日本の人口は、平成20年（2008年）を境に減少局面に入りました。1970年代後半から合計特殊出生率が低下し、人口規模が長期的に維持される水準（2.07）を下回る状況が約40年間続いています。少子化がこのような進行しながら、長らく総人口が増加を続けてきた理由に、第一次及び第二次ベビーブーム世代の影響で出生率の低下を補う出生数があったことと、平均寿命の伸びにより死亡数の増加が抑制されたことがあげられています。この「人口貯金」と呼ばれる状況が使い果たされ、今後、減少スピードが加速度的に高まっていくことが推測されています。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成29年（2017年）4月の中位推計）」によれば、2030年代初めは毎年70万人程度、2050年代頃には毎年90万人程度まで、減少スピードが加速することになります。さらに、高齢化率（65歳以上人口比率）の上昇は継続し、2077年頃に38.4%、すなわち2.6人に1人が老年人口となると推計されています。

少子高齢・人口減少は、総人口の減少を上回る働き手の減少を生じ、人口減少以上に経済規模を縮小させることに繋がりがかねません。長期に継続する少子化による働き手の減少と高齢化による社会保障費の増大は、働き手一人への負担が増加していくことにもなります。労働力人口の減少と経済規模の縮小は、地域社会において甚大な影響を及ぼし、地方においては、日常生活の維持が困難になる地域も予想されています。



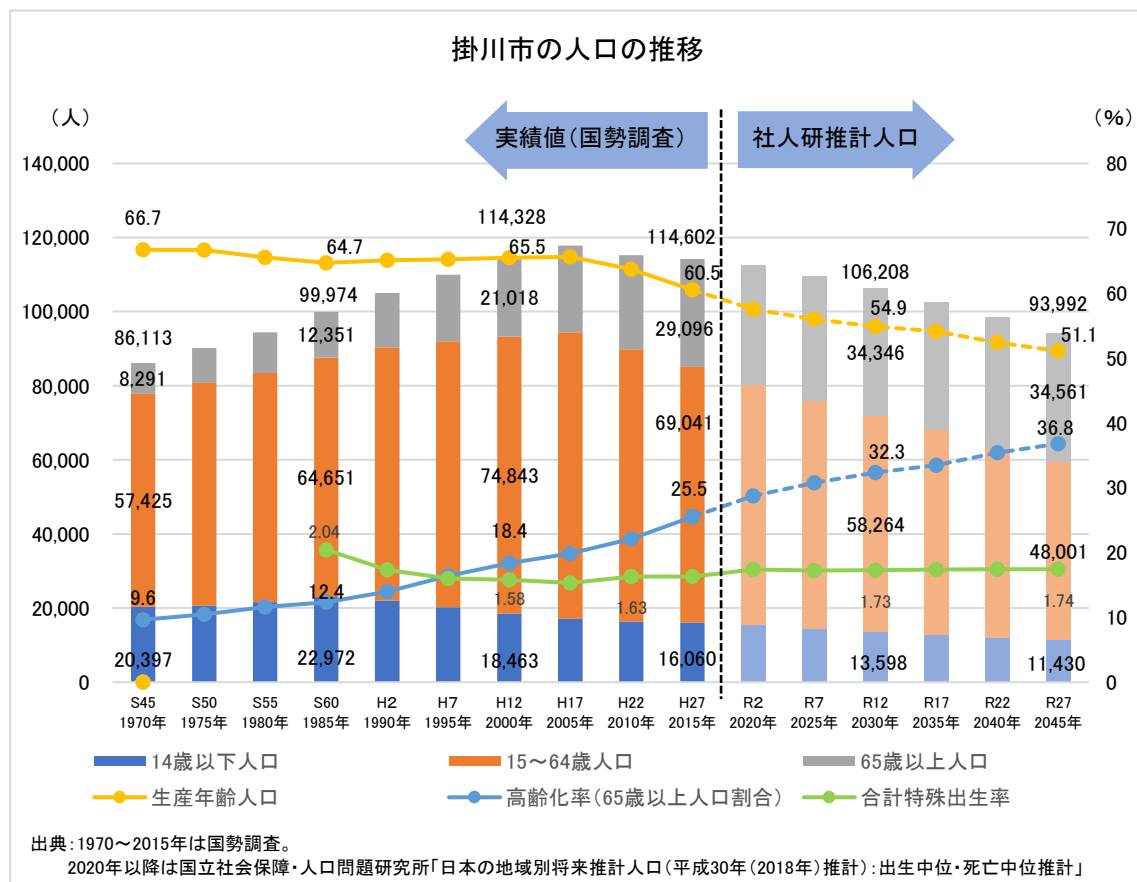
少子高齢・人口減少に対応するために、地域全体で社会を支える仕組みを整えるためのまちづくりが必要になっています。さらに、人口減少を抑制するため、出生率の向上に向けて様々な分野にわたる総合的な取組を長期的・継続的に実施していくことが必要となっています。

■掛川市における傾向

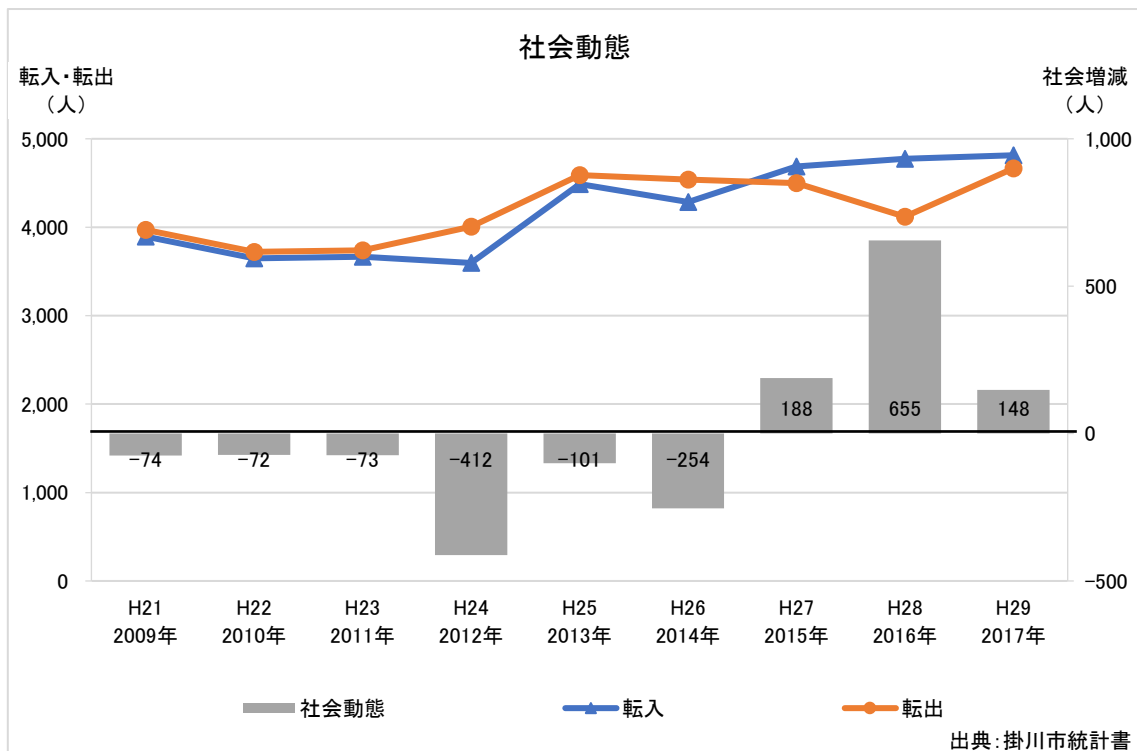
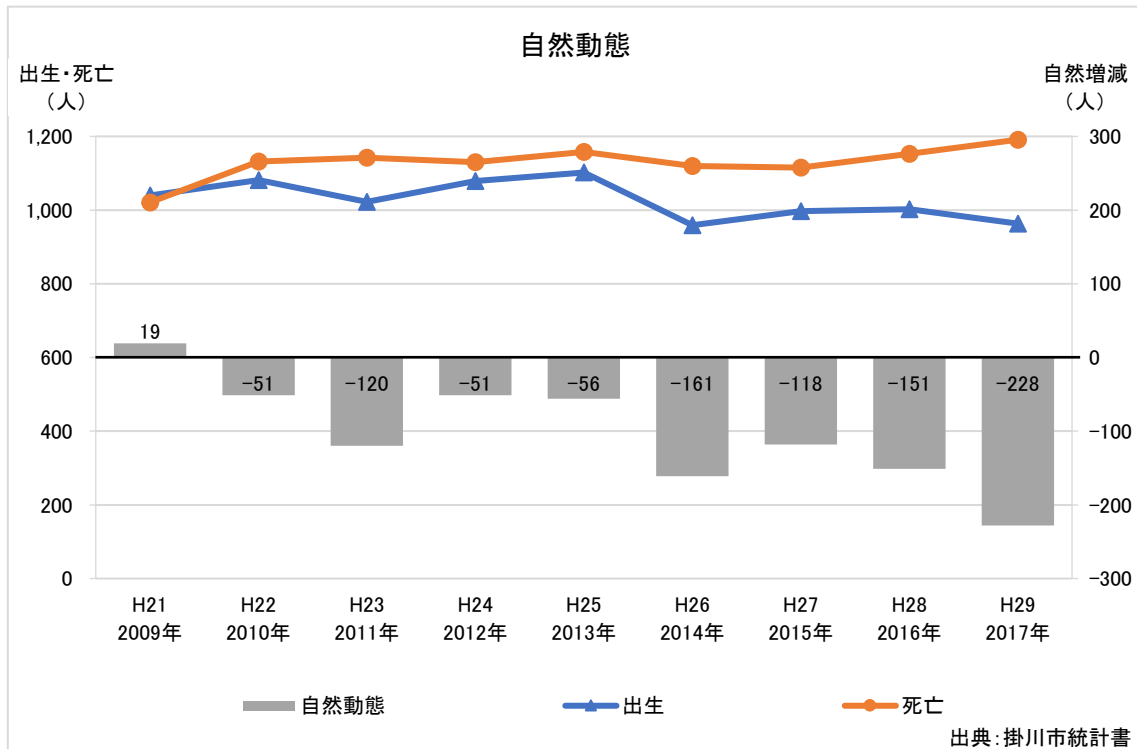
(※以下の統計データにおける「平成16年(2004年)以前の数値」は、旧1市2町の合計値を表しています。)

国勢調査によれば、本市の人口は平成27年(2015年)で114,602人であり、前回調査と比較して、1,761人(△1.5%)が減少しています。また、本市の平成27年(2015年)の生産年齢人口(15～64歳)割合は60.5%、高齢化率(65歳以上人口割合)は25.5%であり、生産年齢人口割合は減少傾向に、高齢化率は増加傾向にあります。

また、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月)」によれば、本市の人口は2040年に10万人を割り込み、2045年は93,992人までに減少するとともに、生産年齢人口割合は51.1%まで減少、高齢化率は36.8%まで上昇すると予測されており、さらにその後も、この傾向が継続すると予測されています。



近年の住民基本台帳によれば、人口の増減に影響を及ぼす人口動態の状況は、自然動態が平成22年（2010年）から死亡数超過に転じ、社会動態が平成27年（2015年）から転入数超過に転じています。



3. 今後のまちづくりに必要な視点

将来にわたって持続することが可能な「まち」を創ること

少子高齢・人口減少社会、さらに Society5.0 や人生 100 年時代の到来にあたり、これからは、人口増加を前提とした“成長型のまちづくり”ではなく、既存の資源を有効に活用しながら個性や魅力を磨き上げて、暮らしの質と活力を高める“成熟型のまちづくり”へ転換することが必要となっています。

これからの 10 年、20 年は、本市が有する財産を、より良い形で将来の世代に引き継ぐためのまちづくりを行う重要な期間であるといえます。

具体的には、将来を適切に見据え、社会面・経済面・環境面で持続可能な「まち」を創ることが必要です。

そのために、持続可能な開発目標（SDGs(17) パートナリーシップで目標を達成しよう）の主流化を図り、SDGs に即した観点を施策に取り入れ、持続可能なまちづくりを目指した取組を推進することで、社会、経済及び環境の統合的な向上を図ることが求められます。

(1) 社会面で持続可能であること

①安全・安心・健康的な暮らし環境が確保されていること

持続可能なまちづくりを進める上で最も大切なことは、人が住み続けることができる環境が整っていることです。自然災害や犯罪、また日常の生活環境などあらゆる面で安全・安心が確保されていること、そしてそこに暮らす人々が心身共に健康で暮らしていける環境があることが必要です。

②生活に必要なサービスを効率的・効果的に受けられること

人口減少社会では、効率化や費用対効果の面から、求められる場所に広くサービスを提供していくことは難しくなります。また、高齢化に伴い、車を運転しなくなる高齢者が増え、移動に制約を受ける人が増加することが考えられます。これらのことから、買い物がしづらくなったり、行政サービスを受けにくくなったりすることが予想されるため、生活関連施設の集約や、公共交通をはじめとする移動手段の確保など、生活に必要なサービスを効率的・効果的に享受できるまちづくりを進めていくことが必要です。

③社会的包摂が推進され、地域多様性や文化多様性が維持されていること

少子高齢・人口減少社会においては、まちの多様性、つまり性質の異なるものを幅広く有し、生かすこと、また、誰もが社会に関わるよう社会的包摂を推進することが、まちの魅力・活力の向上につながるといえます。地域固有の文化の伝承や活用はもちろんのこと、地域の多様性や文化の多様性を再認識・再構築し、他にはない個性的な

まちづくりを進めていくことが必要です。

※社会的包摂

住民一人ひとりが社会のメンバーとして「居場所と出番」を持って社会に参加し、それぞれの持つ潜在的な能力をできる限り発揮できるようにすること

※地域多様性

各地域が多様性を再構築し、自らの資源に磨きをかけること、複数の地域間の連携により、人・モノ・情報の交流を促進すること

※文化多様性

民族、地域及びコミュニティが、独自の歴史的文化的背景を有する様々な文化を有すること、またそのような様々な文化が存在する状態のこと

(2) 経済面で持続可能であること

①自立した付加価値の高い地域経済活動が活発に行われていること

人口減少社会では、地域経済の縮小が予測されています。人が住み続けるためには自立可能な経済状況を確保できなければなりません。地域経済活動で得られた対価(カネ)は、地域で循環してはじめて地域の活性化につながります。まちが有する多様な地域資源を有効に活用しながら、地域外の市場も視野に入れた付加価値の高い経済活動により対価を獲得し、それを地域内の市場で循環させる自立的な地域経済構造を構築する必要があります。

②多様な雇用環境が安定的に創出され、就業意欲も高いこと

少子高齢・人口減少社会の到来は人口構造が大幅に変化することを意味しており、労働力人口は、平成12年(2000年)をピークに減少が継続しています。人口構造の変化に加え、グローバル化が加速し、ライフスタイルや価値観が多様化しているなかで、今後も地域経済を維持・向上していくためには、就業者のニーズにあった多様な雇用環境が整うことと、働くことに生きがいを持つことやチャレンジしようとする精神をもった就業者の存在が必要です。

③健全な都市経営が行われていること

少子高齢・人口減少社会の進行に伴い、歳入額の減少や扶助費をはじめとする社会保障費の増大など、自治体の財政構造は大きく変化するとともに、活用可能な財源も限られてくることが予想されます。健全な都市経営を実現するため、限られた財源のなかで市民の満足度を高める適正かつ効率的なまちづくりを進めることと、先を見通した政策の選択と制度改革が必要です。

(3) 環境面で持続可能であること

①かけがえのない自然環境が保全されていること

水や緑などの自然環境は、ひとやまちに恵みとうるおいを与えてくれるほか、生物多様性を維持する上でも、かけがえのないものとなっています。これらの自然環境を守るとともに、くらしに上手く生かしていく必要があります。

②地球環境への負荷が軽減されていること

産業等の発展に伴い、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量が増大し、地球温暖化などの環境問題を引き起こし、気候変動や動植物の生態系に大きな影響を与えていると考えられています。温室効果ガスが発生しない技術の開発や、日常生活や様々な都市活動において、温室効果ガスの排出を抑制するまちづくりや取組など、地球環境への負荷を軽減することが必要です。

③エネルギーが循環利用されていること

石油や石炭などの化石燃料により得られるエネルギーは有限（枯渇性）であるとともに、燃料の燃焼に伴い、地球温暖化などの環境問題を引き起こしています。地球環境に負荷がかからず、持続可能なエネルギー利用環境を創出するため、エネルギーを創り、蓄え、再生するといった、エネルギーを循環利用する技術の開発やまちづくりを進めていく必要があります。

4. 持続可能なまちづくりの実現に向けた掛川市の主要課題

(1) 「まち」づくりの観点から

① 人を惹きつけ、留めるまちづくり（社会面・経済面）

ア) 定住を促進するための快適な都市基盤と生活環境の充実

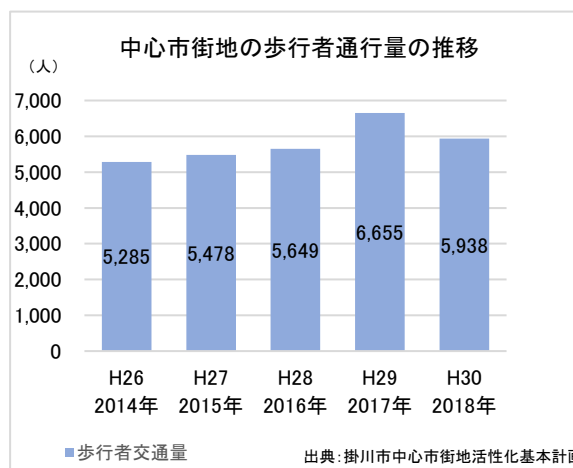
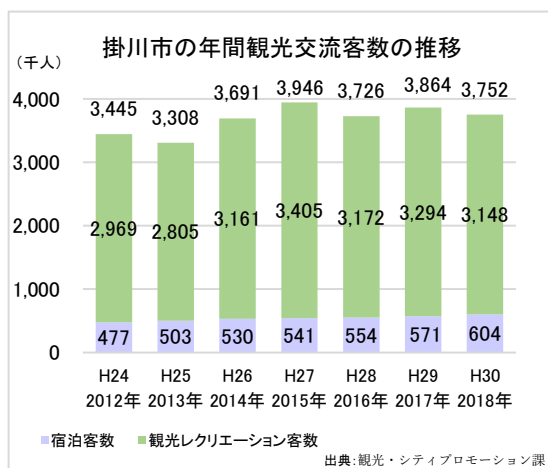
- ・ 定住を受け入れるための良好な住宅地の確保
- ・ 買い物環境や移動環境の向上など、生活利便性を高める取組の推進 など

イ) 生活・観光交流を促進するためのにぎわいの場の創出

- ・ 本市の顔となる中心市街地の活性化
- ・ 山、川、海、農など、多彩で魅力的な地域資源を生かした交流空間の創出 など

ウ) SNSなどのICT技術を活用した多様な情報ツールを用いた、まちの魅力と情報発信

- ・ SNSなどのICT技術を活用した情報ツールを積極的に用いた、魅力的なまち情報等の発信
- ・ 中東遠都市圏としての観光ネットワークの構築と市町間連携の推進 など



② 安全・安心で、気持ちよく生活できるまちづくり（社会面）

ア) 災害危険箇所と緊急時の対応を把握できる市民意識の向上とコミュニティの充実

- ・ 災害時における自助・共助の推進と、共助を下支えする地域コミュニティの充実
- ・ 防災ガイドブックなどを活用した災害危険箇所の確認と、家庭の避難計画、地区防災計画作成の推進 など

イ) 災害から市民を守るアクションプログラムの推進

- ・ 地震、津波、原子力など、各種災害に対応したアクションプログラムの積極的な推進
- ・ 優先性や実施効果の検証などによる、適切なアクションプログラムの進捗管理 など

ウ) 安全・快適な生活空間の形成

- ・子ども、高齢者、障がい者をはじめ、誰もが安全に安心して利用できる道路交通環境の創出
- ・子育て世帯や高齢者世帯などのニーズに応じた、安全・安心・快適な「住まい」の創出
- ・地震、津波、台風などの自然災害に強いまちづくりの推進 など

③ 環境にやさしく、身の丈に応じたコンパクトなまちづくり（社会面・経済面・環境面）

ア) 広域連携を見据えた拠点の形成とネットワーク化

- ・中東遠都市圏全体としての都市機能の配置・連携の検討
- ・本市の将来人口・財政力に見合った適切な都市構造の形成
- ・将来の都市構造を踏まえた都市機能の適切な誘導、公共施設の再配置 など

イ) 既存ストックの老朽化対策と未利用ストックの有効活用

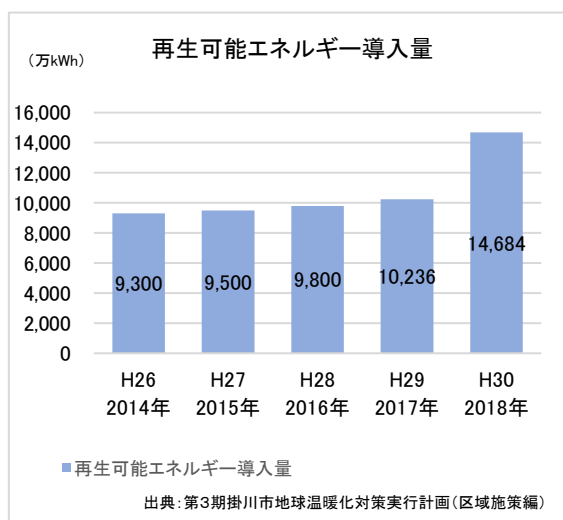
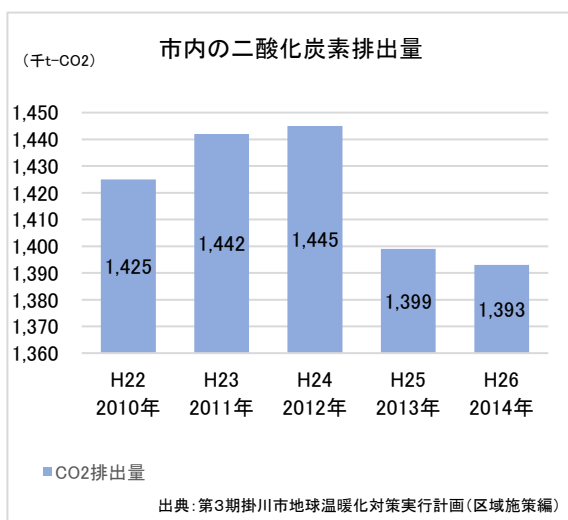
- ・道路・橋梁・公園など、既存ストックの老朽化対策や適切な維持管理の推進
- ・空き家や空き地など、人口減少に伴い増加すると考えられる未利用ストックの有効活用 など

ウ) 自然環境や営農環境の保全、都市との調和・共生

- ・海、山、川などの恵まれた自然環境の保全、まちづくりへの活用
- ・茶畑や水田などの営農環境・営農風景の保全、まちづくりへの活用 など

エ) 地球温暖化の防止と再生可能エネルギーの利用促進

- ・温室効果ガスの発生の軽減を図るため、自動車に過度に依存した交通体系から、自動車と公共交通をかしこく使い分けることができる交通体系への見直し
- ・太陽光、風力、バイオマスなどを利用した創エネ・蓄エネ・省エネの推進 など



(2) 「くらし」づくりの観点から

① 地元で安心して働けるくらしづくり（社会面・経済面）

ア) 地域に根付いた産業の生産性・付加価値の向上と、地域経済に新たな付加価値を生み出すビジネスの創出

- ・掛川茶をはじめとする地場産品の高付加価値化や希少価値による差別化、ブランド化の取組推進
- ・地域経済に活力と潤いを与える、自立した新たな産業・ビジネスモデルの確立など

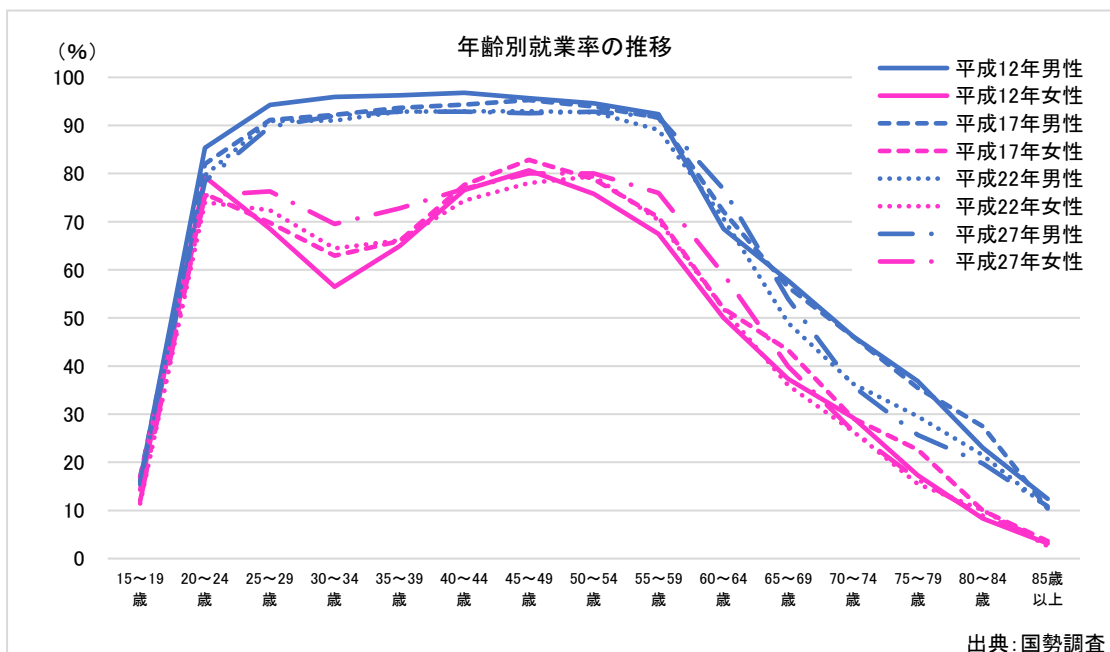
イ) 若者、女性、高齢者、障がい者など多様な就業ニーズに対応した雇用環境の創出

- ・ライフスタイルやライフステージなどによって異なる、働き方への多様なニーズに対応した雇用環境の創出
- ・障がい者の社会的自立・経済的自立を目指した、雇用環境と支援制度の充実など

ウ) ICT技術の活用、ワーク・ライフ・バランスの取組による生活の質の向上

- ・テレワーク（在宅勤務）など、ICT技術を活用した多様な働き方の確立
- ・働き方の変革とそれを支える制度の確立など、ワーク・ライフ・バランスの取組による生活の質の向上（「仕事」と「私生活」の両立） など

■年齢別就業率の推移



② 安心して子どもを生み、育てられるくらしづくり（社会面・経済面）

ア) 子どもと保護者、地域、行政の連携による子育て支援環境の充実

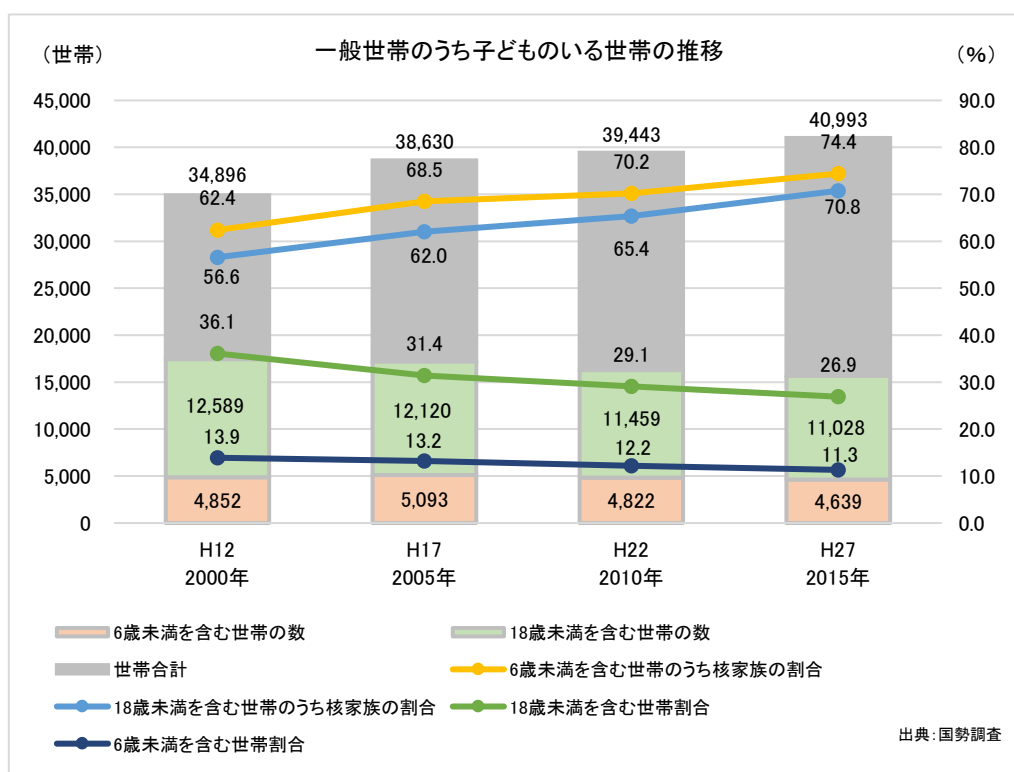
- ・ 夜間保育サービスや駅型保育、在宅保育サービスなど、保育システムの多様化・弾力化の推進
- ・ 家庭、地域、学校、行政の協働による、総合的な子育て支援環境の充実 など

イ) 子育て世代が働きやすい雇用環境の創出

- ・ 育児休業制度の充実や労働時間の短縮など、労働者が子育てをしながら安心して働くことができる（仕事と育児が両立できる）雇用環境の創出
- ・ 職業情報の提供や自己啓発への援助、多様な就業ニーズに合った講習や職業訓練など、育児のために退職した者への再就職支援の充実 など

ウ) 出産・子育てのニーズに合致した支援制度の導入・充実

- ・ 妊娠～出産～子育ての各ステージで異なるニーズに対応するための、社会的・経済的支援制度の導入・充実 など



③ 高齢者が健康で生きがいを持てるくらしづくり（社会面）

ア) 家庭、地域、行政の連携による高齢者支援環境の充実

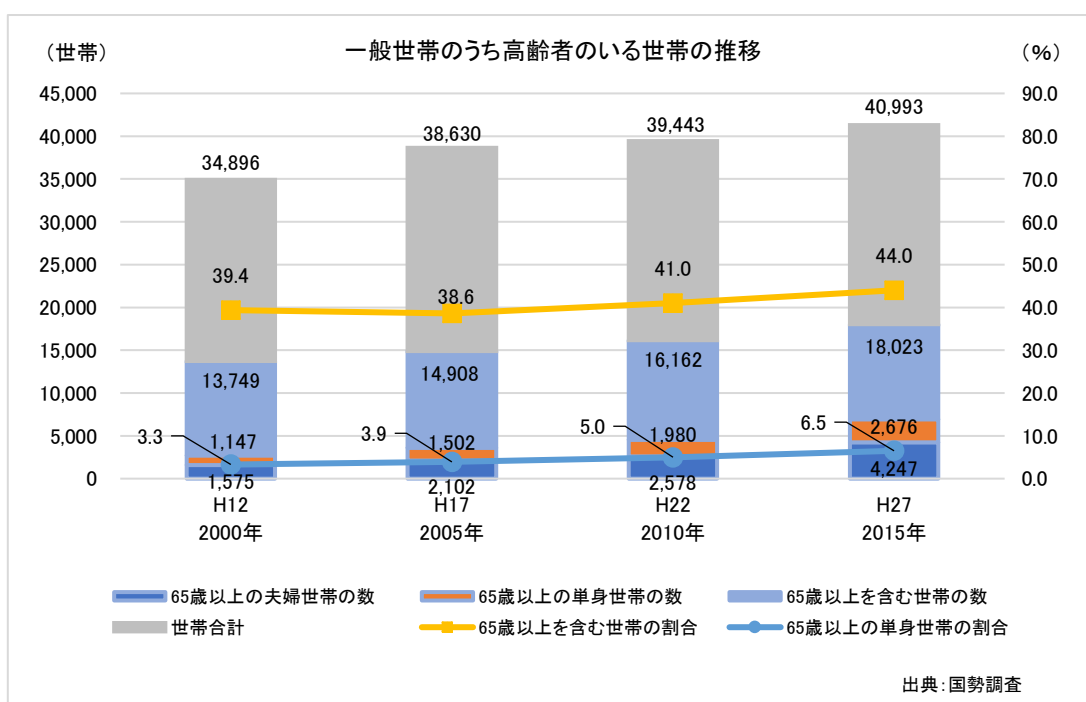
- ・ 高齢者の生活に必要なサービスを、切れ目なく提供できる包括的・継続的なサービス体制（地域包括ケアシステム等）の構築・充実
- ・ 高齢者に加え、その家族をも地域全体で支える「見守りネットワーク」の構築・充実 など

イ) 健康意識の啓発と地域医療体制の充実による健康寿命の延伸

- ・早い段階からの健康意識の啓発活動や、健康づくりを目的とした活動への参加促進
- ・地域医療体制の充実や民間団体の活動促進などによる、健康づくりに関する相談を生活の身近で受けられる環境づくり など

ウ) 高齢者が活躍でき、生きがいを持てる‘ハレの場’の創出

- ・喜びや生きがい、人や社会に貢献している実感を得るための、社会活動への参加促進
- ・高齢者が長年にわたって蓄積した知識・経験を地域社会に生かすための、活躍の場や機会の創出・充実 など



(3) 「ひと」づくりの観点から

① 「まち」づくりや「暮らし」づくりの担い手づくり (社会面・経済面)

ア) 地域への郷土愛や愛着の育成

- ・地域の歴史・文化の学びを通じた郷土愛・愛着の育成
- ・高齢者の知識・経験を生かした、地域と子どもの関わりの強化 など

イ) 協働のまちづくりの実現に向けたまちづくり人材の発掘・育成

- ・協働のまちづくりのイメージの浸透、啓発活動
- ・子どもから高齢者まで、地域のまちづくりを牽引する人材 (リーダー) の発掘・育成とネットワーク化
- ・まちづくりに関する知識詰め込み型の研修カリキュラムから、育成段階からのリ

アリティのあるまちづくり実践場面（モデルとなるプロジェクト）の導入 など

ウ) 若い世代や無関心層のまちづくりへの参加促進

- ・若者や、まちづくりに無関心な人が参加したくなる、楽しくわかりやすいまちづくり活動の実践 など

エ) 就業へのチャレンジ意欲が高い人材の育成

- ・就業へのチャレンジ意欲が高い人向けのセミナー・講座の実施 など

② 次代を担う子ども・若者の教育環境づくり（社会面）

ア) 多様な人材が関わる学校教育の充実

- ・学校教育現場における、高齢者や地域のまちづくりリーダーの活用
- ・学校教育現場における、地域の既存団体（経済団体・女性団体・スポーツ団体など）やNPOの活用 など

イ) 学校教育、家庭教育、地域教育が連携した次世代育成の推進

- ・中学校区学園化構想の推進
- ・学校、家庭、地域を結びつけるキーパーソンとなる人材の掘り起し・育成 など

ウ) 地域と世界を体験できる交流機会の充実

- ・地域を学び、地域住民等と交流を深める教育プログラムの導入
- ・姉妹都市などにおける海外体験・現地交流プログラムの充実 など

③ 地域資源を生かした心豊かなひとづくり（社会面・環境面）

ア) 人生や暮らしに潤いをもたらす文化に携わる市民の増加

- ・地域の歴史・文化を楽しく学べるプログラムの導入
- ・市民の誰もが参加しやすい学習機会の提供、学びを通じた生きがいつくり など

イ) 特色ある地域の自然や産業、伝統、文化を継承する担い手の育成

- ・地域が有する貴重な自然資源を守り、引き継いでいくための、家庭、学校、地域、企業等の場における環境教育・環境学習の推進
- ・地域住民やNPO等が主体となった、地域資源を生かした観光・交流プログラムの導入 など

ウ) 地域の人や文化を活用した豊かな人づくりの推進

- ・地域での体験活動・体験学習の導入など、実践的な道德教育の推進
- ・地域の伝統文化を継承・普及する活動団体への支援の充実 など

第 2 部 基本構想

第1章 まちづくりの基本理念と将来像

1. まちづくりの基本理念

(1) まちづくりの基本理念の検討

平成25年(2013年)4月に本市のまちづくりに関する最高規範として、「掛川市自治基本条例」が施行されています。第2次掛川市総合計画は、自治基本条例に基づき策定しますので、まちづくりの基本的な考え方となる基本理念や将来像は、自治基本条例と共通した考え方を示すこととします。

(2) まちづくりの基本理念の内容

自治基本条例では、掛川をさらに成長させ、成熟した社会を構築するために、市民主体のまちづくりの実現を目指し、「協働のまちづくり」を進めることとしています。その基本的考え方は、市民等が等しく主体的に参加できることと生涯学習都市宣言の理念に基づくまちづくりを行うことにあります。また、協働のまちづくりを進めるためのキーワードとして、①情報共有、②参画、③協働を基本原則としています。

【基本理念】

「協働のまちづくり」

- 市民誰もが等しく参加できるまちづくり
- 地域の歴史や文化を尊重し、生涯学習都市宣言の理念に基づくまちづくり

「キーワード」

- ① **情報共有** まちづくりに関する情報を市民共有の財産と捉え、市民や市議会、行政は意識的かつ積極的に情報を提供するとともに把握し、お互いに情報共有を図りながらまちづくりを進めます。
- ② **参画** まちづくりの主体である市民が市政に主体的に関わり、市民参画によりまちづくりを進めます。
- ③ **協働** 自助・共助・公助の考え方を根底としつつ、多様化する市民ニーズや公共的課題を解決するため、市民や市議会、行政がお互いに尊重し合い、同じ目的のために対等な立場で連携や協力をする「協働」によりまちづくりを進めます。

2. 掛川市の将来像

【掛川市の将来像】

希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川

自治基本条例では、市民自治によるまちづくりの実現により創造する掛川の姿を「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち」としています。

第1次総合計画では、新市の融合と多彩な地域資源や歴史文化を土台とした本市の飛躍、さらには市民の「夢」を実現し希望ある「未来」を創造していくことができるまちの実現を目指し、「海と山と街道がつながり、夢・未来を創るまち」を将来像に掲げてきました。第1次計画の将来像の実現に向けたこれまでの取組の成果を踏まえつつ、社会状況の変化を捉え、今後の本市の将来像は、自治基本条例に掲げた目指すまちの姿と整合させ、「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」とします。

「希望が見えるまち」とは、いつでも、誰でも、何回でも、自分の夢や目標に向かって、主体的に行動することができる土壌のあるまちを意味しています。「誰もが住みたくなるまち」とは、“ここはいいまちだ”と心豊かに住まう人がいて、人や環境や暮らしの中に“住んでみたい”と思わせる魅力があるまちを意味しています。

「希望」は未来に向かう原動力です。人々が希望をもって活躍するためには、豊かな環境が整うことが必要です。活躍する市民が増えることで、地域の活性化に繋がります。子どもや若者が夢や希望を抱けるようなまちづくりを目指します。

第2章 将来人口

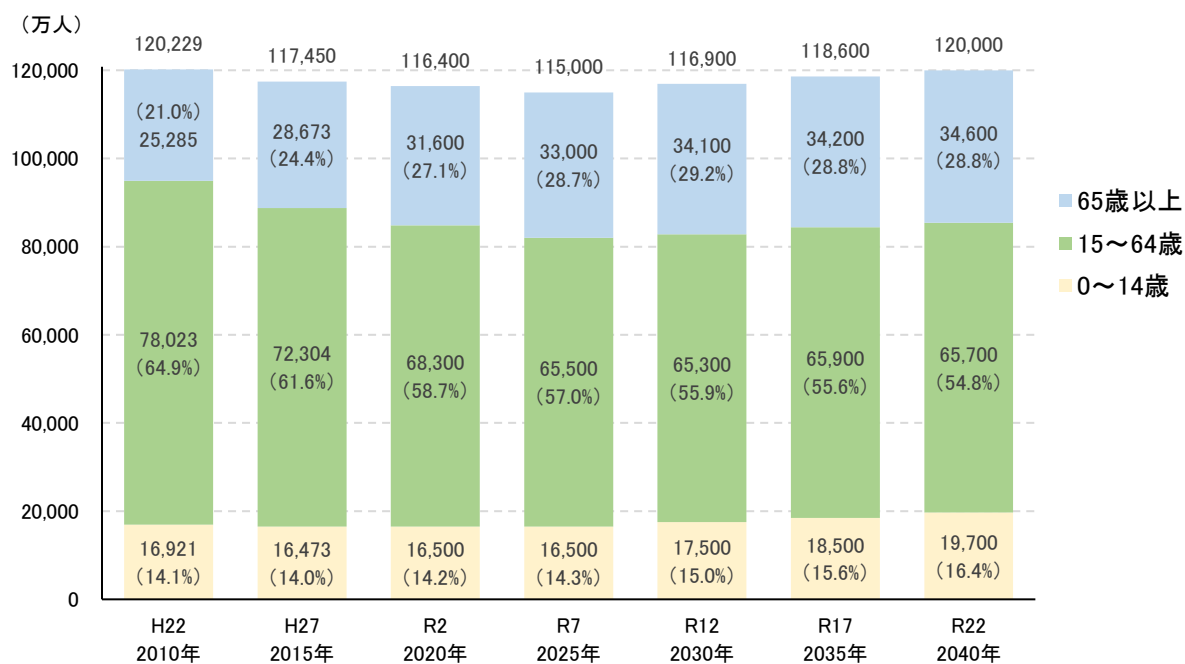
(1) 将来人口の目標値

将来人口	持続発展可能な掛川市を目指し、 2040年に人口12万人 を達成するために・・・ 令和7年(2025年)の目標人口 115,000人
将来人口構成	年少人口15%以上、高齢人口25%以下のまちを目指して・・・ 令和7年(2025年)の目標人口構成は 年少人口(0～14歳) 14.4%以上 生産年齢人口(15～64歳) 56.9%以上 高齢人口(65歳以上) 28.7%以下

本市は、将来に向けて、社会的にも経済的にも環境的にも持続発展していくために、「協働のまちづくり」を推進していきます。「協働のまちづくり」のためには、お互いに支え合い、役立ち合える繋がりづくりが必要です。

本格的な人口減少社会が到来するなか、協働のまちづくりと行政運営の効率化を見据え、その変化の中にあっても本市を発展させていくため、2040年に人口を12万人と設定し、様々な取組を進めた成果として、計画期間(2016～2025年度)における目標人口を115,000人とします。

掛川市 将来人口(年齢3区分)



第3章 土地利用構想

今後の本市の土地利用においては、人口減少や産業構造の変化、グローバル化の時代を見据え、豊かな自然や整序ある都市基盤の維持形成がなされるよう、国の国土づくりの指針である「国土形成計画」の内容を踏まえ、次のような方針に沿って、総合的かつ計画的な土地利用を進めていくものとします。

(1) 自然環境との共生

森林、河川、海岸など、本市の生態系を支える中心的な自然環境を保全し、かけがえない地域資源を良好な状態で次世代へ譲り渡していくこととします。優れた自然環境に対しては、保全と適正管理を実施するとともに、自然環境を利用する場合は、自然生態系の維持に努め、自然環境と共生した土地利用を進めます。

(2) 田園環境との調和

本市では、里山、谷田、海岸砂地などの自然環境を活用して茶畑、水田、施設園芸などが営まれ、特色ある農業と個性的なふるさと景観を生み出してきました。地域の特徴的な農業や景観を尊重し、田園環境と調和した土地利用を進めます。

(3) 歴史と文化の尊重

本市は、城下町、宿場町として発展してきた歴史があります。掛川城、高天神城、横須賀城、日坂宿などをはじめとする歴史・文化的資源を尊重し、郷土への愛着や誇りが育まれるように、地域独自の歴史文化と調和した土地利用を進めます。

(4) 質の高い生活環境の形成

地震や豪雨などの自然災害に強いまちになるよう、防災機能を重視した土地利用を実現するとともに、市民が安全・安心に暮らすことができるように、快適で機能的な市街地形成に努め、質の高い生活環境に向けた土地利用を進めます。

(5) 調和と効率化への貢献

商業施設の郊外進出や宅地の無秩序な拡大は、周辺環境との調和に悪影響を及ぼすばかりでなく、中心市街地の衰退をもたらします。中心市街地から農山村地域に至るまで、調和とバランスの取れたまちづくりを実現するため、商業機能や居住機能の計画的な誘導を図るとともに既存市街地の高度利用と機能集積を促し、効率化な行政経営にも貢献する土地利用を進めます。

(6) 国土軸の有効活用

市域のほぼ中央部を JR 東海道新幹線や東名高速道路といった国土軸が横断し、市北部には新東名高速道路が横断しています。さらに近接した位置に御前崎港や富士山静岡空港が立地しています。産業集積や活発な交流により地域の発展に繋げるため、市域の南北軸と国土軸との連携を図り、国土軸を有効活用する土地利用を進めます。

第4章 戦略方針

「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち」を実現するため、20～30年後の本市の将来を見据えたとき、今後10年間に取り組むべき政策を戦略方針として掲げ、まちづくりを推進していきます。

1. 戦略目標

40年以上続いた少子化を克服し、人口減少を抑制するとともに、持続発展可能なまちづくりを推進することが必要です。そのため、20～30年後の本市の将来を見据え、かつ掛川らしい政策の方向性を示すため、本市では、戦略目標として次の3つの分野において日本一を掲げます。

(1) 教育・文化分野

掛川のまちを誇れる人を育むことが重要です。

掛川市民に広く浸透している報徳や生涯学習の考え方を基礎として、市民総ぐるみで教育に取り組むとともに、掛川文化の振興により、市民の夢と希望を醸成し、心豊かな人づくりにつながる施策を展開します。

(2) 健康・子育て分野

掛川のまちで充実した暮らしを送れることが重要です。

掛川市民が健康を維持し生きがいを持って生活できることを基本として、地域医療連携体制を充実し、健康長寿の市民が多いまちづくりを推進するとともに、子どもを生み育てることが可能な環境を整え、子育てにやさしいまちづくりを推進し、健やかなくらしづくりにつながる施策を展開します。

(3) 環境分野

掛川が住み心地の良いまちであることが重要です。

掛川市民が安全と安心を実感できることを基本とし、潤いある自然環境や穏やかな生活環境、充実した都市基盤環境を整備し、住み続けたいまちづくりにつながる施策を展開します。

また、施策を推進するにあたっては、あらゆる面で、協働と広域連携の視点を考慮することとします。

■ **協働** 持続発展可能なまちづくりを推進するための協働の視点として、「産(産業)・学(大学等)・金(金融機関)・民(市民)・公(NPO・社福等)・官(国や県)・市」の7つの強みを生かした連携を推進していきます。

■ **広域連携** 「ひと」や「しごと」の流れがひとつの市の中で完結するものではないことを踏まえ、経営資源の流れを広域的に捉え、本市が周辺地域とともに発展していけるよう、有効な連携を推進していきます。

2. 戦略

令和の時代になり、人生 100 年時代やテクノロジーの急激な進化による Society5.0 の到来、SDGs の推進等、平成の時代以上に大きな変革が起きつつあります。また、少子化や高齢化、外国人の流入増加が進む中、すべての人に優しくサステナブル（持続可能）なまちであり続けるために、国籍、性別、年齢、生き方、暮らし方の多様性を認め合い、広域連携、官民連携等の様々な連携により、課題解決を図っていく必要があります。

そのため、20 年後の掛川市を見据えた戦略目標と方向性を踏まえ、経営資源となる情報の活用や資本の流入を促すよう、以下の戦略をたて、人口増を目指した施策を推進していきます。

（1）生涯にわたりこころざし高く学び心豊かに暮らすまち（教育・文化分野）

- ・多様性を認める教育、知識を活用する教育を進めることで、グローバルに活躍できる人材を育成します。
- ・豊かな感性や創造性を育むことで教養を培い、生涯にわたって学び、何度でもチャレンジできる環境づくりを推進します。
- ・掛川らしい文化を創造し、発信することで、文化芸術活動の気運を醸成します。
- ・歴史・文化的資源を尊重し、活用を図ることで郷土への愛着や誇りを育みます。

①グローバル人材の育成

②生涯にわたる学びの推進

③文化の創造・発信

④文化財の活用

（2）誰もが健やかでいきいきとした暮らしをともにつくるまち

（健康・子育て・福祉分野）

- ・若い世代が安心して働ける職場を実現し、家庭を築ける環境を整備するとともに、市民、企業、行政が連携し、市民総ぐるみで次世代を育成する体制と環境を整え、結婚、出産、子育てについて希望を持つことができる地域づくりを推進します。
- ・多世代の交流をすすめ、何歳になっても健康で生きがいを持って生活できる環境づくりを推進するため、ふくしあを中心とした地域包括ケアシステムの拡充を行います。
- ・健康増進のための予防活動が盛んになる将来に向け、健康管理体制の充実に努め、保健・医療・福祉機能の連携を推進します。

①市民総ぐるみで次世代の育成

②健康寿命の延伸

③地域包括ケアシステムの拡充

④多世代の交流

⑤健康管理体制の充実

(3) 美しい自然環境と共生し、エネルギーの地産地消と資源循環を実現した持続可能なまち

(環境分野)

- ・山・里・川・海の自然豊かな美しい自然環境は本市の大切な資源であり、市民、企業、行政の協働により継続的に保全します。
- ・地球環境の保全に配慮し、地域循環共生圏の視点で資源循環や脱炭素社会の実現を目指します。
- ・再生可能エネルギーの普及と省エネルギーの推進により、再生可能エネルギーの地産地消を目指します。

①自然環境の保全

②資源循環の実現

③脱炭素社会の実現

(4) ホスピタリティによる賑わいと活力ある産業を生み出す、世界に誇れるお茶のまち

(産業・経済分野)

- ・地域の魅力を磨き、市民総ぐるみでシティプロモーションを行うことで、関係人口や交流人口等の増加を目指します。
- ・新たな事業を開拓する企業や起業を支援し、多くのイノベーションを生み出します。
- ・地域内で人やものが繋がり、活力ある産業を中心に経済循環可能なまちを目指します。
- ・どの世代でも、誰でも働きやすい環境を実現します。
- ・地域の特性を生かした力強い農業と儲かる茶業を推進します。

①関係人口や交流人口の拡大

②イノベーションに向けた産業の開拓や起業の支援

③ヒト・モノ・コトが集まる活力ある産業の支援

④誰でも働きやすい環境の実現

⑤力強い農業と儲かる茶業の推進

(5) 災害に強く安全で安心な暮らしを支える基盤を整えたまち

(安全・安心・都市基盤分野)

- ・大規模自然災害に備え、地域防災体制の強化、地震、津波、風水害等への対策の充実により、自然災害死亡者ゼロを目指した防災対策を推進します。
- ・持続的に発展し、豊かな自然や各地域が育んできたコミュニティ、歴史・文化、産業を守るため、多極ネットワーク型コンパクトシティを目指します。
- ・将来の自動運転等の実用化を見据え、移動手段を最適化し、誰もが安心して移動できるまちを目指します。

①安全・安心のまちづくり

②多極ネットワーク型コンパクトシティの実現

③移動手段の最適化

(6) 協働と連携によりふれあい豊かな地域社会を創り、世界と繋がるまち

(協働・広域・行財政分野)

- ・市民がまちづくりに積極的に参画する協働のまちづくりを推進するとともに、グローバル化を目指し、国籍、性別等の多様性を認めあう、ふれあい豊かな地域社会を築きます。
- ・効率的な行政運営を実現するとともに、市民満足度の高いサービスを提供するため、情報通信技術（ICT）の有効活用や、広域的課題に対する行政の広域連携、民間の得意分野を生かす官民連携等の様々な連携を進めます。
- ・既存の公共施設等のあり方を見直し、市民ニーズに即した形にしていくことで、行政サービスを最適かつ持続可能なものとすることを目指します。

①多様性を認めあう地域社会の構築

②ICT環境を活用したスマート自治体の推進

③広域連携や官民連携の推進

④公共施設等の適正化の推進

第3部 基本計画

■基本計画の構成

第1章 計画策定の基本的考え方

第2章 戦略目標

第3章 個別施策

第4章 計画の推進にあたって

第1章 計画策定の基本的考え方

第1節 基本計画策定の視点

1 少子高齢・人口減少社会に立ち向かう戦略的施策集

一般的に、従来の総合計画はまちづくりに関わる施策を網羅的に示したものであり、掲載された施策の優先順位がわかりにくいというケースも多くありました。

また、少子高齢・人口減少社会の到来する中、「人」「もの」「財源」等の経営資源は安易に増加を期待できない状況にあります。

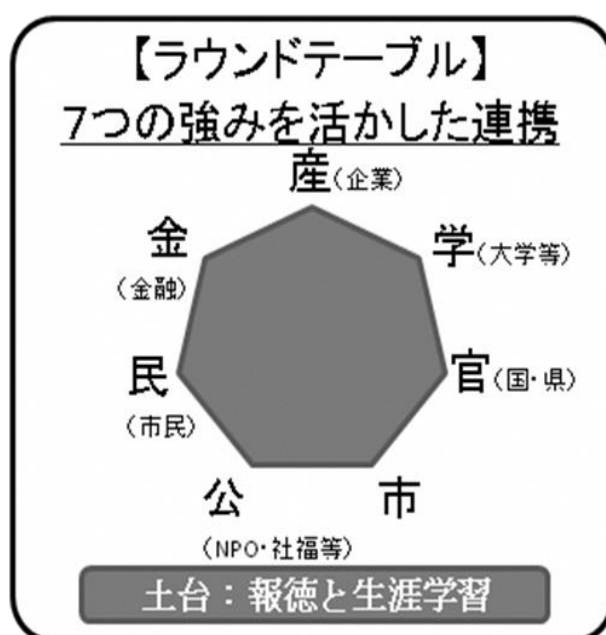
そのため、まちの将来を見据え、重点的に取り組むべき施策に注力していくことが従来よりもなお一層求められています。

第2次総合計画基本計画は、従来の網羅的な施策集から脱却し、限られた経営資源を有効に活用し、真に必要な施策を選択する戦略的施策集として策定します。

2 掛川流「協働力」の発揮

本市では、これまでも「希望の丘」プラン、海岸防災林強化事業、地域健康医療支援センター「ふくしあ」等、様々な関係者との連携による「協働力」を発揮することで成果を上げてきました。

「協働のまちづくり」を基本理念とし、企業、大学等、金融機関、市民、NPO法人等の非営利団体、国や県及び市が連携し、掛川市の将来像「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」の実現を目指します。



3 人生 100 年時代に向かって

全国的な傾向と同様に、本市においても健康寿命が延伸し、「人生 100 年時代」を迎えることが予測され、子どもから高齢者まで全ての市民が元気に活躍し、安心して暮らすことのできる社会づくりが求められます。

本計画では、市民一人ひとりが価値観やライフスタイルに応じた働き方や暮らし方、学び方を選択でき、生涯自立して豊かに生きていくことを目指していきます。

4 新たな時代の流れを活力に変える

Society 5.0 の実現に向けた技術の進展やインバウンド需要の高まり、国際社会に貢献する SDGs の取組など、令和時代のスタートとともに取り巻く環境が急速に変化しています。また、入管法の改正による外国人住民の増加等により、地域社会に与える影響も大きくなっています。

本計画では、これらの変化に適応しつつ、地域課題の解決に活かしていく視点を持つことで、本市が持続的に発展する活力を生み出していきます。

第2節 基本計画の体系

戦略目標の3つの分野において、日本一となることを目指し、各種施策推進を図ることにより、掛川市の将来像「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」の実現を図ります。

また、目標の達成のために、目指す姿について整理します。

1 戦略目標（3つの日本一）

掛川市の将来像を実現するため、戦略目標の3つの分野について日本一を目指します。

2 戦略の柱（6本）

戦略目標である3つの日本一を目指し、20年後の掛川市を見据え、取り組むべき戦略の柱を位置づけ、達成状況を図るための指標を設定します。

3 個別施策

専門性を生かして分類した施策ごとに、20年先を見据えた施策展開の考え方を提示し、目指す姿を掲げます。

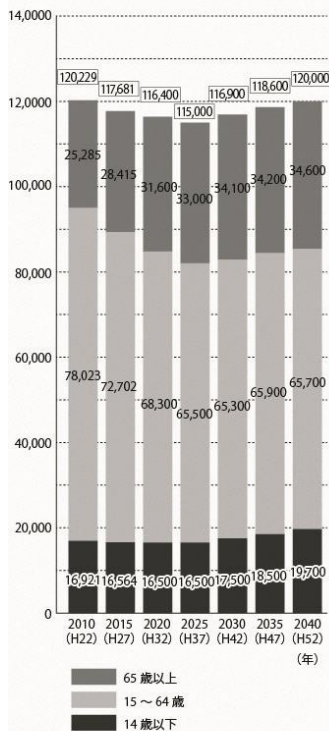
また、今後6年間に取り組むべき具体的な事業についても整理します。

■ 体系図

戦略の柱



掛川市の将来人口(年齢3区分)



将来像

希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川

1 教育・文化分野

生涯にわたり
こころざし高く学び
心豊かに暮らすまち

2 健康・子育て・福祉分野

誰もが健やかで
いきいきとした暮らしを
ともにつくるまち

3 環境分野

美しい自然環境と共生し、
エネルギーの地産地消と資源循環を
実現した持続可能なまち

4 産業・経済分野

ホスピタリティによる賑わいと
活力ある産業を生み出す、
世界に誇れるお茶のまち

5 安全・安心・都市基盤分野

災害に強く
安全で安心な暮らしを
支える基盤を整えたまち

6 協働・広域・行財政分野

協働と連携により
ふれあい豊かな
地域社会を創り、世界と繋がるまち

令和2年度～令和7年度の6年間で取り組むこと

個別施策

- 1-① 市民総ぐるみで取り組む心豊かにたくましく生きる子どもの育成
- 1-② 市民の生涯学習の拠点づくり
- 1-③ 郷土の文化の保存と市民の文化芸術活動の振興
- 1-④ 誰もがスポーツを楽しめる環境の整備
- 2-① 家庭・地域・企業の子育て力の向上
- 2-② 安心して出産・子育てできる環境の整備
- 2-③ 家庭・地域・職場ぐるみの健康づくりの推進
- 2-④ 誰もが安心して医療を受けられる環境の整備
- 2-⑤ 高齢者が生き生きと暮らせる環境づくりの推進
- 2-⑥ 障がいのある人の自立した生活の支援の充実
- 2-⑦ 地域で支えあう福祉活動の推進と人権の尊重
- 3-① 省エネ・省資源、再生可能エネルギー普及の促進
- 3-② 誰もが集える身近な公園・緑地の充実
- 3-③ 美しい森林や海岸等の保全と活用の推進
- 3-④ 清流が流れ、市民が水と触れ合える環境の整備
- 3-⑤ お互いが快適に暮らせる生活環境の確保
- 3-⑥ 安全な水を安定して供給できる水道事業の推進
- 4-① 地域資源を活かした体験交流型、広域連携型観光の推進
- 4-② 協働によるシティプロモーションと移住・定住の推進
- 4-③ みんなが働ける雇用・就業の環境づくりの推進
- 4-④ 掛川にしごとをつくる商工業の更なる発展
- 4-⑤ 多様な担い手による力強い農業ビジネスの確立
- 4-⑥ 世界に誇れる「お茶のまち」であるために諸かる茶業と「掛川茶」を楽しむ環境づくり
- 5-① 自助・共助・公助による防災・減災対策の強化
- 5-② 災害に強い住宅や都市基盤施設等の整備
- 5-③ 消防救急の迅速化・高度化の推進
- 5-④ 交通安全と防犯の意識向上と環境整備
- 5-⑤ 人が集い、賑わいを生む中心市街地の再形成
- 5-⑥ 快適な都市環境づくりの推進
- 5-⑦ 地域の足となる公共交通の整備・利用促進
- 5-⑧ 定住を促進する良質な住宅・住宅地の供給と空き家対策の推進
- 5-⑨ 中山間地域の生活環境保全と維持
- 5-⑩ 活発な交流を支える幹線道路の整備
- 5-⑪ 歩行者も車も安全に通行できる生活道路の整備
- 5-⑫ 安全確保と長寿命化に向けた道路施設の維持管理の推進
- 6-① 多文化共生のまちづくりの推進
- 6-② 多様性に富み個性と能力を発揮できる社会の実現
- 6-③ 市民、自治組織、市民活動団体等の協働によるまちづくりの推進
- 6-④ 計画的・効率的で適正な行政経営に向けた改革の推進

第2章 戦略の柱

第1節 戦略の柱の目標

基本構想で掲げた3つの日本一を目指すための戦略の柱について指標を設定します。

1 生涯にわたりこころざし高く学び心豊かに暮らすまち

指標	現状値	最終目標 (R7年度)
子どもが健全に成長していると思う市民の割合	69.4% [R1]	80%
1年間に文化芸術の鑑賞やスポーツの観戦をした市民の割合	42.9% (文化芸術のみ) [R1]	80%
1年間に文化芸術活動やスポーツ活動をした市民の割合	11.7% (文化芸術のみ) [R1]	70%
郷土の歴史や文化に誇りと愛着を持つ市民の割合	48.9% [R1]	60%

2 誰もが健やかでいきいきとした暮らしを

とものつくるまち

指標	現状値	最終目標 (R7年度)
人口千人当たりの出生数 ^{※2}	8.17人 [H30]	9.44人
安心して子どもを産み育てられると思う市民の割合	61% [R1]	80%
子育て環境整備に満足している市民の割合	37.7% [R1]	60%
65歳以上で要介護1以下のお達者市民の割合 ^{※1}	90.5% [H30]	94%
健康で生きがいを持って暮らしていると思う市民の割合	62.5% [R1]	80%

3 美しい自然環境と共生し、エネルギーの地産地消と

資源循環を実現した持続可能なまち

指標	現状値	最終目標 (R7 年度)
清潔できれいな生活環境が保たれていると思う市民の割合	78.3% [R1]	85%
温室効果ガス排出削減量	1,481 千 t [H26]	1,300 千 t
再生可能エネルギー（電力）普及率	9.19% [R1]	14.2%

4 ホスピタリティによる賑わいと活力ある産業を生み出す、

世界に誇れるお茶のまち

指標	現状値	最終目標 (R7 年度)
観光交流客数	3,750 千人 [H30]	4,000 千人
創業支援事業計画支援実績	56 件 [H30]	延べ 400 件
有機栽培茶園の面積	5ha [H30]	140ha

5 災害に強く安全で安心な暮らしを支える

基盤を整えたまち

指標	現状値	最終目標 (R7 年度)
掛川は住みやすいところだと思う市民の割合	75.8% [R1]	85%
今後も掛川市に住みたいと思う市民の割合	82.3% [R1]	85%
通勤・通学・病院・買い物などに出かけるときに公共交通に不便を感じない市民の割合	31.5% [R1]	45%

6 協働と連携によりふれあい豊かな地域社会を創り、

世界と繋がるまち

指標	現状値	最終目標 (R7 年度)
掛川市の外国人人口	4,447 人 R1	6,500 人
人と人が信頼し助け合っていると思う市民の割合	57.9% R1	75%

※1 65歳以上で要介護1以下のお達者市民の割合

65歳以上の人口の推計値をもとに算出した割合です。

※2 人口千人当たりの出生数

令和7年(2025年)合計特殊出生率1.97を目指し、市民が希望する子ども数の実現により達成される数値目標として設定します。

第3章 個別施策



1-① 市民総ぐるみで取り組む心豊かにたくましく生きる子どもの育成

■目指す姿

- ・家庭や地域に見守られ、夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもが育っています。

■現状と課題

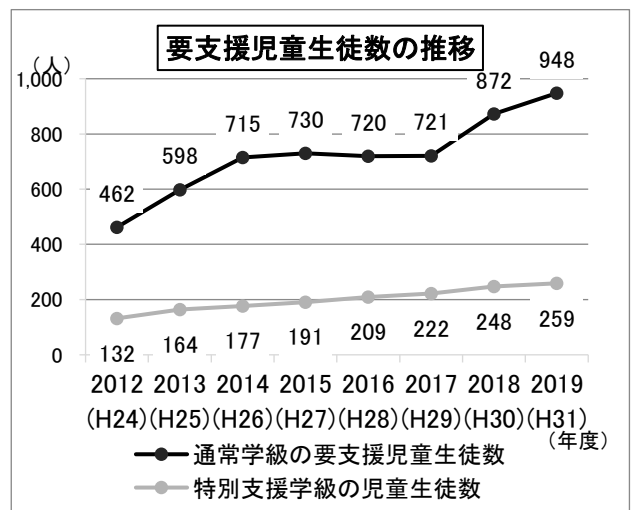
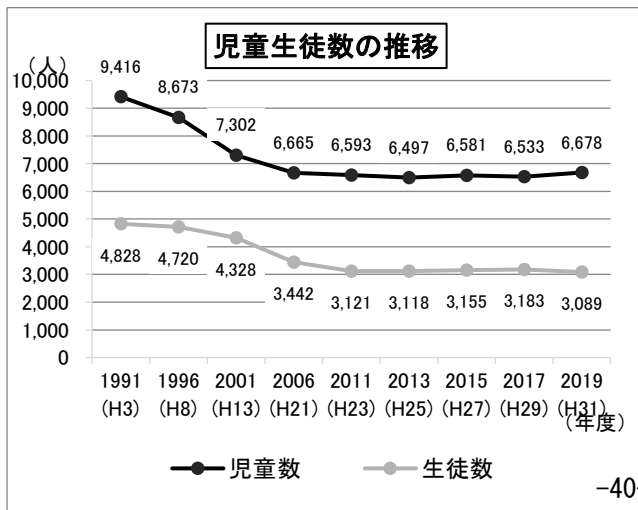
学校を取り巻く社会は急速に変化しています。世界的には戦争や紛争の危機が高まっている国・地域があり、平和教育の重要性が高まっています。また、地球温暖化に伴う風水害などの自然災害が多く発生するようになり、環境教育の充実が求められています。さらに、特別な教育的支援を要する児童・生徒の個別支援を支える人材の育成が急務であり、LGBT 等、一人一人の人権を大切に、誰一人取り残さない社会の担い手の育成も必要です。これら諸課題については、これまでも本市で大切にしてきましたが、今後も持続可能な社会の担い手を育成するため、さらなる充実を図ることが必要です。

本市では、「中学校区学園化構想」として地域の教育力を取り込み、市民総ぐるみの教育を推進してきました。平成 25 年度（2013 年度）からの取組により、園・学校、保護者、地域が一体となった教育環境が整い、子ども育成支援協議会を中心に、地域コーディネーターや学校ボランティアにより、地域とともにある学校づくりが進められています。さらに、平成 31 年（2019 年）4 月から全小中学校に学校運営協議会（コミュニティスクール）が設置され、子ども育成支援協議会と両輪となった学校支援体制の確立が期待されています。

学校教育における特徴的な取組としては、「学力向上ものがたり」等の学力向上施策を実施してきており、その結果、全国学力・学習状況調査において相対的に良好な結果が得られています。さらに、学校サポーター、外国人児童生徒等支援員、ALT、学校司書の派遣により、特別支援教育や外国語活動、読書活動等、学びの充実が図られています。一方、近年では、いじめや不登校の児童・生徒数の増加が見られており、本市では、「かけがわ道德」を生かした道德教育の充実や誰もがわかる授業を目指した「学びのユニバーサルデザイン」等、先を見通した教育施策に取り組んでいます。

今後は、次世代を担う人材の育成や本市の魅力創造のために、これからの社会に必要な資質・能力を育む小中一貫教育の推進、本市の特徴的な学校教育の充実、増加する要支援児童の特別支援教育への一層の支援体制の整備が求められます。

また、本市の児童生徒数は、少子化に伴い減少し、小学校の約半数において全学年が単学級（各学年に 1 学級しかない状況）となる等、学校の小規模化が進んでいます。さらに、学校施設は昭和 40～50 年代に建設されたものが多く、老朽化が進んでおり、順次更新時期を迎えることから、学校規模や配置の適正化について早急に検討が必要となっています。



■施策の方向

①持続可能な社会の担い手を育成するための教育の充実

人権教育、福祉教育、環境教育、平和教育など、これまでも学校教育において大切にしてきた様々な取組をさらに充実させ、持続可能な社会の担い手として豊かな未来を創造するひとの育成に努めていきます。また、プログラミング教育への取組を通し、課題発見力、論理的思考を身につけた、これからの社会に対応できる人材育成を進めていきます。

②小中一貫教育の推進に配慮した学校再編の検討

「かけがわ型小中一貫教育」を推進し、未来の子どもたちにとって望ましい教育環境を整備するため、小中学校の再編を検討します。再編にあたっては、中学校区学園化構想を基本に、地域とともにある学校の実現や少子化による児童生徒数の減少、学校施設の老朽化の対応にも考慮して、市民、地域、学校、行政等が協働で協議を進めていきます。

③特別支援教育の体制の強化

特別な支援を必要とする児童生徒が在籍している小中学校に、学校サポーターや特別支援介助士を派遣し、児童生徒の学習・生活等を支援していますが、特別な支援を必要とする児童生徒が年々増加傾向にあるため、スキルアップのためのサポーターの研修の実施やサポーターの増員等、支援体制を強化します。

④「かけがわ型スキル」を重視した確かな学力の向上と、豊かな人間性と創造性を備えた児童・生徒の育成

思考力・判断力・表現力等「確かな学力」を備えた子どもを育成するため、研究・発表の場を設けるとともに、「かけがわ型スキル※」や「学びのユニバーサルデザイン※」を重視した授業改善や外国語活動の一層の推進に努めます。

また、学校図書館の活用推進を図るとともに、情報活用能力を育むために、授業で活用できる ICT 環境を整備します。さらに、新かけがわスタンダード※を活用した外国語教育を推進し、コミュニケーション能力の向上を図ります。その上で、「学力向上ものがたり※」の成果について学校・家庭・地域に向けて積極的な情報提供を行います。

あわせて、楽しい授業を推進するとともに、いじめがなく、他者への思いやりの心をもった児童・生徒の育成を目指した指導の充実を図ります。

※かけがわ型スキル…これからのグローバル社会を生き抜くために求められる思考力や問題解決能力、人とかかわるコミュニケーション能力など、次代を担う子どもたちが身につけるべきスキルとして、本市が6項目を定めたもの。

※学びのユニバーサルデザイン…全ての人に等しく学習の機会を提供するカリキュラムを開発するための一連の原則。

※新かけがわスタンダード…小学校の英語教科化を踏まえ、外国語活動を通じて身につけさせたい表現などをまとめた本市独自の英語カリキュラム。

※学力向上ものがたり…学力について学校・家庭・地域で共通理解をするため、学力の向上に向けた理念や方法等を「ものがたり」としてまとめたもの。

⑤外国人児童生徒の教育環境の充実

外国人児童生徒の教育を充実させるため、日本語支援が必要な外国人児童生徒が在籍する小中学校に外国人児童生徒等支援員を派遣し、児童生徒の学習・生活等を支援します。

⑥学校・家庭・地域が連携した子どもを育む教育の推進

幼稚園・保育園・認定こども園・学校、家庭、地域等が連携・協働して子供を育む「地域学校協働活動」

を推進するため、各中学校区に設けられた子ども育成支援協議会の活動の充実を図るとともに、「かけがわ道徳※」を実践し、市民総ぐるみの人づくりを進めます。

また、学校運営協議会（コミュニティスクール）と子ども育成支援協議会との連携を図り、地域の声を学校運営に生かす取り組みを推進します。

※かけがわ道徳・・・郷土を誇る心を持ち、夢に向かってたくましく生きる子どもを育てるために、本市の子どもたちが地域の先人の生き方に触れ、様々な体験活動を通して自己の生き方についての考えを深める学校教育の取組。

■主要事業

事業名	事業概要
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・かけがわ型小中一貫教育カリキュラムの研究 ・各学園における特色あるカリキュラムの作成
中学校区学園化構想推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども育成支援協議会地域コーディネーターを中心とした学園支援活動
学校再編計画策定事業	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の推進や公共施設マネジメントの視点も踏まえた、小中学校再編計画の検討
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校サポーターの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの派遣による教育相談体制及び生徒指導体制の整備・充実 ・学校サポーターの派遣による、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の支援の充実
かけがわ学力向上ものがたりを活用した授業改善事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「かけがわ型スキル」や「学びのユニバーサルデザイン」を重視した授業の改善
外国人児童生徒等支援員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語支援が必要な外国人児童生徒への外国人児童生徒等支援員の派遣

1-② 市民の生涯学習の拠点づくり

■目指す姿

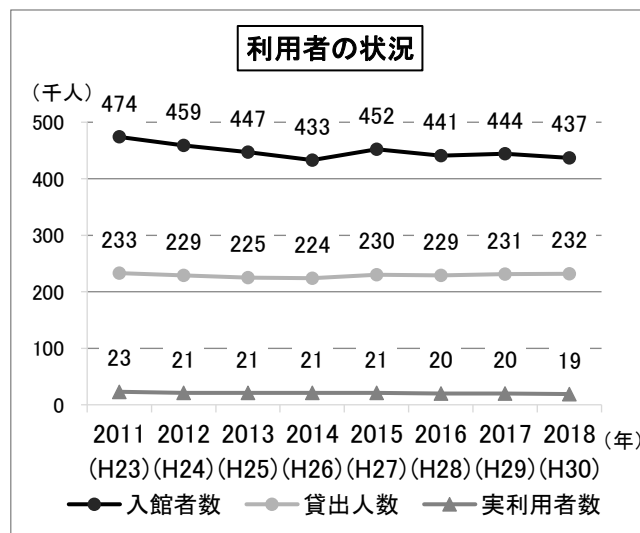
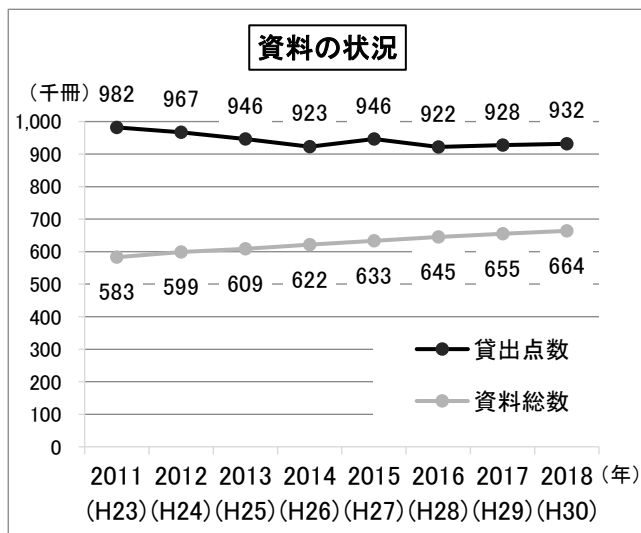
- ・市民誰もが真に充実した人生を過ごすために、必要な知識や情報を得て、暮らしとまちづくりに生かすことのできる教養と文化・情報の拠り所が整備されています。

■現状と課題

本市の図書館利用に関しては、小学生以下の子どもと60代以上の高齢者の利用が増える一方で、中高生から20～30代の若い世代の利用が減少しており、利用者サービスの量から質への転換が求められています。具体的には、図書館の利用促進のためには、子どもの頃から読書に親しむ取組が必要であると同時に、教養・文化・情報等、多様化する市民ニーズに応えられるよう、課題解決への支援体制の整備や情報提供サービスの質の向上、市民参加型の運営、各図書館それぞれの地域特性を生かした特色ある運営等を検討する必要があります。

また、郷土資料については、資料の特性から閲覧が制限され、その活用が困難な状況にあるため、所蔵する貴重な郷土資料の利活用と保存を両立する手段として、デジタルアーカイブ化による資料整備が求められています。

公民館においては、各種講座や教室を開催し、地域に根ざした学習と交流の場づくり、主体的な学習活動の促進や自主グループの育成を行っています。今後は、市民が自主的に学習活動を行うことができるよう、さらなる学習機会の充実、情報提供、学ぶ環境の整備が必要です。



西暦	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2018 -2011	増減率
資料総数(千冊)	583	599	609	622	633	645	655	664	+81	14%
貸出点数(千冊)	982	967	946	923	946	922	928	932	-50	-5%
入館者数(千人)	474	459	447	433	452	441	444	437	-37	-8%
貸出人数(千人)	233	229	225	224	230	229	231	232	-1	0%
実利用者数(千人)	23	21	21	21	21	20	20	19	-4	-17%

■施策の方向

①生涯学習機会の充実

誰でも学び直しができるリカレント教育が受けられ、学びを地域社会に還元できることや、新たなテクノロジー等を学ぶことができる環境を整えていきます。また、生きがいつくりや健康増進等のため、多様な学習機会の充実を図るほか、参加者同士の交流や自主活動、地域社会における活動等を促進します。

②図書館を活用した地域の情報の拠点づくり

市立図書館は、知の情報拠点として、蔵書の充実に努めるとともに、利用者がインターネット等で外部の情報にアクセスできる環境を提供します。また、郷土資料等については、資料のデジタルアーカイブ化を進めます。

さらに、利用者の利便性向上を図るため、貸出サービスの充実を図るとともに、予約制度や複写サービス等の運用、相互貸借制度の活用等により、資料提供手段の充実に努めます。

また、利用者の多様な資料・情報要求に的確に応えるため、読書相談、インターネット等を活用した資料の提供・紹介、地域内外の関係機関を紹介するサービスの実施等、レファレンスサービスの充実・高度化に努めます。

③市民協働による図書館の運営

市民との協働による開かれた図書館づくりを進めるため、市立図書館においてボランティア活動の場を提供し、ボランティアの自主的な活動を支援するとともに、読書や図書館の魅力の普及・啓発に努めます。

また、読書活動の推進や図書館の利用拡大、利用者の相互交流を図るため、「夜の図書館」「図書館フェスティバル」等、市民との協働による読書子ども会やイベントを開催するとともに、市民協働による図書館運営の仕組みづくりを検討していきます。

④図書館における生涯学習の推進

市立図書館は、生涯学習の拠点として、あらゆる世代に対応する資料・情報を収集し、提供します。また、展示スペースやイベント、インターネット等を活用した市民の自主的・自発的な学習活動を支援するため、各種講座や相談会、展示会等を開催します。

さらに、放送大学の普及及び、市民の情報活用能力向上のため、学習機会の提供に努めます。

⑤読書活動の推進

読書は、知識の習得や感性を磨き、表現力や創造力の向上、生き方を学ぶなど、様々な効用を期待できることから、6か月児と2歳2か月児に絵本の配布等を行うとともに、妊娠期から小・中学校、高等学校に至るまで、読み聞かせや本の選び方や与え方の指導等を行い、読書活動を推進します。

■主要事業

事業名	事業概要
子ども読書活動推進事業 (ほんわかプラン)	・掛川市子ども読書活動推進計画（掛川ほんわかプラン）第三次計画の推進
おなかの赤ちゃんとはじめての 絵本事業	・妊婦とその家族を対象にした胎児期におすすめの絵本の紹介
ブックスタート類似事業 (こんにちはえほん事業)	・6か月児相談、2歳2か月児健診時におすすめ本リストと絵本を1冊プレゼント
よみきかせ・出前講座	・園児・児童・生徒や高齢者等へのよみきかせ ・教員、ボランティア、子育て支援センター指導員、保護者等を対象にしたよみきかせ・ブックトーク等の講座の開催
学校図書館支援事業	・学校図書館や学校司書との連携ネットワークによる、学校教育支援、移動図書館、団体貸出の充実
リカレント教育事業	・大学との包括連携協定等によるリカレント教育環境の創出
放送大学事業	・市立図書館における放送大学の教材の室内視聴・貸出、スクーリング（面接授業）開催
公民館活動事業	・公民館における各種講座の開催 ・多様な学習機会や学習成果の発表の場の提供、地域の交流の場づくり
吉岡彌生記念館健康づくり推進 事業	・東京女子医科大学の協力による医学・看護等の健康セミナーや企画展等の開催

1-③ 郷土の文化の保存と市民の文化芸術活動の振興

■目指す姿

- ・市民が文化芸術に親しみ、郷土を愛し誇りに思っています。また、市民が掛川らしい文化芸術を創造しています。

■現状と課題

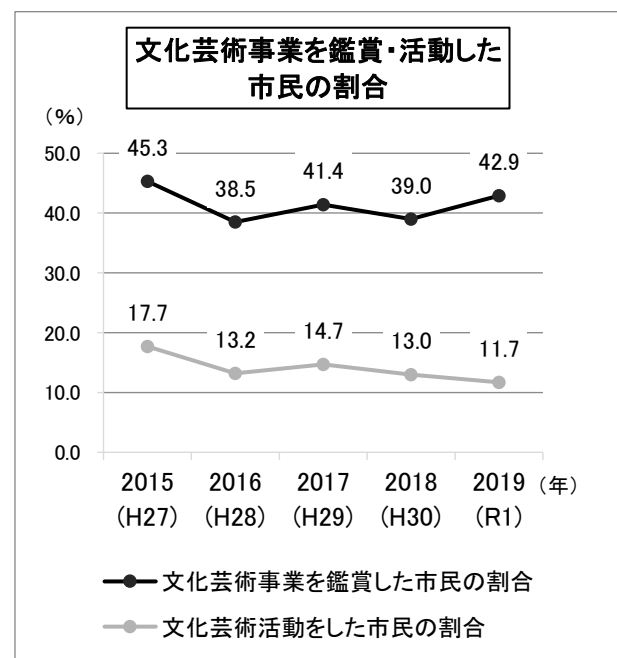
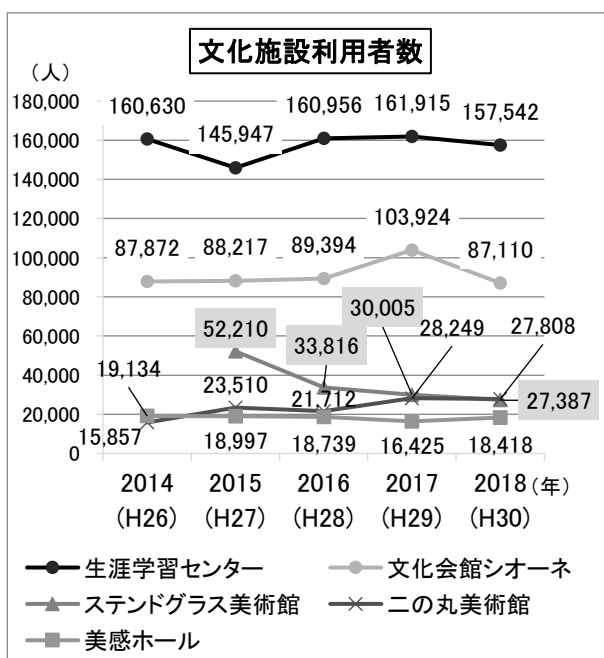
近年、茶草場農法の世界農業遺産登録や富士山の世界文化遺産登録等、日本の文化的価値が世界的に認められ、市民の文化振興の機運が高まっていることから、本市においても文化振興計画に基づき、文化振興施策に取り組んでいます。市民が様々な文化芸術に触れ、取り組める機会を創出することにより、市民の豊かな心を育むとともに、教育、福祉、観光、産業等の各分野と連携することで、文化芸術活動を通じた地域課題の解決や、人・もの・場所といった地域資源の有効活用による豊かなまちづくりが求められます。

本市は、「報徳の教え」が地域文化として根付き、全国に先駆けて生涯学習に取り組んでおり、こうした地域資源を生かした掛川らしい文化の確立と創造が求められています。

郷土の文化に親しむ機会としては、これまで進めてきた小中学校への金次郎像の設置や副読本の配布等による道徳学習のほか、各地域に受け継がれる伝統文化や生活文化、文化財を学ぶ機会を充実させ、郷土を愛し誇りに思う市民を増やしていく必要があります。

文化財の保護・保存や活用では、失われつつある貴重な文化財を調査し、その文化財の価値を明らかにし、後世に永く伝えていかなければなりません。また、文化財のもつ魅力を広く市民に紹介する機会を設け、積極的な活用を図る必要があります。

また、文化芸術に親しむ機会を増やすために、掛川市生涯学習振興公社や掛川市文化協会など関係団体や関連施設と連携し、積極的で効率的な情報発信を行うとともに、文化芸術事業の充実を図り、市民が質の高い文化芸術に触れ、新しい文化を創造する環境を整えることが求められます。



■施策の方向

①文化芸術に親しむ機会の充実

平成 29 年（2017 年）に初開催した地域芸術祭「かけがわ茶エンナーレ」をはじめ、文化芸術団体や施設が主催する事業を充実し、子どもから高齢者まで様々な市民が質の高い芸術作品に親しむ機会を増やします。

②文化芸術を創造する機会の充実

文化芸術事業でのワークショップやアウトリーチの機会を充実したり、公募型の文化事業を増やしたりすることで、市民が自ら文化芸術を創造する機会を増やします。

③文化芸術に関する積極的な情報発信

関係団体や関連施設と連携し、ネットワーク化を図ることで、文化芸術事業の積極的で効率的な情報発信を行います。

④文化芸術活動の支援

市の文化の担い手の一翼である掛川市文化協会への活動支援のほか、「かけがわ茶エンナーレ」における市民プログラムの公募など、事業企画・運営、広報、活動費助成等の支援を行います。

⑤文化財や史跡の調査・保存・活用

市民との協働で、松ヶ岡の修復事業を推進していくとともに、展示会の開催など様々な機会を通じて松ヶ岡を PR します。また、修復期間中においても、松ヶ岡を活用した事業に取り組んでいきます。

史跡調査及び史跡整備事業を実施するとともに、指定や未指定の文化財調査等を実施して、文化財の価値を明らかにしたうえで、その成果を広く市民に公開し、文化財のもつ魅力を周知します。また、開発等により破壊が免れない埋蔵文化財を、記録として残す発掘調査事業を継続して進めます。

⑥郷土の歴史と文化に関する資料の管理・活用

市内に多く残されている古文書等の文献資料や民俗資料を、総合的、体系的に管理し、資料のデジタルアーカイブ化により、より多くの人々に鑑賞の機会を増やしていきます。

⑦身近な歴史資源の保全・活用に対する支援

文化財の保護、保存、活用事業を推進している保存会等の団体に対して補助金を交付するとともに、人的支援等の方策を検討していきます。また、文化財を所持し保存する所有者に対し、適正に維持管理、保存、伝承されるよう、支援していきます。

■主要事業

事業名	事業概要
文化芸術事業の開催	・地域芸術祭「かけがわ茶エンナーレ」、市民芸術祭、将棋の公式戦等、文化芸術に関わるイベントや祭事の開催 ・公共ホールや美術館等、文化芸術施設による事業の充実
関連団体・施設ネットワーク事業	・文化芸術団体の集約・連携と参画者の拡大、シティミュージアムまるごと構想 ・文化芸術施設のネットワーク化と効率的な情報発信、文化芸術活動サポート
子どもの文化芸術活動推進事業	・伝統工芸体験教室、日展ツアー、かけがわ茶エンナーレ、将棋講座・大会等、文化芸術に親しみ、創造する機会の充実
松ヶ岡プロジェクト推進事業	・松ヶ岡修復事業の推進、松ヶ岡の PR 活動（教養館）と活用事業、寄附活動の推進 ・修復後の具体的な管理・活用計画の立案
3 史跡の整備事業	・和田岡古墳群、高天神城跡、横須賀城跡の史跡整備事業の推進
文化財の保護・保存・活用事業	・国や県、市の指定文化財の保護保存、活用事業の推進 ・「文化財保存活用地域計画」に基づく未指定文化財の悉皆調査と計画の策定 ・文化財の魅力を PR するイベントの実施
歴史・文化資料の管理・活用事業	・古文書等の歴史資料の保護、保存及び管理並びに活用事業の推進 ・歴史資料のデジタルアーカイブ化とオープンデータ化
埋蔵文化財の調査事業	・開発等により消滅する埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査事業の実施

1-④ 誰もがスポーツを楽しめる環境の整備

■目指す姿

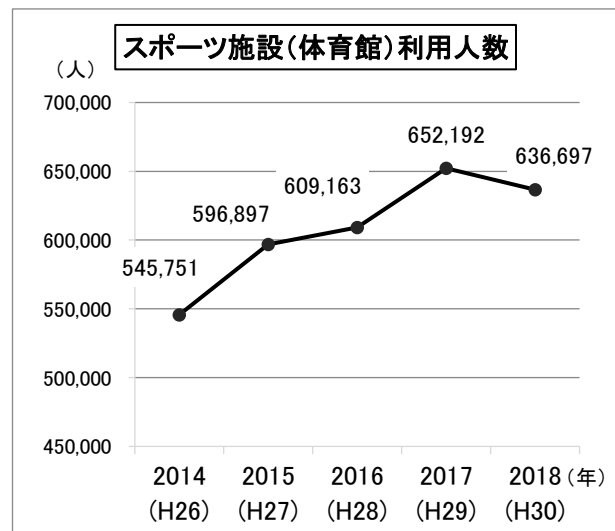
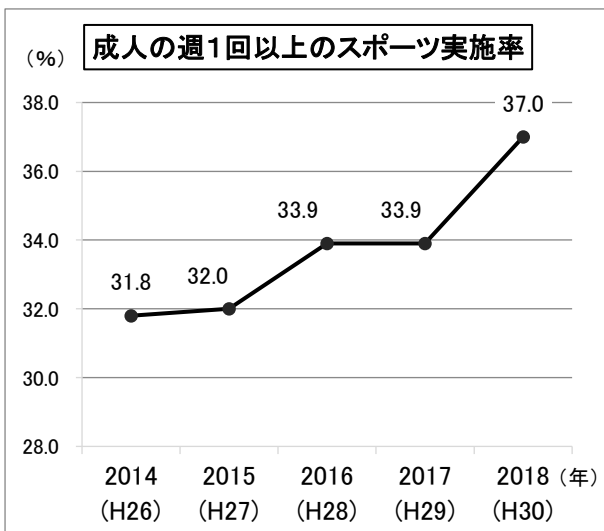
- ・子どもから高齢者まで、市民がスポーツを通じて心身の健康を維持し、楽しく気軽にスポーツに親しんでいます。

■現状と課題

平成30年度（2018年度）に実施した市民意識調査では、「週1回以上スポーツやレクリエーションをしている人の割合」は37%であり、年々上昇しているものの、まだまだ低い状況です。人生100年時代を迎え、健康日本一を目標に掲げる本市では、乳幼児期から高齢期のすべての年代において、ライフステージに応じたスポーツの機会を提供するとともに、市民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」等、様々な立場で関わりを持っていく体制を構築していく必要があります。また、気軽に参加できるスポーツイベントの開催、健康施策と連携した取組、さらには身近にトップアスリートを観る機会を創出することなどにより、スポーツ参画人口の拡大を図るために様々な施策を展開していく必要があります。今後も引き続き、市体育協会や競技団体と連携し、各種スポーツ競技大会を開催するとともに、国際大会、全国大会等で活躍できるトップアスリート育成のための支援が必要です。

スポーツ指導者については、子どもから高齢者、障がい者など、様々な市民のスポーツニーズに対応した技術指導をはじめ、スポーツの多様な楽しみ方の指導など、幅広いマネジメントができる指導者の育成が求められています。特にスポーツ推進委員については、高齢化が進んでいることから、若い世代の人材確保・育成が急務となっています。また、誰もが気軽にスポーツに参加できる場を提供できるよう、掛川市体育協会をはじめとするスポーツ関係団体相互の連携を強化するとともに、総合型地域スポーツクラブ「掛スポ」においては、市民のスポーツの受け皿として、スポーツ教室をはじめとする活動の場や市民の健康づくり、ボランティア活動、環境保全活動などの地域貢献活動をさらに充実していく必要があります。

公共スポーツ施設については、老朽化が課題とされており、今後の整備にあたっては、市民ニーズ、あるいは施設の必要性や緊急度等を踏まえ総合的かつ計画的に整備を進める必要があります。また、本市の公共スポーツ施設の運営にあたって、指定管理者制度を活用しつつ安全な管理運営を進める必要があります。学校体育施設の開放についても、学校や夜間照明管理委員会等と連携し、適正な管理運営が求められます。



■施策の方向

①スポーツ参画人口の拡大

スポーツを始めるきっかけづくり等のために、参加しやすい環境づくりや組織の育成を進め、スポーツに関するイベント等を企画し、参加機会の拡大を図ります。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の代表チームの事前合宿を誘致するなど、トップアスリート等との交流を図ることで、交流人口の拡大と地域の活性化につなげていきます。

②各種スポーツの競技力向上とアスリートの育成・支援

各種市内競技大会の開催や全国規模の大会を誘致し、市民及び市内の団体・企業等が成果を発揮できる場を提供するとともに、各種スポーツの競技力の向上を図ります。また、トップアスリートを目指す選手やオリンピック・パラリンピック等の国際大会や全国大会等に出場する選手等への支援を行います。

③スポーツ指導者、スポーツ関係団体の育成・支援

市民のスポーツ活動の多様化・高度化に対応するために、幅広い知識や教養と専門的技術指導スキルを備えた指導者を育成します。

また、掛川市体育協会をはじめとするスポーツ関係団体相互の連携を強化するとともに、総合型地域スポーツクラブの活動を支援していきます。

④スポーツ施設の整備・充実

老朽化が顕著であるスポーツ施設については、施設の必要性や緊急度、あるいは公共施設等総合管理計画や施設の長寿命化など、総合的に検討するなかで、計画的に整備を進めていきます。

また、施設管理については、指定管理者制度を活用し、利用しやすい施設となるよう努めるとともに、安全な管理運営を進めていきます。学校体育施設についても、学校や夜間照明管理委員会等と連携し、適正な管理運営を進めていきます。

■主要事業

事業名	事業概要
スポーツイベント開催事業	・市民スポーツ交流フェスティバル、マリンスポーツ体験会、ウォーキングイベントなどの市民参加型スポーツイベントや体験教室、各種競技大会等の開催 ・軽スポーツ・レクリエーションへの講師派遣指導 ・掛川総合型スポーツクラブによる各種スポーツプログラムの提供
各種スポーツ大会等開催事業	・掛川・新茶マラソン大会、城下町駅伝競争大会、都道府県対抗トランポリン大会等の開催
アスリートの育成・支援事業	・全国大会等出場報奨金の交付及びスポーツ特別表彰制度の創設
スポーツ指導者、スポーツ関係団体の育成・支援事業	・スポーツ指導者（スポーツ推進委員、海洋性レクリエーション指導員、スポーツリーダー、スポ少指導者等）の人材確保、育成と資質向上 ・スポーツ指導者研修会・講習会の開催・市内スポーツ団体、スポーツ少年団の活動支援
スポーツ施設の整備・充実に関する事業	・公共施設等総合管理計画に基づくスポーツ施設の再編整備と計画的な維持修繕

2-① 家庭・地域・企業の子育て力の向上

■目指す姿

- ・家庭と地域、企業が連携し、地域ぐるみで子育てしやすい環境が整っています。

■現状と課題

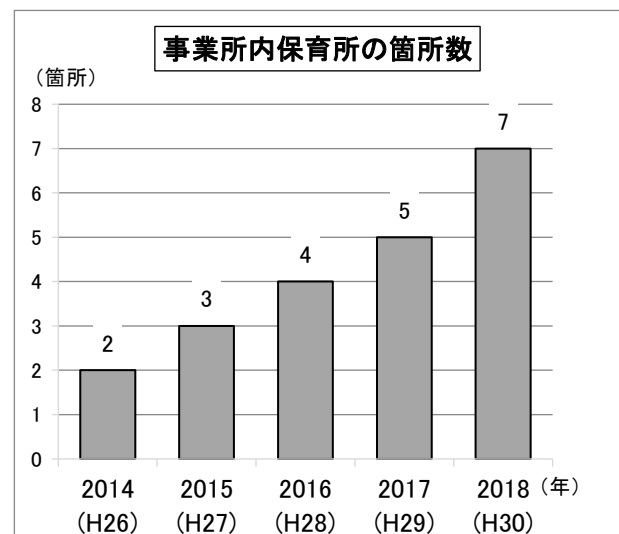
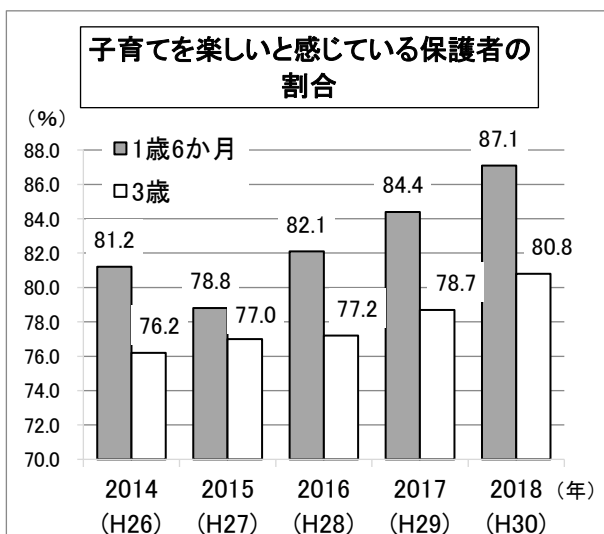
近年、少子化や人口減少が進行しており、結婚や子育て等に対する意識も変化しています。本市においても、子どもや子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化しており、企業や行政はもちろんのこと、地域ぐるみで子どもと子育て家庭を見守り、支える取組が必要となっています。

家庭では、愛着関係が薄い親子や子どもとの関わり方に悩みを持つ親の増加、共働き世帯の増加による親と子が接する時間の減少などから、子どもへの関わり方を学べる機会や子育ての不安や悩みを相談できる機会の充実、親同士の交流の促進等が求められています。また、児童虐待が増加傾向にあるなか、早い段階からの不安への対応や子育て世代包括支援センターを中心に県や医療機関等との連携強化が必要です。

地域では、つどいの広場や子育てサロン、放課後児童クラブ等の子育て事業が実施されています。さらなる子育て支援の充実には、地域の特性を踏まえつつ、それぞれ個別の組織が相互に連携し、世代間の交流を促進することが求められます。また、子どもたちの健やかな成長を育むために、学校、家庭及び地域住民等が連携し、中学校区学園化の推進を図るなかで、地域全体の教育力の向上に取り組むことが求められています。さらに、スマートフォンやインターネットの普及等の青少年を取り巻く環境の変化により、青少年と保護者の情報モラルと情報リテラシーの向上が求められています。

企業では、従業員の仕事と子育ての両立を図るため、雇用環境の整備や、多様な働き方を選択できる労働環境の整備等に取り組み、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現を目指していますが、雇用環境の整備は、十分とは言えません。本市では、子育てに優しい事業所の認定制度を創設し、両立環境の整備を進めていますが、事業所ごとの実情に合った支援や制度の周知・啓発が必要であり、引き続き、子育てしながら働き続けられる社会の実現に向けた取組が求められています。

また、全国的に生涯未婚率が上昇する一方で、結婚を希望する人が多いことから、出会いの支援が求められています。



■施策の方向

①安心して子育てできる家庭の子育て力、教育力の向上

正しい知識と親としての自覚を持ち、妊娠、出産、育児に臨めるようにセミナーや講演会を開催します。また、各乳幼児健診時に育児の楽しさに関する調査を実施し、不安に感じている保護者の相談対応を行うとともに、子育て世代包括支援センターと協働で親の子育て力の向上に努めます。

掛川流子育て応援事業として、「スキンシップのすゝめ」の普及・啓発や親子の絆事業の開催など、親子の愛着を育む取組を進めるとともに、ファミリー・サポート・センター事業については、依頼会員が利用しやすいように、提供会員の増加に努めます。また、家庭での保育力の向上に資するため、「親と子と孫」を基本とする三世同居等を支援します。

②地域や市民の主体的な子育て支援の充実

地区まちづくり協議会や市民活動団体等の主体的な子育て支援の活動を支援し、地域ぐるみで持続的に子どもの健やかな成長を支える体制の構築を推進します。

また、多様な団体がそれぞれの知識や能力を生かした先駆的な子育て支援事業を支援し、「子育ては地域全体で取り組む重要な役割」という意識の普及・啓発を図ります。

③青少年の健やかな成長の促進

青少年の非行問題の早期発見や非行防止のための補導活動を実施するとともに、インターネットの公開情報から利用状況を把握し、ネット上での個人情報流出やいじめなどのトラブルの早期発見と対応に取り組みます。また、情報モラルと情報リテラシーの向上のための啓発活動に取り組み、ネット上でのトラブルの抑止、予防を図り、青少年の良好な生活環境整備を推進します。

④子育てに優しい企業の増加促進

企業・事業所の自発的な子育て支援の取組と仕事と育児が両立しやすい職場づくりを推進するため、「子育てに優しい事業所」認定制度の普及を図ります。また、出産・育児等に関する休暇制度や子どもや孫のイベントへの参加促進等、事業者が実施する独自の子育て支援の取組を市ホームページ等で紹介することにより、子育てに優しい企業の増加につなげます。

⑤仕事と子育ての両立ができる就労環境の実現

安心して子育てができる就労環境づくりのために、社会保険労務士と市等が連携し、事業者に対するワーク・ライフ・バランスの啓発・支援や、子育て意識の高揚、育児休業の取得促進など、各事業者の状況に応じた子育てと仕事の両立環境の整備を支援します。

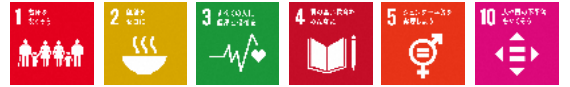
また、待機児童の解消を図り、仕事と子育てとの両立を推進するため、企業主導型保育事業を支援します。

⑥出会い・結婚の支援

結婚の希望を叶えられるよう、結婚希望者からの相談対応や情報提供などを行い、出会い等を支援します。

■主要事業

事業名	事業概要
出張！育児力アップ講座事業	・子どもの健やかな成長を促すための講座の開催
児童館・児童交流館運営事業	・児童の健康を増進し、情操を育むため、発達期に応じた健全な遊び場の提供 ・子育てサロン・サークルとの情報交換会の開催
地域子育て支援センター事業・つどいの広場事業 (地域子育て支援拠点事業)	・子育て親子の交流の場づくり ・子育てに関する相談・支援の実施 ・地域の子育て関連情報の提供及び子育て支援に関する講習会等の開催
子育てコンシェルジュ事業	・子育てコンシェルジュによる家庭訪問、電話等による相談対応 ・転入者訪問による子育て支援サービスの情報提供
「スキンシップのすゝめ」啓発事業	・子どもの愛着形成に大きく影響するスキンシップの普及・啓発
ファミリー・サポート・センター事業	・提供会員と依頼会員が一時的・短期的な相互援助を行うサービスの運営
ゆったり子育て三世代同居応援事業	・「親と子と孫」を基本とする三世代の家族が新たに同居するための住宅の新築、増改築等に要する費用の一部を助成
子育て協働モデル事業	・多様な団体がそれぞれの知識や能力を生かした先駆的な子育て支援事業の支援
中学校区学園化構想推進事業	・子ども育成支援協議会地域コーディネーターを中心とした学園支援活動
情報モラル啓発事業	・児童・生徒を対象にしたインターネットパトロールの実施 ・情報モラル向上のための啓発講座の実施
子育てに優しい事業所づくり事業	・「子育てに優しい事業所」の認定と市ホームページ等での紹介
子育てと仕事の両立環境整備事業	・市内事業所に対する社会保険労務士の派遣による、制度の周知・啓発と助言
事業所内保育所、企業主導型保育事業施設の整備推進事業	・市内事業所に対する企業主導型保育事業や事業所内保育所の開園促進 ・企業主導型保育事業や事業所内保育所を開園する事業所への支援
出会い・結婚支援	・市民・企業・市が連携し、結婚を希望する方への出会いの場の提供、結婚相談等の支援。 ・婚活サポーターへの活動支援



2-② 安心して出産・子育てできる環境の整備

■目指す姿

- ・安心して出産・子育てができるための環境が整っています。

■現状と課題

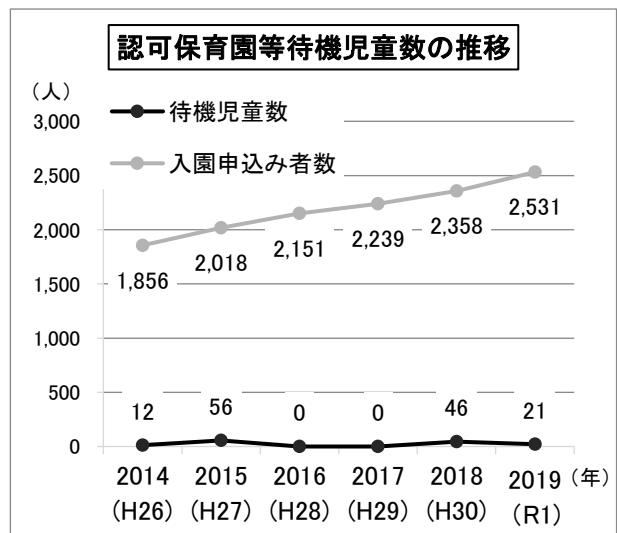
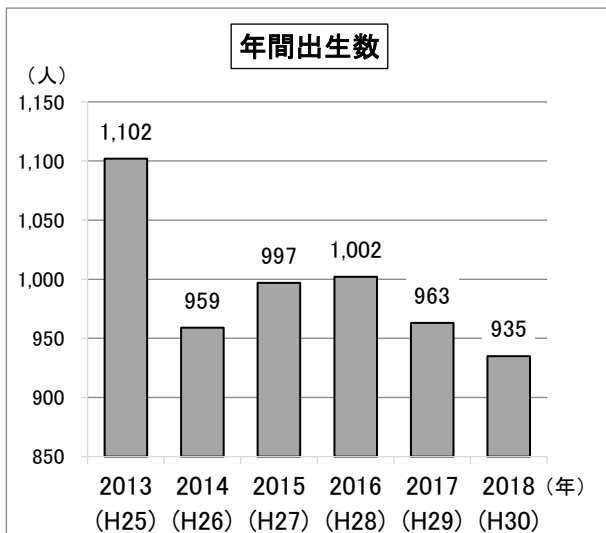
子育て世代においては、非正規雇用の増加や将来不安等により、子育て支援策として経済的な支援が求められており、本市では、子ども医療費助成対象を拡大するなどの取組を行っています。特に、ひとり親家庭や養育に支援が必要な家庭等、配慮が必要な家庭については、関係機関との連携による適切な支援が求められています。

また、核家族や共働き世帯の増加、保育の無償化等により保育ニーズが高まっています。本市では、これまで様々な事業を実施してきましたが、待機児童の解消には至っていないことから、認可保育施設の整備や保育士の確保等、待機児童の解消対策を継続していくことが必要です。さらに、教育・保育の現場では、外国籍や発達に気になる子どもなどが増えており、多様な子どもに対応する支援の充実が求められています。

また、本市には親子でつどい、遊びを通して交流を深める場、子育ての悩み等を気軽に相談できる場として、児童館・児童交流館や子育て支援センター、つどいの広場がありますが、これらの子育て支援施設が連携を深め、さらなる子育て支援の充実が求められています。

放課後における子どもたちの安全な居場所の確保については、「新・放課後子ども総合プラン」に基づき、全ての児童が多様な体験・活動を行うことができるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業の実施内容及び実施回数等の充実と計画的な整備が求められています。

また、子どもの健やかな成長や療育については、母親の不安軽減を図る、行政と関係機関が連携したスムーズな支援のほか、乳幼児健康診査の未受診者への適切な対応も求められます。一方、発達等の経過観察を必要とする子どもに対しては、療育の第一歩である発達相談や受け入れ体制の充実が必要です。また、発達に関する相談は学齢期の相談が多く、学校や行政、関係機関等の専門性のある対応や支援の連携強化が求められます。



■施策の方向

①子育て世代の経済的負担の軽減

国が実施する保育料の無償化に加え、低所得者等の給食費減免、子どもの医療費助成等により、子育て世帯の妊娠・出産・育児にかかる経済的な負担の軽減を図り、子育てに不安を感じることなく、安心して子育てできる環境を整備します。

②子育て支援施設の充実

地域の特色を生かした親子のふれあいの場が充実するよう、子育て支援センター連絡会を活用した情報共有、イベントの情報発信等の連携を図ります。また、子育て世代が集える広場等の整備を推進し、親子のふれあい、やすらぎを与える場の充実を図ります。

③幼児教育・保育サービスの充実

保育ニーズの増加に対応するため、ニーズに合った教育・保育の充実に努めます。特に、受け入れが困難になっている掛川区域において認可保育園等の施設整備を重点的に進めるとともに、公立幼稚園の今後のあり方の検討や大東大須賀区域の認定こども園化を推進します。また、お仕事応援相談会の開催や保育士等就職応援資金貸付事業の周知・啓発を図り、保育士等の人材の確保に努めます。

さらに、市内の全園参加による「かけがわ乳幼児教育未来学会」の相互交流や実践研究を実施し、幼児教育・保育の質の向上を図ります。

また、保育の無償化に伴い、幼稚園の預かり保育料や掛川協働保育園等の保育料の助成を行います。

④外国人未就園児の円滑な就園支援

外国人未就園児の把握に努めるとともに、3歳からの就園に向けて日本の文化や生活習慣を園生活の中で学び、円滑な生活ができるよう、園に配属している外国人支援員が必要に応じて支援を行い、就園につなげます。

⑤放課後等の子どもたちの安全な居場所の確保

全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業の計画的な整備等を推進します。

⑥児童虐待の防止

児童虐待に関する相談体制を整え、関係機関と連携して個々の支援に努めていきます。また今後は、各機関の連携体制のあり方について検証し、子ども家庭総合支援拠点の設置についても検討していきます。

⑦子どもの貧困対策の推進

安心した生活環境の中で子育てができるよう、子育てする貧困世帯等を適切なサービスにつなげる子どもの未来応援コーディネーターを配置するとともに、関係機関との連携を図りながら、子どもの貧困の早期発見・早期対応に努め、家庭状況にあわせた支援を進めます。

⑧ひとり親家庭の自立支援

ひとり親世帯の増加に伴い、経済的支援を必要とする世帯が増えていることから、国や県の制度に基づき、支援の拡充などを検討していきます。

⑨子どもの健全な成長・発達の支援

言葉の発達に遅れのある就学前の幼児が、日常生活で必要なことばを正しく使用できるように指導訓練を行い、幼児の健全な成長・発達を促します。

■主要事業

事業名	事業概要
協働保育園等保育料助成事業	・認可保育園への入所要件を満たしながらも掛川協働保育園等に入所した世帯に対する助成
児童館・児童交流館運営事業 (再掲)	・児童の健康を増進し、情操を育てるため、発達期に応じた健全な遊び場の提供 ・子育てサロン・サークルとの情報交換会の開催
地域子育て支援センター事業・ つどいの広場事業(地域子育て 支援拠点事業)(再掲)	・子育て親子の交流の場づくり ・子育てに関する相談・支援の実施 ・地域の子育て関連情報の提供及び子育て支援に関する講習会等の開催
子育て世代向け住宅供給事業	・子育てに適した住宅の認定基準に適合した住宅の新築や増改築等に対する補助
かけがわ乳幼児教育未来学会推 進事業	・乳幼児教育や保育の質の向上を図るための実践研究や保育者等の相互の交流・連携
保育士等就職応援資金貸与事業	・市内の保育所等に勤務しようとする方を対象とした就職応援資金の貸付け
外国人支援員の配置	・外国人の園児・保護者に対して、必要に応じたサポートを行う支援員の配置
家庭児童相談・訪問支援事業	・家庭児童相談員による子どもに関する悩みに対する相談指導及び訪問等
子どもの貧困対策事業	・掛川市子どもの貧困対策計画に基づく個別施策の整備、充実及び必要な事業の検討
子どもの未来応援コーディネ ーターの配置	・子どもの貧困に関する相談体制の充実 ・子どもの貧困対策に関する各機関からの情報の集約と適切なサービスをつなぐネットワークの構築
掛川市発達相談支援センター のびる～む運営事業	・発達支援に関する相談、関係支援機関等との調整・連携、啓発及び交流スペース「のびっこ」の運営
幼児ことばの教室	・言葉の発達に遅れのある幼児とその保護者を対象にした指導訓練
母子手帳交付・妊婦相談	・妊娠届出書提出時における母子手帳等の交付 ・妊娠・出産・育児に関する相談対応及び知識の普及を図るための面談の実施
妊産婦健康診査	・安全な出産と産後うつ予防のため妊産婦健康診査の受診に対する助成
乳児家庭全戸訪問事業	・本市で出生したすべての母児を対象とする、健康状態や生活状況の把握及び育児や健康についての相談・助言
未受診者対策事業	・各乳幼児健診未受診者への受診の勧奨及び所在や養育状況の把握

2-③ 家族・地域・職場ぐるみの健康づくりの推進

■目指す姿

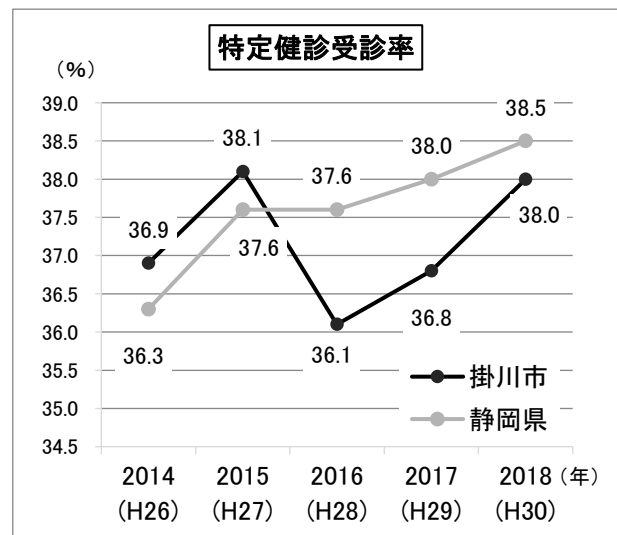
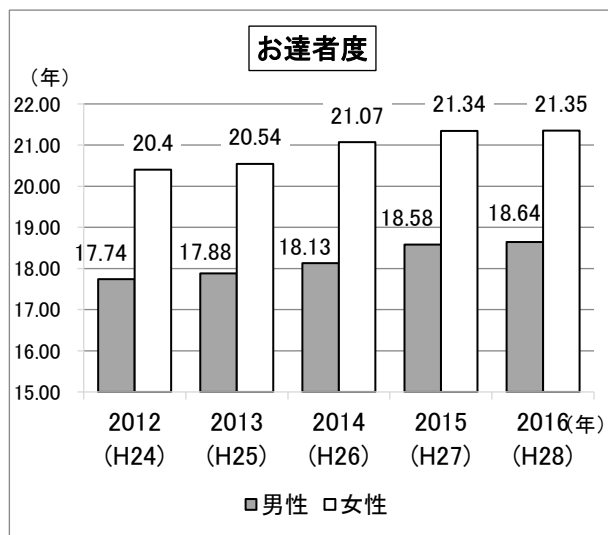
- 健康や医療に関する意識・知識が高まり、家庭・地域・職場ぐるみの健康づくりが行われ、多くの市民が健康に暮らしています。

■現状と課題

健康寿命のさらなる延伸を図り、お達者度を向上させるためには、家庭・地域・職場ぐるみで健康づくりを実践していくことが求められています。「生涯お達者市民が大勢いるまち」を目指すため、市民総参加の健康づくりである「かけがわ生涯お達者市民推進プロジェクト」を継続的に推進するとともに、協働のまちづくり活動の中での健康増進事業や食育の推進が求められています。

現状では、朝食を食べない、運動習慣がないなど、望ましい生活習慣を獲得できていない人が多いため、健康や医療に関する市民の意識と知識を高めていくことが求められています。「みんなの健康はみんなで守る」ことができるよう、「かけがわ生涯お達者市民推進プラン」に基づき、「食事」「運動」「健診」「社会参加」を市民に呼びかけるとともに、相談・予防教育事業を強化し、健診及び保健指導体制の充実を図っていく必要があります。

また、健康分野の産業育成を図るため、健康増進を図る新たなビジネスモデルの構築を支援することや、健康課題解決に向けた、ビジネスモデル研究に関わるフィールドの提供が必要です。さらに、健康経営の支援を進めるとともに、健康づくりを応援する事業所や飲食店の支援・拡大を図り、企業の生産性や収益性の向上につなげていくことが求められます。



■施策の方向

①かけがわ生涯お達者市民推進プロジェクト

市民の願いである「最期まで住み慣れた地域で、健康で生きがいを持って生活し続けること」を叶えるために、健康長寿の推進を図り、お達者度県下一を目指します。

②まちづくり活動の中での健康増進事業の推進

まちづくり協議会による健康づくり活動の取組を支援するために、出張健康講座(地域・企業・各種団体)

を開催します。

③健康づくり・食育の推進

保健活動推進委員会が各地区の活動計画を実施し、研修会や講習会を開催することにより、健康づくりの普及啓発を図ります。また、健康づくり食生活推進協議会により、地域で生活習慣病予防のための料理教室など伝達講習会を開催し、食育の推進を図ります。

④健康相談・健康教育の実施による健康意識の向上

小中高校生の健康講座、幼稚園・保育園・地域の乳幼児健康教育、結核・肺がん検診健康教育（生活習慣病予防）等の健康相談・健康教育を実施します。

⑤健診及び保健指導体制の充実

乳幼児健診や健康診査・がん検診など各種健診事業、特定健康診査事業・特定保健指導事業を実施します。

⑥健康課題解決に向けた、ビジネスモデル研究に関わるフィールド提供

健康づくり実践事業所連絡会を活用した情報連携を図るとともに、企業と協働による健康増進事業を実施します。

⑦健康づくりを応援する事業所、飲食店の支援・拡大

「かけがわ健康づくり実践事業所」や「かけがわ健康応援店」の認定数を増やし、市民の健康増進と企業経営の双方にメリットが出る事業展開を目指します。

■主要事業

事業名	事業概要
健康マイレージ事業	・市民の健康づくりを応援するポイント制度の実施
健康フェア開催事業	・市と関係団体、企業等の協働事業として各種検診や測定、相談等が受けられる健康イベントの開催
保健活動推進事業	・保健活動推進委員会による各地区の活動計画の実施、研修会や講習会の開催
食生活推進事業	・健康づくり食生活推進協議会による伝達講習会の開催
健康講座・健康教育事業	・小中高校生の健康講座、幼稚園・保育園・地域の乳幼児健康教育、結核・肺がん検診健康教育、事業所への出前健康講座等の実施
各種健診事業	・乳幼児健診、健康診査、がん検診等の実施
かけがわ健康づくり実践事業所認定事業	・健康づくり活動に取り組む市内企業・団体等の認定
かけがわ健康応援店認定事業	・栄養成分表示を実施または野菜を1食で120g以上摂取できるメニューを提供している飲食店の認定

2-④ 誰もが安心して医療を受けられる環境の整備

■目指す姿

- ・市民の医療や健康に関する意識が高まり、医療機関の連携が円滑になることで、いつでも安心して医療を受けられます。

■現状と課題

市民が、住み慣れた地域で安心して医療を受けられ、暮らしていけるように、地域完結型医療体制と地域包括ケアシステムの構築を目指して、中東遠総合医療センターや希望の丘、在宅における総合支援の地域拠点となるふくしあを設置し、ハード・ソフトの両面から取組を進めてきました。また、中東遠総合医療センターでは、県内トップクラスの救急対応を行っており、小笠掛川急患診療所と連携した急患診療の充実を図っています。さらに医療機能の高度化や研修医の積極的な確保等により、病院医師数が徐々に増加しています。

また、後方支援機能の充実においては、掛川東病院で回復期リハビリテーション、地域リハビリテーション分野で地域育成が図られるとともに、地域包括ケア病棟や在宅医療など機能が追加されています。

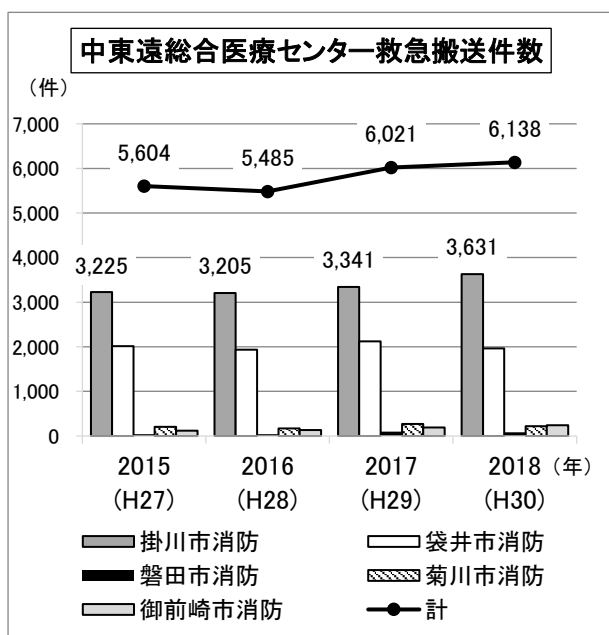
一方で、全国に先駆けて地域完結型医療体制に向けた統合再編を行った中東遠地域においても、本市だけでなく周辺市町と連携した計画策定や取組が引き続き求められています。

地域医療を支える人材育成も重要であり、東京女子医科大学など高度な教育機関と連携した専門職スキルアップにも取り組む必要があります。

さらに、今後も安心して医療が利用できるように、中東遠総合医療センターの安定的な経営の確保、救急医療については、初期救急を支える小笠掛川急患診療所の利用促進や救急のコンビニ化の抑制、かかりつけ医を持つことを推進する必要があります。

国民健康保険制度については、生活習慣病の増加等による医療給付費の増加、保険給付費に占める薬剤費の割合の上昇等、制度の構造的な問題により厳しい運営を続けています。ジェネリック薬品を国が示す普及率80%以上を維持する等、医療費の効率化を通じて限られた医療費資源の有効活用を図り、国民医療を守ることが必要です。

人生100年時代を迎えるなかで自分らしく充実した人生を送るため、また、住み慣れた地域で最期まで安心して暮らしていくためには、人生の終末期に臨む自身の希望、市民の死生観の醸成の支援も必要になります。このため、本市では市民の意思表明を支援するために「私の健康人生設計ノート（健康設計編・エンディング編）」を作成しており、より一層の活用が求められています。



■施策の方向

①地域医療体制の向上

かかりつけ医の推進や役割分担を進めるとともに、医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携を進め、在宅医療の推進を図り、地域完結型医療体制の充実を目指します。あわせて、専門職間の連携強化や大学等高度教育機関を活用した資質向上支援に取り組みます。

②「ふくしあ」による地域包括ケアシステムの充実

地域健康医療支援センター「ふくしあ」を拠点とし、掛川型の地域包括ケアシステムの充実に努めます。また、総合支援体制の強化のために、東京女子医科大学等との連携により、専門職の資質向上を進めていきます。

③適正な医療のかかり方や知識の普及推進

安定した医療環境を提供するため、各種団体等と連携し、適正な医療のかかり方の普及促進に努めるとともに、私の健康人生設計ノートを活用して市民がよりよい人生をおくれるに支援します。

④ジェネリック医薬品の普及促進

ジェネリック医薬品の普及促進のため、お薬手帳を配布する際に、ジェネリック医薬品利用パンフレットを配布します。

■主要事業

事業名	事業概要
小笠掛川急患診療所運営事業	・東遠地区の初期救急を担う急患診療所の運営
中東遠総合医療センター支援事業	・中東遠総合医療センターへの財政、人員確保の支援
在宅医療介護連携の推進	・在宅医療と介護サービスを一体的に提供するための連携強化や資質向上、意識啓発
地域医療体制の研究	・市内開業医の減少に対応するための施策研究
東京女子医科大学との連携	・掛川キャンパスの大学院及び生涯健康支援教育研究センターとの連携による医療技術の向上や介護専門職の資質向上
健康、医療出前講座の開催事業	・市民活動団体等と連携した、健康や医療に関する意識啓発のための講座の開催
私の健康人生設計ノートの活用支援事業	・豊かな人生を送るための自身の生き方や価値観に合わせた健康設計の支援
ふくしあスクール開催事業	・三師会や関係機関等と連携した健康講座の開催
ジェネリック医薬品の普及活動	・ジェネリック医薬品差額通知の発行及びジェネリック医薬品利用パンフレットの作成配布

2-⑤ 高齢者が生き生きと暮らせる環境づくりの推進

■ 目指す姿

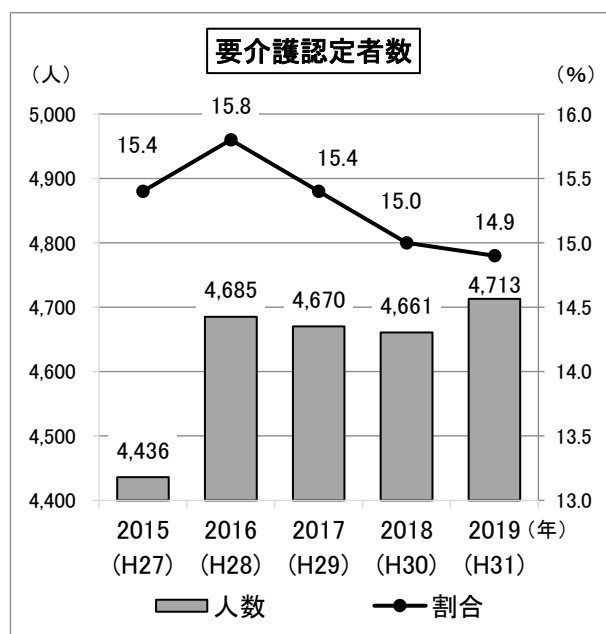
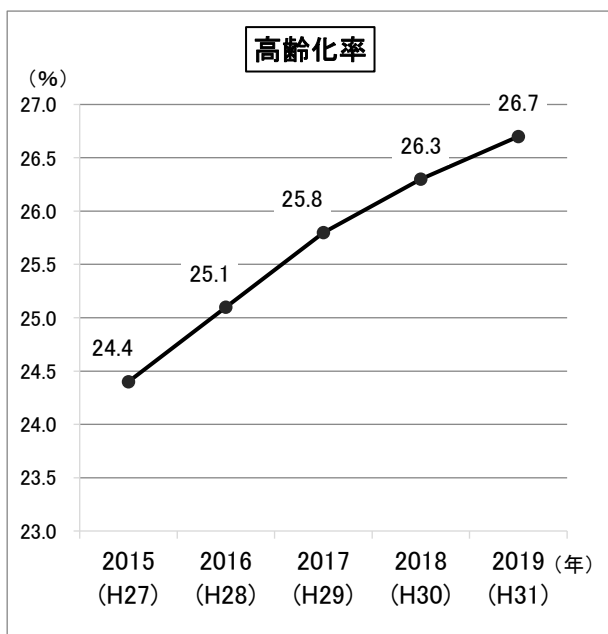
- ・ 高齢者が住み慣れた地域で、社会の役割を持ち、その能力を生かすことで生きがいに満ちた暮らしを営むことができ、支援が必要になったときは安心してサービスが受けられます。

■ 現状と課題

高齢化は今後も進展が続きますが、一方で、核家族化により高齢者と接したことのない若い世代が増加しています。そのため、在宅介護及び地域包括ケア体制の推進には、高齢者のみを対象とするのではなく、全世代を対象とすることが求められます。あわせて、若い世代から継続した健康活動が、高齢になってからの介護予防に大変有効であることから、介護予防や健康施策は、高齢者以外を対象とした施策と連携して実施することが求められます。

今後は、介護予防及び認知症対策が重要であり、これらは早期対応が必要となります。認知症の早期から相談しやすい場を提供し、適切な機関を紹介するとともに、認知症に対する知識を広め、地域で支える体制づくりを進める必要があります。また、介護予防と重度化防止のためには、介護予防段階から適切に介入する必要があります。

高齢化がさらに進行することにより、介護給付費の総額や要介護認定者の抑制は困難になります。そのため、今後は、介護給付の適正化と介護サービスの質の向上を図る必要があります。



■施策の方向

①高齢者と多様な世代の交流の促進

高齢者に加え、地域での世代間を超えた交流を見越した事業展開として、ふれあい・いきいきサロンの全世代対応化を進めます。

また、地域密着型サービスの運営推進会議を開催し、地域の小規模の介護保険施設の運営に地域住民や行政が事業者等に協力していきます。

身近な見守りや支援の仕組みづくりについては、市民や地域まちづくり協議会、地区社会福祉協議会等と協働により進めていきます。

②認知症の共生と予防

令和元年（2019年）6月に政府とりまとめの認知症施策推進大綱に基づき、認知症サポーター養成講座や認知症カフェ、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員の活動等に取り組み、認知症に対する普及啓発や支援体制の整備を図ります。また、認知症予防として運動教室や自主グループ活動を継続支援します。

③介護予防・日常生活支援総合事業の推進

健康で生きがいを持った生活をおくることが介護予防や認知症予防につながることから、介護予防・生活支援サービスとして多様な主体によるサービスの検討を進めるとともに、一般介護予防事業として介護予防の普及啓発や自主グループ活動の継続支援、地域におけるリハビリテーション専門職の活動支援を行います。

④介護給付の適正化と介護サービスの質の向上

介護保険事業の適正な運営のために、掛川市介護給付適正化計画に基づき、認定調査結果のチェック・点検等による要介護認定の適正化、ケアプラン点検・住宅改修及び福祉用具の点検等によるケアマネジメント等の適切化、国保連介護給付適正化システムの活用等による介護報酬請求の適正化を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
ふれあい・いきいきサロン整備事業	・地域住民が気軽に集える場の整備及び提供
高齢者生きがい活動支援通所事業	・要介護状態となるおそれのある高齢者等に対し生活の自立及び生活の質の向上を図ることを目的とする通所サービスの提供
ふくし館交流事業	・地域によるクラブ活動や介護予防教室等の世代を超えた交流活動の推進
認知症施策推進事業	・認知症の人やその家族が地域で共生するための支援体制の整備 ・専門職による早期対応に向けた支援
成年後見制度利用促進事業	・市町村申立て等に係る低所得高齢者の成年後見制度申立に要する経費や成年後見人等の報酬の助成等
一般介護予防事業	・高齢者の転倒予防・介護予防、認知機能向上をはじめ、成人の生活習慣病予防などに効果のある運動教室の推進 ・リハビリテーション専門職による地域活動の支援
介護予防・日常生活支援総合事業	・住民等のあらゆる機関が参画し、様々なサービスの向上による、地域の支え合いの体制づくり、要支援者等に対する効果的かつ効率的な事業等の推進

2-⑥ 障がいのある人の自立した生活の支援の充実

■目指す姿

- ・障がい者が就労することにより、障がい者とその家族が安定した生活を送ることができています。
- ・障がいの有無にかかわらず、誰もがお互いの人格と個性を尊重し、住み慣れた地域で安心した生活を送ることができています。

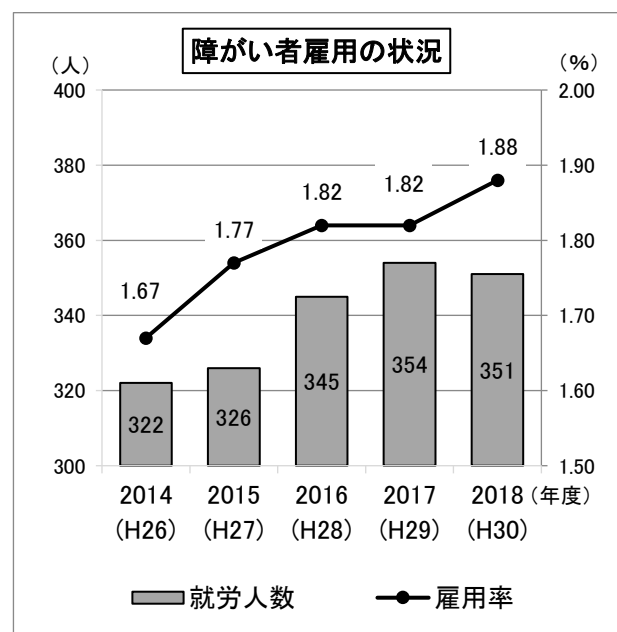
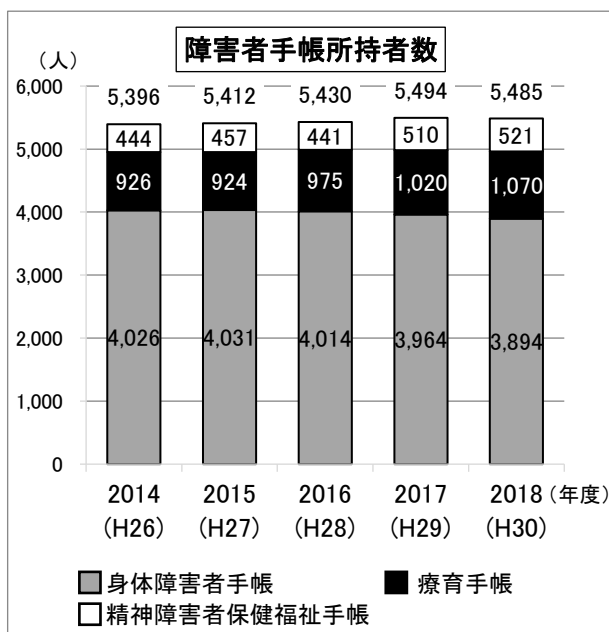
■現状と課題

障がい者が自立し、健康で幸せな生活を送るためには、障害年金以外の安定的な収入と必要な福祉サービスをいつでも受けられる環境が必要です。

障がい者が安定的な収入を得るためには、就労環境の整備が重要な課題ですが、ハローワーク掛川管内（掛川市、菊川市、御前崎市）の平成30年度（2018年度）障害者雇用率は1.88%と、法定雇用率2.2%を満たしておらず、静岡県内平均2.05%も下回っています。

本市の在宅福祉は、主に障害者総合支援法や児童福祉法に基づいた福祉サービスを提供しています。平成26年（2014年）4月には希望の丘地内に重度の障がい者の通所施設「ぴのほーぷ」が開設し、平成27年（2015年）4月には静岡県立掛川特別支援学校、放課後等デイサービスセンター「はるかぜ」がオープンするなど、施設等の整備は進んでいますが、障害者支援施設の一部では定員を上回る状態で、新たな利用希望の受け入れが困難な状況となっており、その解消が求められています。

また、これまでは身体・知的・精神の障がい別に相談機関を設けるなど、障がい者の不安解消に努めてきましたが、今後は、障がい者の生きがいがづくりや社会参加の場を増やすため、関係団体との連携を強化し、障がい者のスポーツ活動等を推進することも求められます。



■施策の方向

①障害福祉サービス等の提供体制の整備

居宅介護や短期入所（ショートステイ）、生活介護（デイサービス）等の在宅サービスについて、ニーズを把握したうえで、障がい者やその家族が希望に応じて利用できるよう施設を確保します。

また、児童発達支援や放課後等デイサービス事業など、支援の必要な児童やその家族が希望するサービスを提供できるよう、施設や事業所を確保します。

②障がい者の社会参加の促進

障がい者の社会参加を促進するため、行動援護や移動支援、同行援護、手話通訳者派遣、要約筆記者派遣等の提供体制を確保するとともに、タクシー料金助成、福祉施設通所費助成を継続します。

③障がい者の差別解消

障がい者に対する差別を解消するための取組を行うネットワークとして、地域の関係機関等による障害者差別解消支援地域協議会の設置を進めるとともに、障がい者の差別解消に向けた相談体制の充実を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
福祉施設等建設事業	・法人等が計画する福祉施設建設の支援
障害者差別解消法推進事業	・障害者差別解消支援地域協議会の設置等
手話奉仕員養成事業	・ろう者との意思疎通を行うための手話通訳者の育成
重度心身障害者タクシー料金助成事業	・重度心身障害者等に対するタクシー料金の一部助成

2-⑦ 地域で支えあう福祉活動の推進と人権の尊重

■目指す姿

- ・地域社会で、ともに支え合う心が生まれ、自立的に様々な福祉課題が解決できています。

■現状と課題

昨今では、核家族化による高齢者独居世帯・老々世帯など、家族形態の変化により自助力の低下から、地域のつながり、地域で支え合う相互扶助の必要性が高まっています。

このような課題に対応するため、本市では、協働のまちづくりの理念のもとに、まちづくり協議会や地区福祉協議会を中心とした地域福祉活動やふくしあによる包括的な支援体制づくりを進めてきました。今後は、さらに住民や地域の様々な分野の機関等が、連携、協働して主体的に参加して地域課題を解決していくための仕組みづくりやそのための支援が必要となります。

民生委員・児童委員協議会については、その活動の重要性とともに負担が増しており、民生委員以外の地域住民の協力を得ながら、助け合い支え合うことができる体制づくりと民生委員の負担軽減等が求められています。

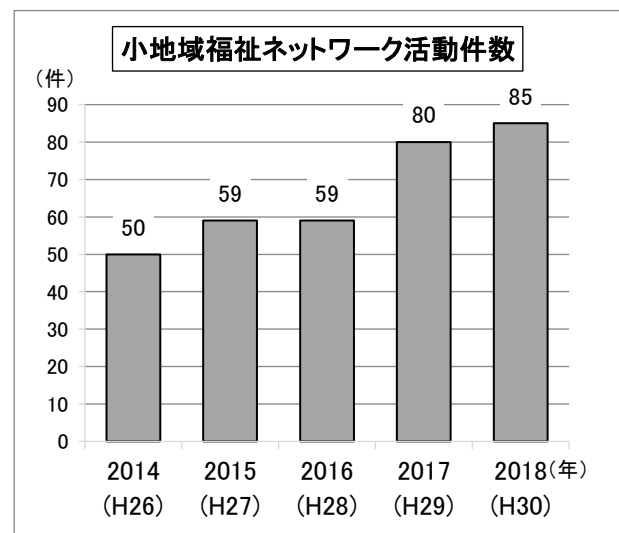
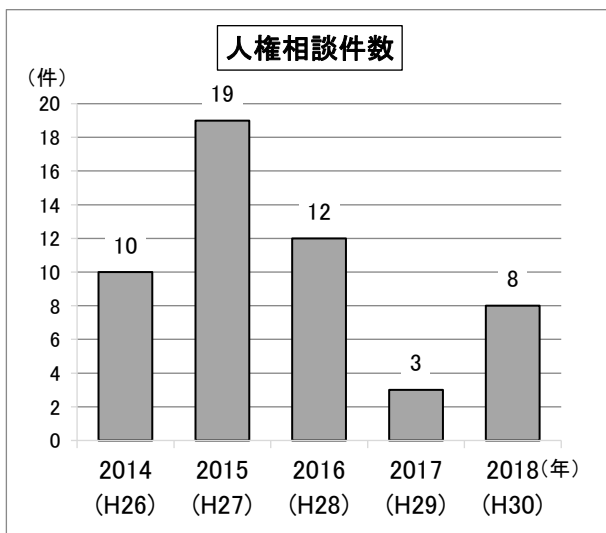
生活保護世帯に対しては、経済的な自立を支援していますが、近年では、無年金や低額年金による高齢者世帯が増加しており、経済的な自立が難しい状況にあります。また、非正規雇用者等の増加により、継続して安定した就労収入が得られず、一時的な生活困窮に陥る人もいます。そのため、関係機関の連携を強化し、必要な支援を包括的かつ早期に実施する生活困窮者の自立支援が求められています。

また、人権教育や人権擁護活動を進めてきたことにより、市民の人権に関する意識は徐々に高揚しており、今後は、関係部署や関係機関との連携をより一層強め、より効果的な取組を進める必要があります。

疾病や障がい・介護、出産・子育てなど、様々な課題が絡み合って複雑化したり、個人や世帯が複数分野の課題を抱えたりしている状況が見られます。また、ひきこもりや8050問題など社会的孤立や身近な生活課題への支援の必要性も高まっています。さらに、公的支援制度の受給要件を満たさない「制度の狭間」の問題も指摘されています。

このため、市内5か所にあるふくしあでは、医療・保健・福祉・介護の総合相談窓口として、多職種連携により対応しており、今後も継続することが求められます。

特に、地域福祉については、社会福祉協議会地域福祉相談員を中心に、地区福祉協議会をはじめとする地域組織と連携し、高齢者サロン、子育てサロン、見守りネットワーク活動等、身近な支え合いネットワーク活動を推進しており、今後も継続することが求められます。



■施策の方向

①地域で支え合う福祉活動の推進

ふくしあを中心に、身近な地域において、声かけや見守り活動、ちょっとした家事支援など、住民等が主体的に地域福祉活動に参加する仕組みづくりを推進します。また、地域の様々な分野の機関等のネットワーク構築を進め、地区福祉協議会やまちづくり協議会の活動を支援します。

②新たな生活課題への支援

ふくしあを中心とした多職種連携により、制度の狭間の課題やひきこもり、8050 問題などの新たな生活課題に対して、総合的・包括的な支援を進めます。

③民生委員・児童委員活動の充実

民生委員・児童委員協議会と福祉関係機関、ふくしあとの連携強化を図るとともに、静岡県民生委員・児童委員協力員制度を活用し、地域福祉活動の推進や地域福祉課題の実態把握を進めます。

④生活困窮者支援の充実

生活保護世帯及び生活困窮世帯の経済的な自立支援のため、ハローワークと連携しながら安定した就労を促進するとともに、福祉関係団体や民生委員、ふくしあと連携した訪問相談体制の強化を図り、自立に向けた課題解決に対する援護体制を充実します。

⑤人権擁護意識の啓発促進

偏見と差別のない社会構築のために、市内の幼稚園や小中高等学校等で人権教室を行い、いじめを許さない人権感覚を養うとともに、市民に対して街頭啓発活動、講演会などを開催します。

■主要事業

事業名	事業概要
小地域福祉ネットワーク	・地域福祉を推進する社会福祉協議会や地区福祉協議会等の活動支援
ボランティア人材の開拓、育成	・小中高校生の担い手づくりとボランティア育成講座の開催 ・青年層・壮年層がボランティアに参加しやすいシステムの構築
(仮称)ひきこもり対策協議会開催事業	・行政と関係機関が参加するひきこもり対策の協議会の開催
医療、保健、福祉、介護の総合的な相談窓口	・市内5か所の「ふくしあ」における多職種連携による、総合的な相談窓口の開設
民生委員、児童委員支援事業	・地域福祉課題の実態把握や地域福祉活動の推進役である民生委員・児童委員への交付金の交付
生活困窮者自立相談支援事業	・福祉関係団体等との連携による包括的な支援による生活保護に至る前の段階での自立支援
生活困窮者家計改善支援事業	・生活困窮者への家計再建に向けたきめ細かな相談や家計再建資金貸付のあっせん等の支援
就労準備支援事業	・福祉関係団体との連携による生活困窮者への就労に向けた日常・社会的自立のための訓練等の実施
住居確保給付金	・離職により住居喪失もしくは喪失のおそれのある生活困窮者への家賃の給付
生活保護受給者等就労自立促進事業	・ハローワークとの連携による生活保護受給者等への就労のあっせん
人権身の上相談の実施	・人権擁護委員による、人権問題解決のための相談窓口の定期開催
人権教室	・幼保こども園、小中高等学校を対象にした、人権問題について考えるための教室の開催
人権講演会	・人権問題に理解を深め、人権意識の高揚を図るための講演会の開催

3-① 省エネ・省資源、再生可能エネルギー普及の促進

■目指す姿

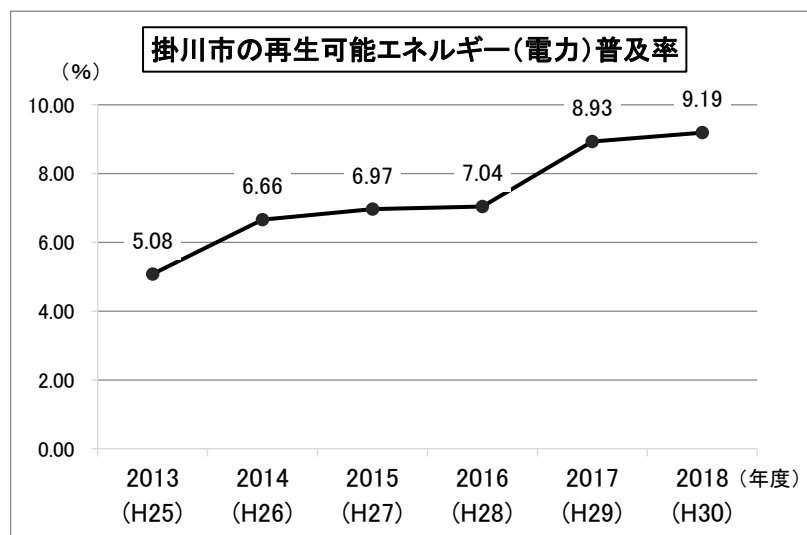
- ・エネルギー資源の地産地消と地域内経済循環を目的とした地域新電力事業の展開により、地球温暖化防止とかけがわ地域循環共生圏の確立が図られています。

■現状と課題

平成 27 年（2015 年）12 月に採択された「パリ協定」を受け、政府は 2030 年度に 2013 年度比 26%の温室効果削減目標を盛り込んだ「地球温暖化対策計画」を平成 28 年（2016 年）5 月に閣議決定しました。また、平成 30 年（2018 年）5 月に閣議決定された「第 5 次環境基本計画」では、「地域循環共生圏」の考え方が提唱され、地域資源を持続可能な形で最大限活用することが求められています。

環境日本一を目指す本市は、市民・事業者・行政の協働により進めてきた省エネや再生可能エネルギー普及の取組を進めてきましたが、これまでになく高い温室効果ガス削減目標を実現するためには、環境・経済・社会の総合的な向上に繋がり、地球温暖化の緩和策、適応策双方からの視点による施策展開が必要となります。

また、ごみ減量化においては、排出量抑制を目的とした、ごみ分別の徹底や生ごみ削減の施策を進めてきました。本市においては平成 24 年度（2012 年度）から、ごみの排出量が少ない市町村として全国第 2 位を維持しています。しかし、自然災害による処理量の増大や廃プラスチック問題へのソフト・ハード両面での適応策の推進、環境資源ギャラリーの耐用年数に伴う、ごみ処理システムの見直し等が新たな課題として挙げられます。また、資源の循環促進のため、K-STeP 協定（かけがわ資源物店頭回収パートナーシップ協定）を現在 1 社と締結しており、今後は締結店の拡大が求められます。



■施策の方向

①かけがわ地域循環共生圏の推進

地域資源の有効活用による再生可能エネルギーの普及率向上と域内の経済循環、地域課題解決の同時実現を目指す。この実現のために、産学官民の連携によりエネルギー構造の新たなあり方を検討し、持続可能な地域社会の実現を目標とします。

②地球温暖化防止活動の普及啓発

市民・企業・行政それぞれの立ち位置で実行可能な地球温暖化防止活動の啓発と普及を目指します。

③バイオマス活用プロジェクトの推進

間伐材や食品残渣等の熱源利用や発電利用等、地域資源を持続的に循環できる仕組みの構築に取り組みます。

④スマートコミュニティ化の推進

自立・分散型エネルギーのまちづくりを推進し、地域の再生可能エネルギーで電力需要を賄うスマートコミュニティ街区形成を推進します。

⑤家庭を対象とした環境学習の推進

環境学習の推進により、環境に対する市民意識の啓発を進め、家庭発のエコ活動を推進します。また、生ごみを代表とする可燃ごみの排出抑制や、剪定枝等の利活用を可能とする仕組の構築に取り組みます。

⑥再生可能エネルギーのまちづくりへの活用

地域資源である再生可能エネルギーを活用したまちづくりにより、省エネや省資源、創エネの普及推進と森林や自然環境の保護に関する仕組みの構築に取り組みます。

⑦ごみ減量推進

分別の啓発（食品ロス、食べ残しの抑制、紙ごみリサイクル促進、プラごみ抑制）を進め、焼却量を減らします。

⑧持続可能な省資源化の推進

これまで進めてきた省エネ・リサイクルに関する課題を整理し、少子高齢社会や廃プラスチック問題に適應できる省資源化の仕組を構築していきます。また、省資源化を可能とするハード整備の手法についても調査・研究を進め、K-STeP協定を市内のスーパー、ホームセンター、ドラッグストアに拡大します。

■主要事業

事業名	事業概要
シュタットベルケの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域新電力事業及び産学官民連携電力事業の推進 ・地域課題解決事業の検討と実施
再生可能エネルギーの総合的な普及	<ul style="list-style-type: none"> ・地域新電力事業
エネルギーの地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの域内循環を可能とする仕組の構築
スマートオフィスプラン推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎または公共施設の総合的な省エネ化推進
公共施設の省エネ改修事業	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の照明、空調の改修あるいは機器運用改善によるエネルギー使用の最適化
中小企業向け ESCO 事業	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業に対する省エネ診断と機器改修または機器運用改善
新エネ設置促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅用再生可能エネルギー発電設備の設置支援
公共施設への太陽光等導入事業	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設への太陽光設備、蓄電池の設置または増設
環境楽習推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校等を対象とした環境楽習講座の開催
森林、緑の保全活動事業	<ul style="list-style-type: none"> ・間伐材利用の仕組の構築及び持続可能な保全活動の仕組みの構築
協働による環境普及活動	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官民連携による環境配慮型行動の啓発
バイオマス利活用プロジェクトの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・未利用バイオマスの導入可能性調査及び実証実験
スマートコミュニティ化推進	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり拠点への再生可能エネルギー設備の導入
持続可能な省資源化スキームの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会や廃プラ問題に適応した省資源化の仕組の構築 ・省資源化を可能とするハード整備の調査、研究
次世代モビリティの導入推進	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代環境車や充電インフラの普及啓発
ごみ減量推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・マイバッグ運動や資源回収の活用等、食品ロス食べ残しの抑制、省資源化や廃棄物発生抑止に関する啓発 ・剪定枝等の利活用方法の調査、研究
資源化物の循環促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー、ホームセンター、ドラッグストアへの K-STeP 協定締結に向けた調整

3-② 誰もが集える身近な公園・緑地の充実

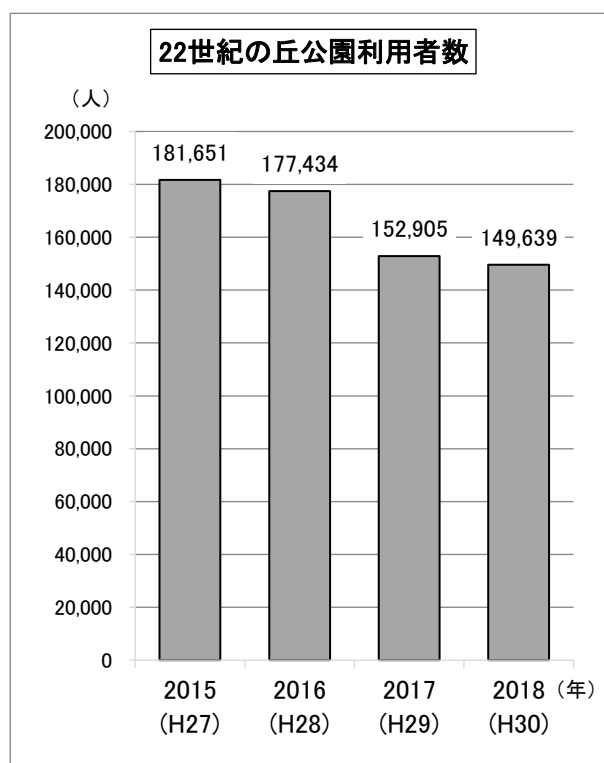
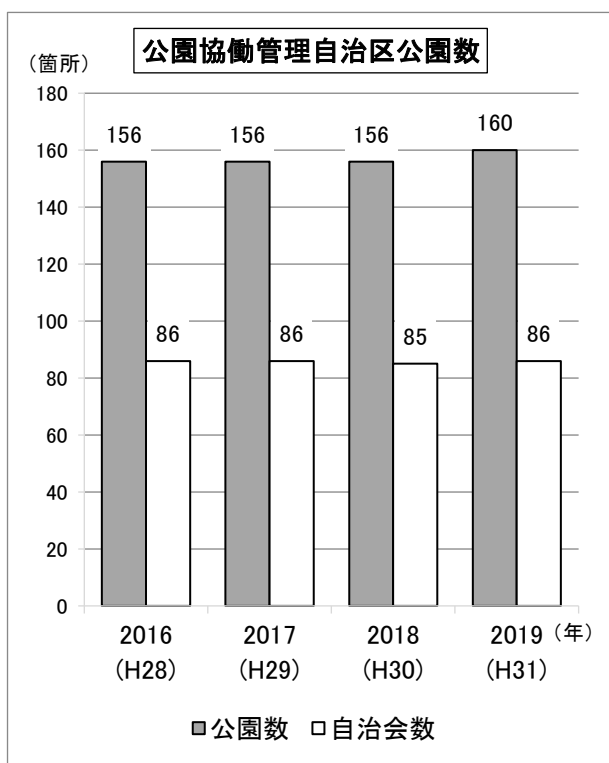
■目指す姿

- ・地域の公園に老若男女が集い、地域住民や子育て世代のコミュニケーションの場となっています。

■現状と課題

本市の都市公園総面積は約 160ha であり、市民一人あたりの面積は 13.6 m²/人で全国平均を上回っています。しかし、遊具等の施設の老朽化や乳幼児向けの公園の不足等、市民要望に応え切れていないのが現状です。また、今後は人口減少や少子高齢化の進行が予想されており、今後の都市構造として、多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換が求められると同時に、都市経営の観点からは、効率的な投資や維持管理費の削減が求められており、既存の公園や公共緑地等、既存ストックを活用した都市公園等の整備・充実が求められています。

さらに、既存公園については、公園施設の長寿命化や遊具等の安全確保、防災機能向上、子育て世代のニーズ等に配慮した再整備を進める必要があります。



■施策の方向

①市民に親しまれる公園・緑地の整備

緑の基本計画等に基づき、計画的に都市公園の整備を進めるとともに、その他の公園・緑地の整備も進めます。整備にあたっては、総合公園、地区公園、近隣公園、街区公園等、各公園の目的に合わせて必要な機能を配置し、市民に親しまれる公園・緑地となるよう配慮します。

②既存公園の適切な維持管理と協働による公園管理の推進

既存の公園・緑地は、公園施設長寿命化計画を策定し、施設の長寿命化を推進するとともに、適正な維持管理を行います。また、草刈りや清掃、ゴミ拾い等の日常的な管理については、地域住民等との協働による管理を推進します。

③既存公園の活用と市民ニーズに応じた施設の再整備

既存の公園・緑地は、周辺環境や住民ニーズに配慮しつつ、レクリエーション機能や防災機能の充実等、必要に応じた再整備を進めます。再整備にあたっては、計画段階から周辺住民と協議し、愛着を高め、地域住民が主体となった継続的な維持管理に繋がるよう努めます。

④ユニバーサルデザインや健康づくり等に配慮した公園等の整備

高齢者や障がい者、子育て世代を含む全ての人々が、安全で快適に様々な活動を行う場となるよう、公園施設のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、健康づくりや機能回復等の活動ができる公園の整備を推進していきます。

⑤緑の基本計画に沿った緑に関する施策の推進

緑の基本計画に示した「次世代につなげる、ふるさと掛川の緑と水辺」の将来像テーマのもと、公園の整備や緑地空間の確保、緑化意識の普及・啓発等の施策を推進していきます。

■主要事業

事業名	事業概要
公園管理協働事業	・地区との協働による公園の管理
都市公園の整備	・緑の基本計画に基づく都市公園の整備
公園施設長寿命化計画の策定	・公園施設の維持管理を計画的に行うための長寿命化計画の策定

3-③ 美しい森林や海岸等の保全と活用の推進

■目指す姿

- ・森林・海岸が、市民・事業者・行政の協働により適切に整備・保全・活用され、防災機能をはじめ多面的機能が保たれています。

■現状と課題

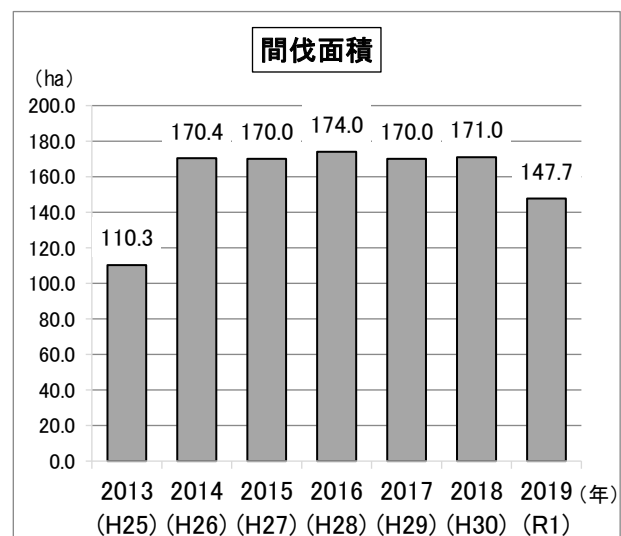
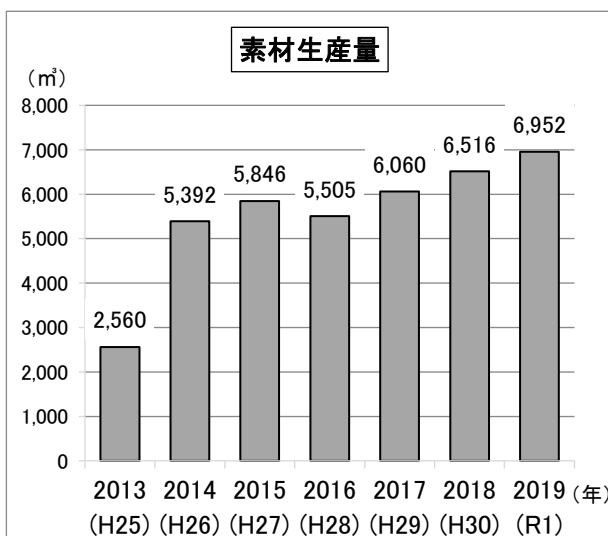
本市は、市域の43%に相当する11,296ヘクタールの森林を有しており、このうち6,684ヘクタールが人工林となっています。これらの森林は、戦後復興を支える木材を供給するため拡大造林されたもので、現在、その80%が一般的な伐採時期である50年生を超えて、本格的な利用期を迎えています。

さらに森林は木材の供給源としてだけでなく、水源の涵養や生物多様性の保全、地球温暖化の防止などといった多面的機能を有しています。機能を維持増進させていくためには、適切な森林の経営管理による「伐って、使って、植える」という循環利用が欠かせません。

しかし、近年の材価の低迷や林業経営への意欲低下等から、間伐等の手入れをしないまま管理放棄される森林の増加が懸念されています。また、近年はシカによる造林木被害が問題となっており、被害防止に向けた技術開発や捕獲対策が求められます。

現在、静岡県では年間木材生産量を50万m³に増大させる目標を掲げています。本市もその目標達成に向けた素材（丸太）供給量の増加が求められていることから、今後、市内での素材生産を担う人材の育成、施業の集約化による効率的な伐採等が求められます。また、掛川産材の市場拡大のためには、木材を利用した住宅などへの需要促進や公共建築物等への導入促進が必要となります。さらに、地域内で生み出される製品・サービスの付加価値をできるだけ高めるためには、地域にある森林、林業、木材産業、研究機関、NPO等の団体が、業種横断的な人的ネットワークを形成しながら、それぞれが強固に連携することが重要です。

市内の海岸防災林・森林については、荒廃・松枯れが進み、本来持ち合わせている水源機能や土砂災害防止機能、津波軽減機能が低下していることから、海岸防災林・森林の再生事業として、市民や企業等と協働で、継続的に育樹・植樹活動に取り組むことが必要です。



■施策の方向

①森林の保全と活用

森林の有する多面的機能の恩恵を、市民はもとより天竜川流域の住民、林業・木材産業界が将来にわたって享受できるように、森林の適正な整備・保全を推進します。

また、成熟した森林資源を活用した林業・木材産業のさらなる振興に向け、素材（丸太）の生産から製材、流通、住宅等が一体となった生産・販売の拡大を図ります。

そのため、市民が森林・林業・木材産業への理解・関心を深め、積極的に「木」に関わってもらえるような体制づくりを進めます。また、森林・林業・木材産業を担う人材の育成の取組を推進します。

②協働による海岸保全と活用

海岸林は、市民、地域、市民活動の団体、企業、行政の協働により、今後も育樹・植樹活動を継続していきます。また、地域住民や自転車道の利用者が集い散策できるレクリエーションの場を創出します。

市南部の大浜・大須賀海岸に漂着したゴミを、市民や企業との協働によって除去し、美しい海岸線を維持します。

③野生動植物の生息・生育環境の保護・保全

希少野生動植物の定期的なモニタリングにより、生息エリアの開発行為等を規制します。

また、生物多様性の持続性を担保するため、保全と活用の視点から掛川市版の地域戦略を策定します。

■主要事業

事業名	事業概要
森の力再生事業	・間伐が遅れた人工林や放置された竹林等の再生
森林環境保全整備事業	・間伐・皆伐・造林による森林の有する多面的機能の維持・増進
市民の森管理事業	・市有林の維持管理
森林経営管理事業	・森林経営管理権を設定した森林における間伐等
希望の森づくりパートナーシップ協定の締結	・パートナーシップ協定締結事業所（57事業所）による植樹祭等への参加、寄付金及び苗木の提供等
海岸清掃、全市一斉美化活動	・住民や企業等の協力による大浜・大須賀海岸（延長約10km）の清掃
海岸保全事業	・海岸浸食を防止するための海岸への堆砂垣の設置
自然環境調査事業	・定期的な自然環境状況調査の実施
生物多様性地域戦略策定・運用	・掛川市版生物多様性地域戦略の策定・運用
自然環境保全活動の推進	・市民や大学等と連携した、本市自然環境をフィールドとする調査・研究の実施と活用方法検討
自然環境保護地区指定事業	・自然環境の保全に関する条例に基づく保護地区追加等に関する計画立案や調査、手続

3-④ 清流が流れ、市民が水と触れ合える環境の整備

■目指す姿

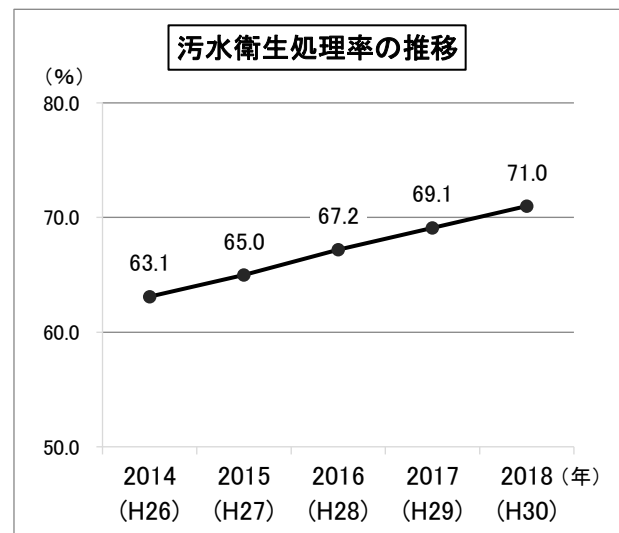
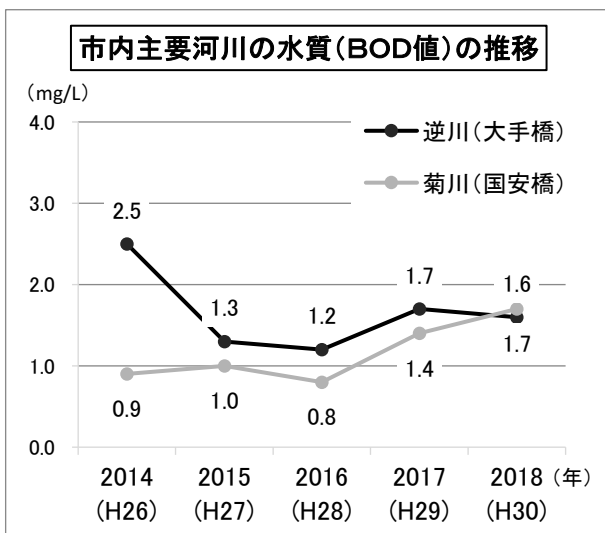
- ・市民誰もが適正な汚水処理を行っていることで、きれいな水が流れており、自然環境に配慮した、市民が親しめる美しい水辺環境がまちにたくさんあります。

■現状と課題

本市では、公共下水道事業等により汚水衛生処理率は年々着実に上昇し、市内河川の水質は確実に向上しています。大手橋における逆川のBOD値（生物化学的酸素要求量）は、測定年度による変化があるもののきれいな水質を維持しており、各種事業による一定の成果が表れています。実際に逆川では、アユの生息が確認されており、水質浄化の取組が河川環境の改善に好影響を与えていると考えられます。

今後も引き続き汚水衛生処理率を向上させていくために、下水道への接続及び単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への積極的な切り替えの推進が求められます。また、汚水処理事業の持続可能な経営のために、公共下水道事業の見直しや合併処理浄化槽の設置の積極的な推進、小規模処理施設の統合等が求められます。あわせて、生活排水対策への取組を呼びかけ、河川環境や水質浄化への市民の環境意識の向上に取り組んでいく必要があります。

これまで、河川、海岸等の水辺整備においては、津波や洪水などの被害を避けることはもちろんのこと、今後は市民が水と親しむことができる親水性の確保、生物の生育環境の保全に配慮した多自然型工法を取り入れ、市民が水辺の自然環境に親しめる環境整備を進めることが求められます。



■施策の方向

①水環境に対する市民意識の向上

市内の河川の水質調査や生物調査を継続的に行い、水環境の実態を市民に継続的に発信するとともに、地域における環境学習の実施を推進し、水環境に対する市民意識の向上を図ります。

②生活排水処理計画の見直しと合併浄化槽の設置推進

社会や財政状況の変化に合わせて生活排水処理計画を定期的に見直し、持続可能な汚水処理運営を行います。見直しにあたっては、施設の整備状況や事業の優先度を考慮して整備手法を検討するとともに、将来財政負担の見通しや受益者負担のあり方を踏まえた検討を行います。また、既設単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への切替を推進します。

③協働による水辺環境の保全

河川や海岸が市民と水を結ぶ親水空間として利活用できるよう、市民団体等が行う水質浄化活動や河川美化活動、河川等の環境保全活動に対し支援を行い、市民と行政が協働で水辺環境の保全に取り組みます。

■主要事業

事業名	事業概要
水に関する環境教育推進事業	・水質調査や生物調査等、生活空間における水環境の実態に触れ、水環境に対する市民意識の向上
自然環境調査事業	・定期的な自然環境状況調査の実施
生活排水計画の見直し	・地域特性に応じた下水道、農集、浄化槽の各汚水処理施設の整備 ・受益者負担のあり方・水準の検討
公共下水道事業	・計画的な下水道の整備 ・汚水処理施設・農集等の下水道編入 ・持続可能な財政計画の策定
浄化槽整備推進事業	・既設単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への切替の促進
汚水処理施設の管理運営	・定期点検と計画的な修繕による効率的な維持管理と施設の長寿命化
河川愛護事業	・自治会活動への支援による全市的な美化運動の推進
河川公園の維持管理	・管理委託団体との協働による効率的な維持管理の推進
リバー・ロードサポーター制度等による全市的な美化活動	・草刈り団体の活動に必要な物品を補助する制度の推進

3-⑤ お互いが快適に暮らせる生活環境の確保

■目指す姿

- ・市民一人一人が互いを思いやりマナーを守り、公衆衛生の向上と生活環境の保全を図られ、健康と快適な生活環境が確保されています。

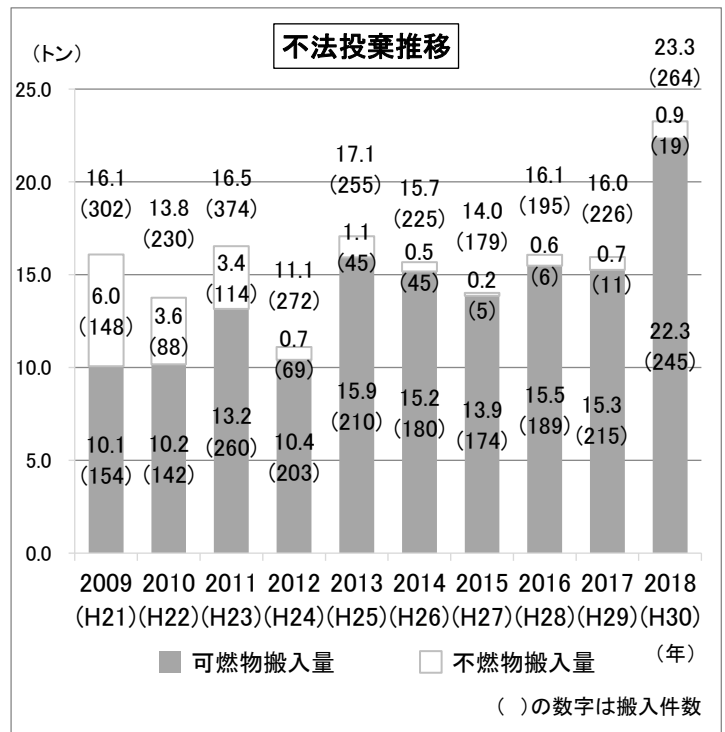
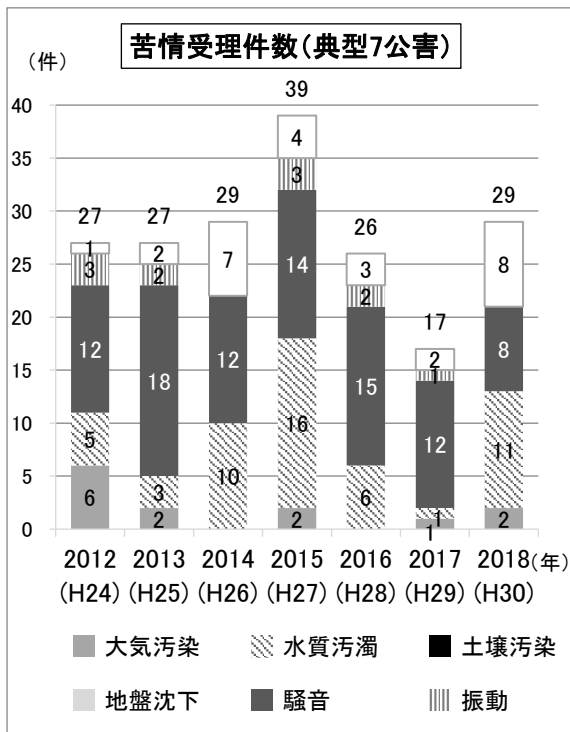
■現状と課題

本市では、大気・水質・土壌汚染等、産業型公害の発件数は少ないものの、野焼きや野良猫の糞尿、ペットの鳴き声等の生活における悪臭や騒音、ごみ等の都市生活型公害の問題は少なからず発生しています。また、イノシシやシカ等が人里近くで頻繁に出没し、住民に不安を与えるなど、野生鳥獣を起因とする事案が市民生活に大きな影響を及ぼしています。

不法投棄については、家電リサイクル法に係る品目が10年前に比べると5分の1程度に減ったものの、それ以外の不法投棄は、年間20トンを超えて推移しており、平成30年度（2018年度）は23トンと大幅増加し、これに伴い、処理費用が増加しています。

空き家住宅は、平成30年度（2018年度）の住宅・土地統計調査では、平成25年度（2013年）に比べて全国で3.2%増加しており、本市においても今後ますます増加する傾向です。

適正に管理されていない空き家は、老朽化による倒壊の恐れ、景観の悪化、治安の低下等の問題を引き起こすことから、所有者による空き家住宅の適正な管理を促進することが求められます。



■施策の方向

①産業型公害の発生防止

環境実態調査等各調査を実施するとともに、事業所との協定の締結・管理等を実施し、公害防止に努めます。

②都市生活型公害の発生防止

「掛川市良好な生活環境の確保に関する条例」の周知を図り、身近な生活マナーと環境保全意識の向上を図ります。

③野生鳥獣対策の推進

個々の電気柵設置等の被害防除策とともに、鳥獣被害対策実施隊による地域ぐるみの鳥獣被害防止対策の普及、啓発を行い、あわせて小笠猟友会掛川支部、大東支部による被害防止捕獲を推進します。

④空き家住宅対策の推進

空き家所有者による適正な管理を促進するとともに、地域や事業者との協働による危険空き家の除却を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
不法投棄等、地域の環境見回り協定	・かけがわ美化ボランティア事業による美化活動の実施
ペットマナー向上啓発事業	・飼い主を対象とした正しい飼い方講座の開催や街頭指導の実施
有害鳥獣被害防止事業	・鳥獣被害防止対策設備設置費の補助、狩猟免許取得費、更新費の補助
空き家住宅対策事業	・空き家所有者への適正管理の啓発と法による指導等の実施

3-⑥ 安全な水を安定して供給できる水道事業の推進

■ 目指す姿

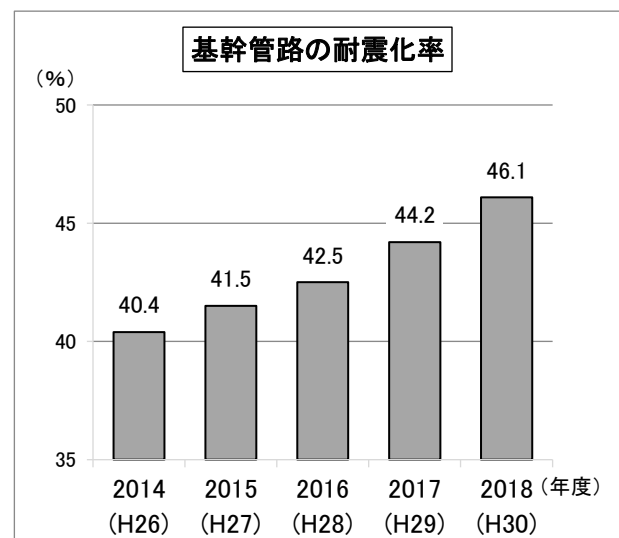
- ・安全、強靱、持続可能な水道事業が進められています。

■ 現状と課題

人口減少や節水型社会の形成により使用水量の減少が続いていましたが、近年は下げ止まりの傾向も見られます。しかし、今後の見通しは不透明であり、引き続き給水収益が減少することに備え、近隣市との水道事業の広域化等安定的な事業運営が求められます。

水道施設の老朽化に伴う更新事業及び災害対策のための施設の耐震化に要する事業費の財源確保や、定期的な人事異動、定年退職に伴う直営技術力の低下など組織の脆弱化が懸念されるなかで、水道施設の適切な維持管理及び将来にわたり安定した水道サービスを維持していくことが求められます。

水資源の乏しい本市では、年間配水量の約90%を大井川に依存することで、安全・安心・安定した給水サービスを行うことができます。平成29年度（2017年度）から各方面の働き掛けにより、大井川広域水道企業団の料金引き下げ改定が実施されたため、費用全体に占める受水費の割合は約50%から、約43%に低下しましたが、依然として大きな負担となっています。加えて、リニア中央新幹線のトンネル工事に伴う大井川の流量減少が懸念されており、確実に水量を確保していくよう、大井川利水関係協議会を通して JR 東海と協議を継続することが求められます。



■ 施策の方向

① 水道事業の健全な経営

将来の人口推移における給水収益においても、安定的な運営基盤を継続し、需要者のニーズを的確に捉えた健全で持続できる水道事業に努めます。

② 水道施設の計画的な更新と耐震化

事業の財源を確保しつつ、計画に基づいた水道施設の更新、耐震化事業を進めます。また、需要水量の減少を踏まえ、水道施設の再構築等を考慮した事業運営を行います。

③危機管理対策の強化

バックアップ体制、応急給水体制などの危機管理を充実し、施設の計画的更新により耐震化を促進し、自然災害の被害を最小限に抑えられるような体制を構築します。

④水量の確保

大井川広域水道企業団からの安全な水を安定的に受水できる体制を強化しつつ、不測事態に備えて、既存水源の維持と確保に努めます。

⑤安全な水道水の供給

水道法に基づく水質検査の実施と日常点検により、水源から家庭まで良好な水質を確保し、市民がいつでも安心して飲むことができる水道水を供給します。

⑥包括委託を含めた技術力の維持、継承

経験、豊富な知識を有する職員の減少に伴い、若手職員への技術力継承を図るとともに、民間の技術力を活用し技術の維持、継承に努めます。

■主要事業

事業名	事業概要
業務の共同化の研究	・近隣市との業務の共同化を目指した、窓口業務等の民間委託の検討
経営戦略に関わる計画の策定及び進捗管理	・施設規模の見直しによる投資計画の策定及び進捗管理 ・料金の適正化による健全な財政計画の策定及び進捗管理
基幹管路及び一般管路の耐震化事業	・被災時に影響の大きい基幹管路の布設替え及び管路全体の耐震化率の向上
管路維持管理業務の民間委託の導入	・水道本管、給水管の戸別音調及び業者常駐による漏水調査の実施
浄水場、ポンプ場及び配水池の耐震化事業	・浄水場 6 箇所、送水ポンプ場 6 箇所、配水池 19 箇所の耐震化の推進
水源施設への非常用電源整備事業	・主要な市内 6 箇所の水源に非常用電源の設置
水道施設の危機管理対策事業	・水道施設の監視体制の強化と、侵入防止対策の実施
緊急時の水の確保	・応急給水体制の強化のため加圧式給水車の追加配備
大井川広域水道企業団からの水源の確保	・配水量の約 90%を占める受水量の確保と、費用の 40%を占める受水費の抑制
水道事業者等を対象とした技術研修会開催事業	・水道業者の育成と、職員の技術力の向上のための研修会の開催
水道施設運転管理業務の民間委託の導入	・技術継承の一助として水道施設の運転管理を含む包括委託の実施

4-① 地域資源を活かした体験交流型、広域連携型観光の推進

■目指す姿

- ・住んでいる人自らが地域の魅力を再発見し、市民総ぐるみで市の魅力を発信し、多くの人が訪れ、活気とうるおいに満ちた交流がなされています。

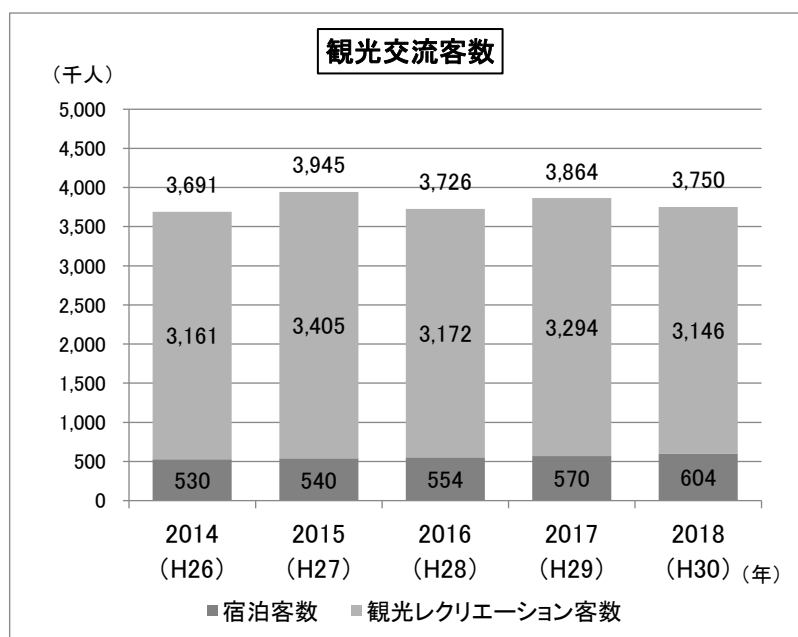
■現状と課題

我が国では、年々外国人観光客が増加しており、令和元年（2019年）のラグビーワールドカップや令和2年（2020年）の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、本市においても外国人観光客の受入体制の準備を進めてきました。また、令和元年（2019年）に開催された静岡デスティネーションキャンペーンの開催に向け、観光商品を企画し、JRや旅行会社との連携により国内からの観光誘客を実施してきました。

近年では、広域連携の重要性や体験交流型の要素を取り入れた旅行形態（ニューツーリズム）による関係人口の拡大が注目されているなか、本市では、掛川の魅力に惹かれて訪れてくれる方をターゲットとすることで、市民と観光客との交流型を主体とした取組を進めてきました。また、外国人をはじめ、誘客を促進するため、富士山静岡空港周辺市町等による広域連携での観光振興、Wi-Fi整備やキャッシュレスの推進等による全市的なおもてなし体制の準備、インターネットを活用したSNSによる情報発信体制の整備と活用を進めています。

今後は、オリンピック観戦客や広域による国内外セールス事業に伴う誘客が期待されるなか、スポーツ大会や合宿等の受け入れ、訪日外国人を含めた多言語でわかりやすい観光案内に関する体制整備が求められています。

さらに、最近の動向として、団体から個人や少人数グループを中心とした観光が主流となり、ゆっくり滞在でき、地域資源を満喫できる体験交流型観光の充実とにぎわいづくりが求められています。そのためには、観光関係者はもとより市民がまちの魅力を再認識し、磨き上げ、積極的にプロモーションを行うことにより、市内周遊を促進していくことが必要となっていきます。



■施策の方向

①地域資源を活用した体験交流型観光の推進

伝統・文化・企業・農業・食・スポーツ等における体験交流型の観光に係る地域資源の掘り起こしと磨き上げを進めるとともに、特に「掛川茶」、「掛川駅」、「掛川三城」、「報徳の教えと生涯学習」、「自然資源」の5つの地域資源を観光振興の核とし、優先的に推進していくことで、観光と地域産業の連携を強化します。また、ターゲットを掛川ならではの魅力に惹かれて来てくれる方とし、交流人口拡大を図ります。

②広域連携型観光の推進

周辺自治体や関係事業者との広域連携により、それぞれの自治体が持つ魅力的な地域資源を組み合わせた観光商品や観光コースの設定、観光プロモーション活動を実施し、当地を選んでもらえるような活動をしていくとともに、日本版DMOについて研究します。

③外国人観光客誘客の促進

増加する外国人観光客を本市に誘客するため、外国人の興味・ニーズにあわせた観光プロモーション活動の実施、観光サイトやパンフレットの充実及び観光案内看板等の多言語化への対応、人材育成等に取り組みます。

また、市内主要施設に公衆無線LANの整備を進め、外国人が常に情報を得られる環境を整えます。

④魅力的で効果的な観光情報の発信

観光情報に関し、ホームページやSNS、雑誌、広告等による一方的な情報発信ではなく、まずは市民が地域資源の魅力を知り、その魅力を多くの人々の力でシティプロモーションにより拡げていくことで、観光情報が活性化する仕組みづくりを進めていきます。

■主要事業

事業名	事業内容
体験交流型観光メニューの整備と情報発信	・伝統・文化・企業・農業・食・スポーツ等を活用した体験交流型観光メニューの整備、情報発信
世界農業遺産と掛川茶の活用事業	・茶のまち掛川を体験できる環境整備やプログラムづくり ・世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の情報発信
観光プロモーション	・都市圏における商談会への参加や旅行会社への営業訪問実施 ・メディアへの情報発信 ・県観光協会との連携による外国人の興味・ニーズにあわせたファムトリップの実施や海外情報誌掲載 ・広域連携協議会等、周辺自治体や関係事業者との連携による魅力的なイベントの開催や情報発信
農泊の推進と情報発信	・掛川ならではの生活体験と人々との交流を楽しむ農泊の推進と情報発信
周遊を促すコースとサービスの提供	・掛川駅を起点とする市内周遊コースの拡大と活用 ・「掛川まる得パスポート」の利用推進
広域連携型観光事業	・遠州観光協議会等との連携による観光商品づくりと周遊を促すコースの設定 ・富士山静岡空港周辺地域観光振興研究会との連携による誘客活動の実施 ・浜名湖ガーデンツーリズムによる滞在型観光地域づくり
外国人観光客誘客の促進事業	・外国人が一人歩きできる多言語化対応推進、外国人観光客の滞在日数に見合ったルート等の設定 ・キャッシュレスの普及促進
魅力的で効果的な観光情報の発信	・掛川観光協会との連携による、公式 Facebook「掛川観光ホット NEWS」や Instagram を活用した情報発信
情報インフラ等整備事業	・掛川市公衆無線LAN推進協議会との連携による、公衆無線LAN (Wi-Fi) の環境整備と普及促進、移動式Wi-Fiの活用推進

4-② 協働力によるシティプロモーションと移住・定住の促進

■目指す姿

- ・各世代がバランスよく住み、お互いが本市に愛着をもって協力し合いながら、地域活動や産業活動が活発に行われています。

■現状と課題

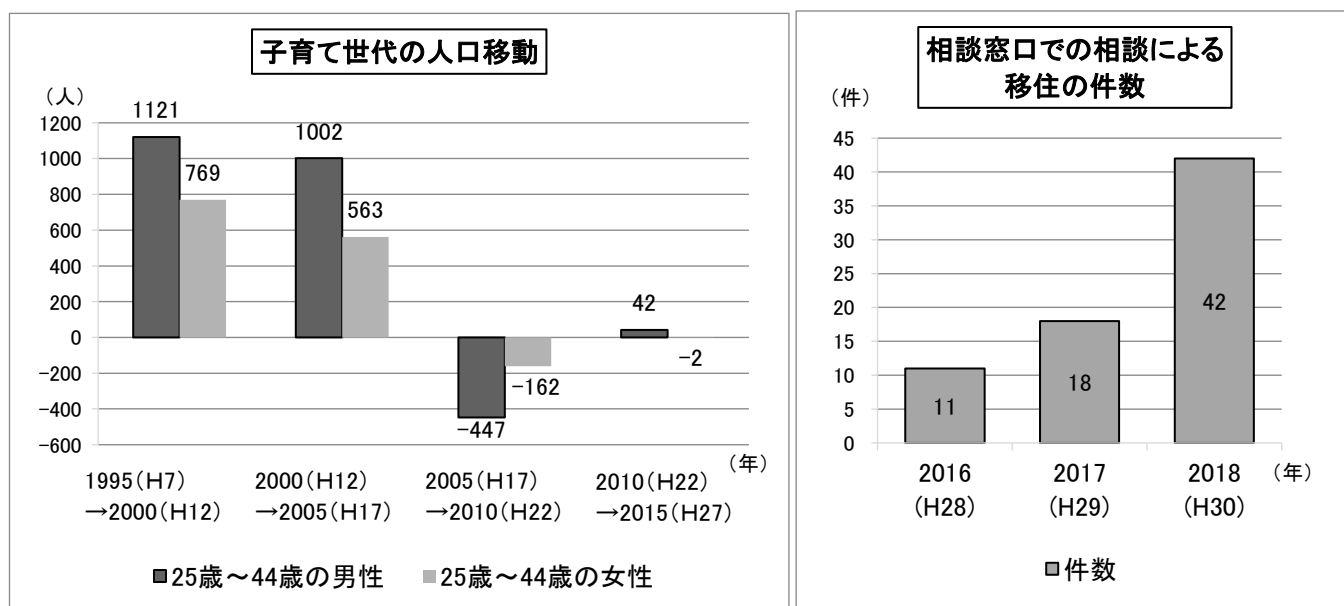
本市の人口は、平成 17 年（2005 年）から平成 27 年（2015 年）にかけて 2.8%の減少に転じ、生産年齢人口割合は減少傾向に、高齢化率は上昇し続けています。また、社会動態をみると、平成 21 年度（2009 年度）から平成 26 年度（2014 年度）までは、転出が転入を上回り「社会減」が続いており、平成 27 年度（2015 年度）以降、転入が転出を上回り「社会増」が続いています。

人口の減少、特に生産年齢人口の減少は、地域活動や産業活動の停滞、社会保障の負担増大等地域の社会経済に大きな影響を与えることが予想されます。

年代別の人口移動を分析すると、平成 17 年（2005 年）以前は、子育て世代と考えられる 20 代後半から 40 代前半の世代は転入超過にありましたが、平成 17 年（2005 年）から平成 22 年（2010 年）においては転出超過となり、平成 22 年（2010 年）から平成 27 年（2015 年）においては転入超過となったものの、増加幅は少なくなっています。

また、平成 27 年（2015 年）に実施した転入・転出者調査によると、県外や浜松市等への転出入の理由は、「就職・転職」や「転勤」等の仕事に関する理由が多い一方、近隣市町への転出入の理由は、「住宅の都合」や「結婚」が多い傾向でした。

これらの結果から、就職期・結婚期・住宅需要期を迎える若い世代が生涯の拠点として選択したくなるよう、まちの個性や魅力を積極的にプロモーションし、施策を推進していく必要があります。本市のもつローカルイズムと交通の便の良さや豊かな自然環境を生かし、定住を促すための魅力的な住宅・宅地の供給や誇りとなる故郷の個性の発信、移住を促すための情報発信や支援体制の整備等が求められます。



■施策の方向

①シティプロモーション戦略の推進

現在、市内に住んでいる人はもちろん、市外に住んでいる人が本市に関心や愛着を持ってもらうために、充実した就業環境や子育て環境等の情報発信、地域資源を生かしたまちのブランドイメージを形成し、市民総ぐるみでのシティプロモーションに取り組みます。

また、県外からの移住促進のため、本市のみならず静岡県素晴らしさや優位性を含め、広域的な視点から本市を暮らしの拠点とするメリットや魅力を発信していきます。

②移住・定住の相談窓口・支援体制の充実

移住・定住に関心のある人に、就職や住宅、生活環境等の情報提供や、移住・定住に関する相談を行う窓口を設け、住宅や就業、子育て等の支援組織との連携を推進します。あわせて、移住・定住の促進や、就業・子育て等を支援する助成制度等を研究・実施していきます。

③ふるさと納税制度を活用した魅力の発信

ふるさと納税制度を利用する市外・県外の方に、本市の食や文化、自然等の魅力を体感できる魅力的な体験型アクティビティ等の充実を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
シティセールスの推進事業	・東京や名古屋等の都市圏や、互産互消等で交流のある都市や地域におけるシティセールスの実施
市民参画によるシティプロモーション事業	・まちに愛着を持ち、魅力を語り、発信・拡散することでシティプロモーションに参画する市民の増加 ・市民、企業、学生等が参画する市民協働会議の活動を通じ、情報発信の手法や市の魅力を学ぶ機会を提供し、シティプロモーションの担い手を育成
移住促進情報サイトの充実	・移住促進情報サイトの充実（就職や住宅、生活環境等、移住希望者が必要とする情報の掲載）
移住・定住相談窓口の改善事業	・県等の関係機関と連携し、しごとや住宅等の生活情報をワンストップで提供する移住・定住相談窓口の充実
都市圏での出張相談事業	・東京や名古屋等の都市圏での移住・定住相談の実施
移住・就業支援事業	・東京圏からの移住による起業・就業者に対する支援金の交付
ふるさと納税体験型お礼の品の充実	・市外、県外の方の移住・定住につなげるためのふるさと納税の体験型メニュー等の充実

4-③ みんなが働ける雇用・就業の環境づくりの推進

■目指す姿

- ・雇用の場が確保されているとともに、市民が希望する就業環境が整っており、仕事と生活が調和した働き方ができています。

■現状と課題

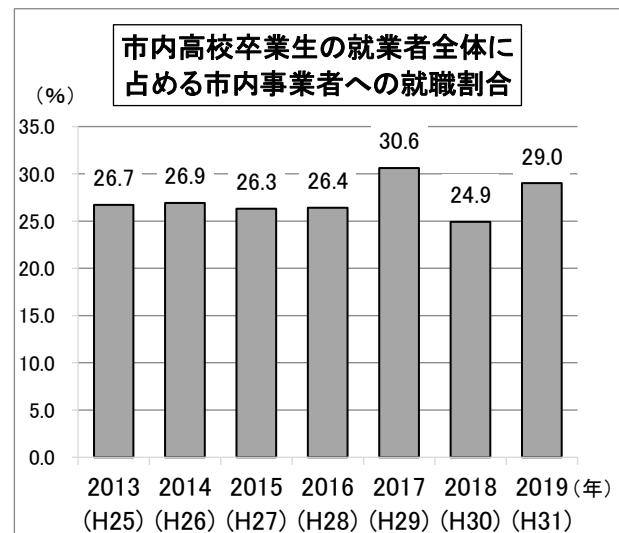
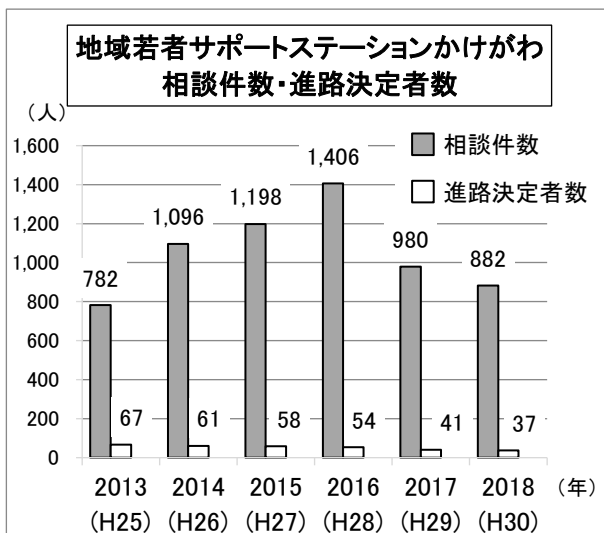
バブル崩壊以降、社会・経済の変化に伴い、雇用形態も変化し、非正規雇用者の割合が増加するとともに、女性の社会進出も進んでいます。

本市では、若者未就労者の職業的自立や勤労者の定住化等を図るため、これまで地域若者サポートステーションによる若年層への就業支援や勤労者に対する住宅・教育資金の貸し付け、内職の斡旋・相談、勤労者団体の事業支援等を実施してきました。

今後は、全国的な人口減少社会のなか、まちの活力を維持するため、様々な市民が希望する就業の場で安心して働ける環境づくりが求められています。

若者については、都市圏からのUIJターンを促すための若者の雇用の場の創出及び新卒者や既卒者に対する就職支援等が求められています。一方、高齢者については、多くの企業で定年が延長され、寿命が大きく伸びていることから、高齢者が健康で生きがいを持って暮らしていくことがますます大切になってきています。そのためには、社会参加、特に第二の人生における職業（セカンドキャリア）なども重要になってきています。

また、女性が働きやすい環境づくりやワーク・ライフ・バランスの啓発、障がい者の就労促進等を市民、企業、金融機関及び関係機関等と連携しながら促進する必要があります。



■施策の方向

①生涯働ける場の創出

かけがわ生涯ワーキングシステムを活用し、ベテランから若手にわたる多世代間の「事業力」の継承・向上を図るとともに、年齢に関わらず働くことのできる社会の実現に向けて、事業者や関係団体、市が連携し、雇用・就業機会の促進を支援します。

②雇用の場の確保と就労支援の充実

労働局と締結した雇用対策協定に基づく事業を推進するとともに、ハローワーク、商工団体、市内企業と連携し、求人・求職情報の提供及び就職相談体制の充実を図り、雇用と就業のミスマッチを改善します。また、若者の就労を支援している「地域若者サポートステーションかけがわ」の活動を支援します。

クラウドソーシングを推進し、働き方の選択肢を増やし、柔軟な雇用を進めます。

シルバー人材センターは、これまで以上に多くの会員の入会を促すため、地域や会員のニーズに的確に対応した事業の開拓などを促進します。

③地元就職の促進

高校企業説明会の開催や都市部の大学卒業予定者へのUIJターンの雇用の場の確保やインターンシップ等による就職支援を促進します。

④ワーク・ライフ・バランスの推進

市民や事業者等に対し、ワーク・ライフ・バランスの啓発を進めるとともに、実現のための取組を支援します。

⑤障がい者も働きやすい環境の整備

障がい者の就労を促進し、企業の人手不足解消に寄与するため、行政、ハローワーク、就労支援機関、企業等が連携して障がい者が働きやすい環境を整備し、障がい者雇用を拡大するとともに、障がい者及び企業に対する定着支援を継続します。

■主要事業

事業名	事業概要
かけがわ生涯ワーキングシステム事業	・専門的な知識・技術を持つシニア人材等を活用した企業への実務支援
雇用対策協定推進事業	・労働局と締結した雇用対策協定の推進による若年者や高齢者、女性、障がい者、生活困窮者等の就労等の促進
シルバー人材センター助成事業	・高齢者の臨時的かつ短期的な就業機会の場の提供をするシルバー人材センターへの助成
地域若者サポートステーション支援事業	・若者就労希望者への職業的自立支援活動を行う地域若者サポートステーションかけがわの活動支援
就職支援事業	・小笠地区雇用対策協議会と連携した企業説明会の開催やインターンシップの情報提供等の各種就職支援
女性就業支援事業	・女性の就業を支援するための講座の開催
障がい者就労支援事業	・就労を希望する障がい者の就労及び定着を支援するための事業所訪問、相談業務等

4-④ 掛川にしごとをつくる商工業の更なる発展

■目指す姿

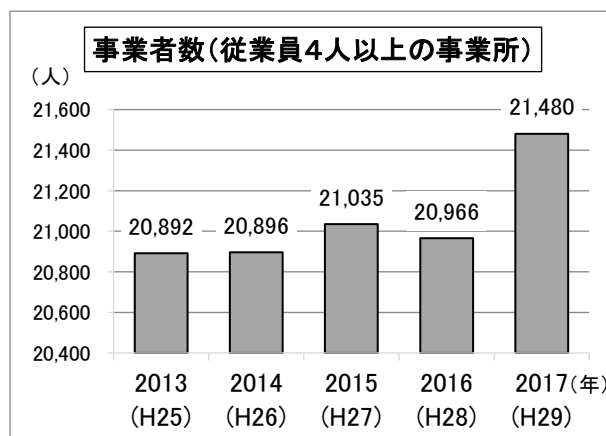
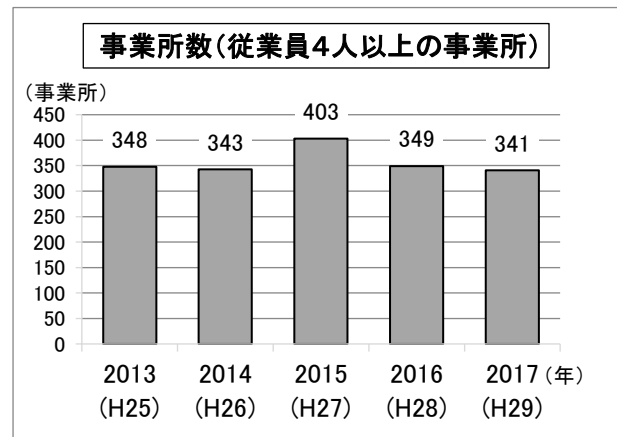
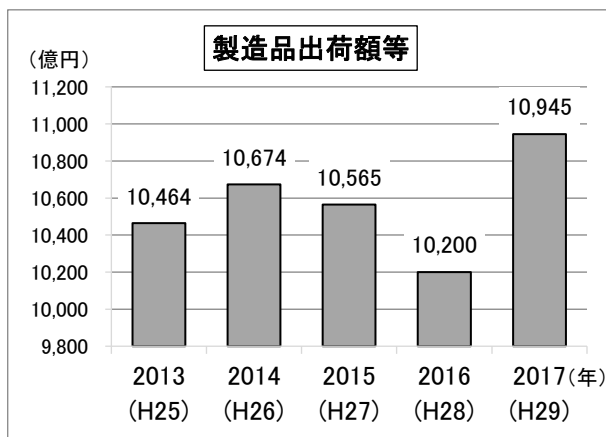
- ・競争力のある商工業の育成により、雇用が確保され、地域経済の活力が維持されています。また、新規創業者やベンチャー企業が育成され、地域経済が活性化しています。

■現状と課題

近年、我が国の商工業を取り巻く情勢は、本格的な人口減少や少子高齢化の進行、さらに地方においては若者の大都市圏への流出等により、需要や消費の縮小、労働力不足、後継者不足といった問題が深刻化しています。一方、地域が抱えるこれらの課題の解決に向けて、IoTやAI、ロボット、ビッグデータといった新技術が目覚ましい進歩を遂げるなど、これまでの産業構造が大きく変化するなかで、商工業においても持続可能な経済成長を推進していく必要があります。また、オープンデータの公開数は増加しており、今後はデータを利活用しやすい形式や仕組みで公開し、新たなサービスや産業等に活用することが求められます。

本市では、企業立地補助制度の導入等による企業誘致を進めているほか、南部地域の活性化や創業支援センターの研究等、市内の商工業活性化の支援に努めています。そのような中で、雇用の場の確保や税収増加を図るため、新たな工業団地（上西郷、新エコポリス第3期、大坂・土方）への企業誘致を推進するとともに、本社機能や研究・開発機能の誘致等の新たな投資の誘導、既存企業の規模拡大等への柔軟な対応等が求められています。加えて、新規投資に向けた補助制度の運用、若者や女性が働きたいと思う雇用の場の確保も必要です。また、本市周辺には、優秀なノウハウを持つ企業OBがいることから、中小企業等の地域産業力の向上に生かすことが考えられます。

一方、商業では、既存商店街はいずれも低迷し、活気を取り戻すことができない状況が続いています。そのため、商店街組合や個別店舗が行う活性化策への支援が求められています。



出典：工業統計(製造業)

■施策の方向

①中小企業及び新規創業者に対する支援

掛川市協働による中小企業振興基本条例や創業支援事業計画に基づき、商工団体や金融機関、市が連携し、中小企業及び新規創業希望者に対する相談体制の充実を図るとともに、融資や民間サービス等の情報提供を行います。また、企業や新規創業者等が連携する場の提供や、先導的な企業の探索等を行い、新産業を創出します。

②オープンデータ活用の推進

地域経済の活性化を図るため、行政機関が保有する様々なデータを利活用できる形式で公開する仕組みを整備するとともに、企業や他自治体とも幅広く連携することで二次利用を推進し、イノベーションの機会を創出します。

③市内企業に対する支援

市内の企業が抱える課題に対し、企業OBや商工団体、金融機関等と市が連携し、それぞれの有する能力やノウハウを活用することで、経営改善や技術開発、資金調達等への支援を行います。

④企業誘致の推進

補助制度の充実や総合的な誘致活動の展開により、既存企業の規模拡大、あるいは、本社機能や研究・開発機能の誘致を進めるとともに、上西郷工業団地、新エコポリス工業団地第3期及び大坂・土方工業団地への企業誘致を積極的に進め、産業集積の強化を図ります。

⑤地域商業の活性化支援

商店街組合や個別店舗が行う集客や賑わいの創出につながるイベント開催等への支援や商工団体と連携した商業活性化事業等、地域活性化事業に取り組みます。

■主要事業

事業名	事業概要
創業支援事業	・創業支援事業計画に基づき、ワンストップ相談窓口を設置し、関係機関と連携した創業支援
オープンデータデイ開催事業	・オープンデータの普及や利活用促進を目的とした市民対象のイベントの開催
企業支援事業	・掛川市協働による中小企業振興基本条例に基づいた中小企業への支援 ・御用聞き型企业訪問等とおした、企業活動の課題解決や活性化手法に関する情報提供等
企業支援補助事業	・工業用地販売促進のための企業立地促進事業費補助金及び新規設備投資と市民の新規雇用のための産業立地奨励事業費補助金の交付
工業用地整備事業	・上西郷地区、新エコ第3期地区及び大坂・土方地区における工業用地の整備
地域商業活性化事業	・集客や賑わい創出のために行う商店街の活性化事業等の支援

4-⑤ 多様な担い手による力強い農業ビジネスの確立

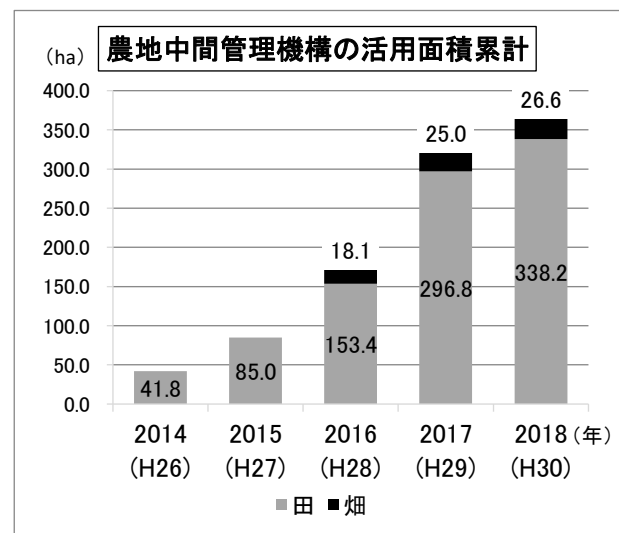
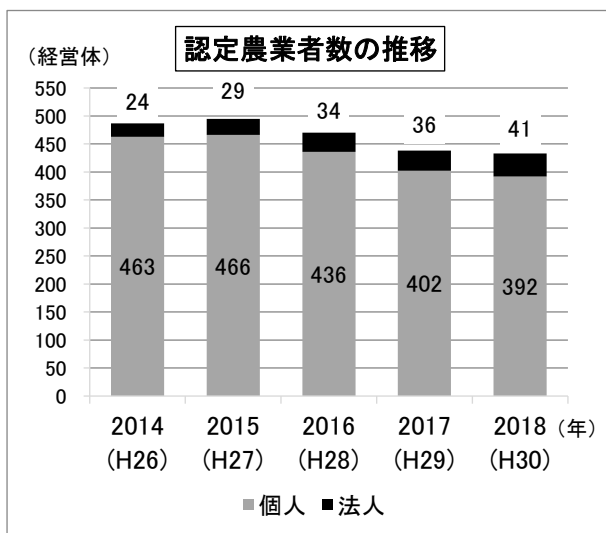
■目指す姿

- ・多様な担い手により適正に管理された農地において、地域の特性を生かした良質な農産物が生産され、安定的で活力ある農業経営が営まれています。

■現状と課題

本市では、恵まれた自然条件の下、北部の茶、南部の大規模水田、砂地を利用した露地野菜、施設園芸等、地域の特性を生かした多彩な農業が営まれてきました。

しかし、近年、輸入農産物の増加、水稻の生産調整見直しに加え、農産物価格の低迷や、農業従事者の高齢化、後継者不足などによる荒廃農地の増加、有害鳥獣被害など、様々な問題に直面し、農業をとりまく情勢は年々厳しさを増しています。特に、中山間地などの耕作条件の不利な地域においては、今後、急速な農地の荒廃と地域の活力低下が懸念されています。今後、強い競争力を持つ地域農業を確立するため、さらなる品質や生産性、農業者の経営体質の向上が求められています。具体的には、担い手が減少していくなか、安定した農産物の供給を図るためには、農地の集積・集約や法人化による規模拡大・効率化を進めていく一方で、それらを下支えする ICT 等の先進技術の普及促進や担い手となる新規就農者の育成を図る必要があります。また、多くの農業者は生産活動には精通していますが、流通、販売、消費に係る取組はあまり進んでいないことから、経営やマーケティングに関する知識・技術・情報力を向上させ、時代や消費者ニーズの変化に対応した経営手法に取り組む必要があります。さらに、国内市場の縮小が見込まれるなか、海外における和食人気や世界的な健康志向の高まりを追い風として、年々輸出量が増加傾向にある茶をはじめ、農産物の海外販路拡大についても推進していく必要があります。



■施策の方向

①安定的な農業経営の推進

様々な農業の担い手を育成するため、国や県の事業を活用して新規就農者の就農後の早期経営安定化、農業所得の安定化を目指す農業後継者の取組及び農業法人や企業等の参入を支援します。

また、安定的な農業経営を実現するため、複合経営や6次産業化、経営の法人化を検討する農業者等の取組を支援するとともに、JA等と連携し、担い手の組織的経営への移行についての研究を進めます。

さらに、事業継続を目的とした同種事業者間の事業承継（廃業後の施設譲渡、販路譲渡等）を推進します。

②実質化された「人・農地プラン」に基づく農業経営・農地利用の高度化

地域が主体となった将来の農地利用についての話し合いにより、「人・農地プラン」の実質化を推進するとともに、担い手への農地集積・集約や基盤整備や機械・施設、ICTやAI等の先進技術の導入等の集中的な支援を行い、農業経営・農地利用の高度化、農産物の品質の向上等を促進します。

また、生産効率の向上と、法人化等による継続的な生産体制の確立を推進するとともに、先進的な農業経営の情報収集・提供等により、農業従事者の経営意識の啓発を推進します。

③6次産業化等による収益性の高い農業の確立

消費者ニーズに対応した「売れる農産物」生産のためのマーケティング導入や経営の多角化、高度化を図る農業の6次産業化、農商工連携を推進し、農業者の収益向上を目指します。

また、農産物の生産段階における安全管理を確立し、信頼度の向上、販路拡大につなげる取組を支援するとともに、地産地消や互産互消、「生産者の顔の見える流通」等を支援します。

さらに、今後の需要の拡大が期待される農産物の輸出を見据え、グローバルGAP認証（G・GAP）や有機JAS等の環境に配慮した農業の組織的な取組を推進します。

④畜産のブランド化の推進

高収益型の畜産体制を目指し、畜産クラスターによる生産コストの削減や品質向上など、収益力・生産基盤を強化する取り組みを推進するとともに、乳製品などの畜産加工品の製造・販売の競争力強化の取り組みを支援し、畜産物のブランド化を推進します。

⑤オリーブ産地化の推進

主力作目との複合経営作目や地域特産品として、農業者・農協、行政等と地域が一体となったオリーブ産地化の推進体制を整備し、地域リーダーの育成やほ場・加工施設等の生産基盤の整備を推進します。

また、地域の食材、人材、技術その他の資源を効果的に結びつけ、地域の個性を生かした新商品の共同開発、消費者ニーズに対応した販売戦略、地場農産物の利用拡大等を推進します。

■主要事業

事業名	事業概要
担い手育成支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定農業者や新規就農者、後継者等の育成支援 ・ 個人経営からの法人化や企業の農業参入に必要な支援 ・ 県事業等を活用した農業ビジネスの展開に向けた経営力向上の支援
農地中間管理事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地中間管理機構を活用した、担い手への農地集積・集約 ・ 将来的に残すべき農地の荒廃化を抑制するための農地の利用効率化及び高度化の促進
人・農地プランの実質化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人・農地プランによる地域の話し合いに基づく担い手の位置づけと基盤整備等の集中的な支援
地産地消と互産互消の推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直売所等の活用による地産地消の推進 ・ 提携先都市と中東遠地域の地域産品の相互 PR・販売 ・ 地域産品のロット拡大及び市民への認知度向上
オリーブ産地化推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶と併用した健康戦略の展開 ・ 圃場整備等の経済的支援や栽培全般における技術的支援 ・ オリーブの加工、販売等に関する支援 ・ 担い手不足解消、障害者雇用の拡大に関する農福連携支援 ・ オリーブ利用に関する啓発
環境保全型農業の推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境の保全に資する農業生産活動の支援 ・ 有機農業の高付加価値化と海外等の新たな市場への開拓の支援

4-⑥ 世界に誇れる「お茶のまち」であるために、 儲かる茶業と「掛川茶」を楽しむ環境づくり

■目指す姿

- ・本市が茶産地として持続的に発展し、安定した農家所得の基に「掛川茶」のブランド化が推進され、掛川市民をはじめ、世界中の人々がおいしい「掛川茶」を楽しめる環境を創造しています。

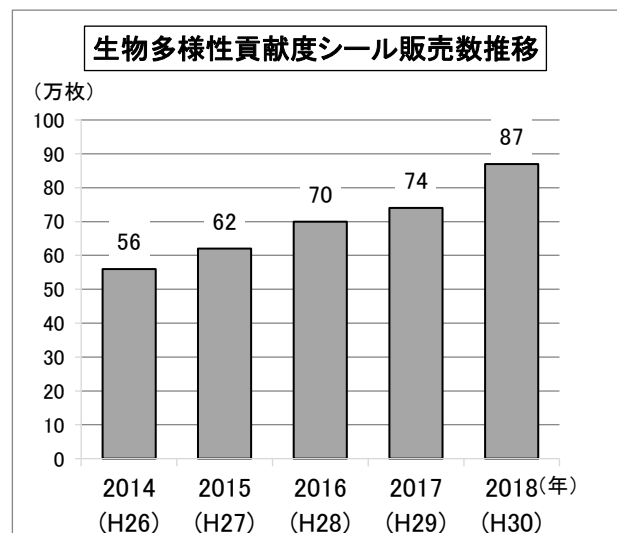
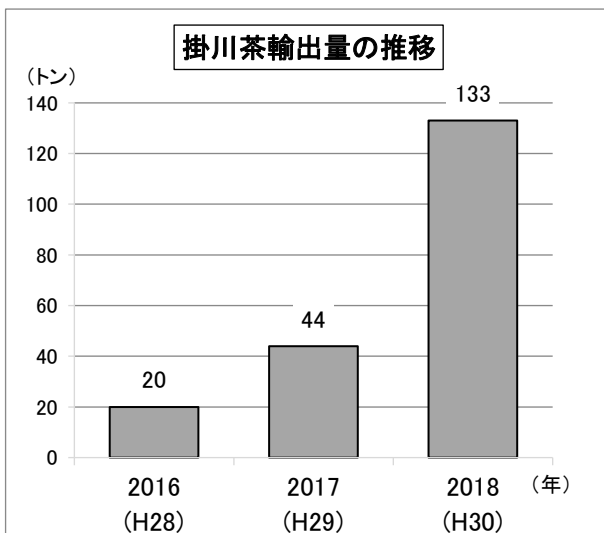
■現状と課題

本市は、全国茶品評会深蒸し煎茶の部で全国最多の「産地賞」受賞回数を誇る日本一の深蒸し茶の産地です。また、市内には高い仕上げ技術を持った茶商社が多くあり、高品質なお茶が生産・販売されています。

しかし、全国的な茶の消費量の減少や茶価の低下に伴い、本市の茶業界においても生産意欲の低下（高齢化・後継者不足）、共同工場の操業中止、茶園の耕作放棄地の増加といった負の連鎖が続く、厳しい状況にあります。

生産現場においては、これまで機械化や茶園の担い手農家への集積が進んだものの、いまだ多くの耕作茶園が点在しており、生産効率向上の効果は限定的です。担い手農家の規模拡大にも限界があり、安定的な茶生産を維持していくためには人的資源や機械等の効率的な活用を図る必要があることから、茶園集積に加えて、共同管理経営体の育成が必要です。

お茶（リーフ）の消費が低迷する一方で、原料用茶や有機栽培茶など、国内外で需要が増加傾向にあるお茶もありますが、用途に応じた生産が十分にできておらず、需要と供給にミスマッチが生じています。こうした需要の変化を捉え、柔軟な対応ができるよう、生産体制を整えていくことが必要です。「掛川茶」の消費拡大を図るためには、全国茶品評会「産地賞」の受賞、掛川スタディをはじめとする緑茶健康効能、世界農業遺産、緑茶で乾杯条例など掛川ならではの特色を生かしながら、効果的な情報発信を行い、ブランド化を推進することが求められます。また、「掛川茶」のブランド化のためには、呈茶サービス、茶摘み体験、生産者との交流などの体験を通して「掛川茶」の様々な魅力を発信していく必要があり、「掛川茶」との出会いと楽しむことができる環境の充実が求められています。また近年、日本全体で緑茶の輸出量が増加しています。掛川茶の輸出量も増加傾向にありますが、深蒸し茶の輸出量は少ないため、海外の農薬基準に適合したお茶の生産体制整備に加えて、海外での“深蒸し茶”の知名度向上と販路拡大が求められます。



■施策の方向

①「掛川茶」のブランド化の推進

22世紀も掛川が世界に誇れる「お茶のまち」であるために、「掛川茶」の生産者、茶商社、掛川茶市場、農業協同組合、消費者及び行政が一体となって、「掛川茶」の特徴を明確化することにより、更なる「掛川茶」のブランド化を推進します。特に、全国茶品評会での「産地賞」の連続受賞は、「掛川茶」の品質を示すとともに、茶産地としての知名度及び生産者の技術向上につながることから、生産者の荒茶品質の向上に向けた取組を支援します。

②高付加価値のお茶の生産体制の確立と輸出推進

茶の品質向上に向けた取組をはじめ、茶園集積や共同管理を推進するとともに、原料用茶、有機栽培茶など、ニーズに合った高付加価値のお茶の栽培技術の普及、低コスト生産・製造技術の普及支援及び生産体制の確立を図ります。

また、海外の農薬規制に適合したお茶の栽培のため、地域が一体となった農薬防除体系の構築等、生産体制を確立するとともに、海外の茶教育機関等と連携した「掛川茶」の認知度向上と販路拡大に努めます。

③健康機能等を活用した「掛川茶」の販路拡大

事業者、大学及び市が連携し、緑茶効能研究に取り組むとともに、お茶の有する健康機能を企業の健康経営と結びつける等、活用・PRすることにより、新たな商品開発や販路拡大に取り組みます。

また、静岡県人会、大手商社及び首都圏の大企業等へのお茶ひろめ隊活動などにより、消費の拡大を図ります。

④世界農業遺産の保全継承と活用

茶草場農法の維持・拡大のため、農法実践者、事業者及び世界農業遺産「静岡の茶草場農法」推進協議会（静岡県及び構成団体4市1町）が連携し、効果的な情報発信による世界農業遺産の認知度向上、茶草場ボランティアなどによる作業負担軽減、グリーンツーリズム・インバウンド等の農観連携事業を進め、茶草場農法により生産された茶のブランド化による高付加価値化を図ります。

⑤安定的な農業経営の推進【再掲】

様々な農業の担い手を育成するため、国や県の事業を活用して、新規就農者の就農後の早期経営安定化、農業所得の安定化を目指す農業後継者の取組及び農業法人や企業等の参入を支援します。

また、安定的な農業経営を実現するため、複合経営や6次産業化、経営の法人化を検討する農業者等の取組を支援するとともに、JA等と連携し、担い手の組織的経営への移行についての研究を進めます。

さらに、事業継続を目的とした同種事業者間の事業承継（廃業後の施設譲渡、販路譲渡等）を推進します。

⑥実質化された「人・農地プラン」に基づく農業経営・農地利用の高度化【再掲】

地域が主体となった将来の農地利用についての話し合いにより、「人・農地プラン」の実質化を推進するとともに、担い手への農地集積・集約や基盤整備や機械・施設、ICTやAI等の先進技術の導入等の集中的な支援を行い、農業経営・農地利用の高度化、農産物の品質の向上等を促進します。

また、生産効率の向上と、法人化等による継続的な生産体制の確立を推進するとともに、先進的な農業経営の情報収集・提供等により、農業従事者の経営意識の啓発を推進します。

⑦緑茶で乾杯文化の醸成による茶業振興

緑茶の消費拡大、緑茶で乾杯する文化の醸成及び地域活性化を図るため、「緑茶で乾杯」をお客様に推奨する店舗の増加を図るとともに、事業者、市民及び市が一体となった掛川茶の情報発信の取組を行います。

⑧「掛川茶」を楽しむことのできる環境作り

宿泊施設や飲食店などの事業者、茶業関係者等と連携し、呈茶サービス、茶摘み体験、生産者との交流などの「掛川茶」との出会いを楽しむことのできる環境を整えるとともに、効果的な情報発信に努めます。

■主要事業

事業名	事業概要
掛川茶輸出戦略推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・掛川茶ブランドを海外市場で確立していくための効果的な情報発信 ・掛川茶市場における輸出茶対応ルールの策定 ・輸出対応茶の生産拡大
掛川茶消費拡大事業	<ul style="list-style-type: none"> ・緑茶の健康効能の研究及び企業の健康経営等への活用・PR ・緑茶で乾杯文化の普及 ・静岡県人会、大手商社及び首都圏の大企業等へのお茶ひろめ隊活動などの実施
世界農業遺産茶草場農法推進活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・茶草場農法の維持・拡大及びブランド化による高付加価値化 ・世界農業遺産の認知度向上 ・茶草場ボランティア等による実践者の作業負担軽減 ・グリーンツーリズムやインバウンド等の農観連携事業の推進と販路拡大
掛川茶振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ・JA、生産者、茶商及び本市で組織する掛川茶振興協会を主体とした、広告宣伝、消費地対策、地域ブランド化及び地産地消推進等 ・T-1 グランプリや月夜の茶摘み会などお茶のまちづくり事業の実施
日本一茶産地推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・茶園の集積、共同管理推進 ・茶品評会の支援 ・輸出に向けた生産体制の確立支援 ・低コスト製造・生産技術の普及支援
担い手育成支援事業【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者や新規就農者、後継者等の育成支援 ・個人経営からの法人化や企業の農業参入に必要な支援 ・県事業等を活用した農業ビジネスの展開に向けた経営力向上支援
農地中間管理事業【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ・農地中間管理機構を活用した、担い手への農地集積・集約 ・将来的に残すべき農地の荒廃化を抑制するための農地の利用効率化及び高度化の促進
人・農地プランの実質化【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ・人・農地プランによる地域の話し合いに基づく担い手の位置づけと基盤整備等の集中的な支援

5-① 自助・共助・公助による防災・減災対策

■目指す姿

- ・自助による防災対策が強化され共助・公助による防災力強化及び災害時の迅速な救出救護活動により、各種災害での死亡者がいません。

■現状と課題

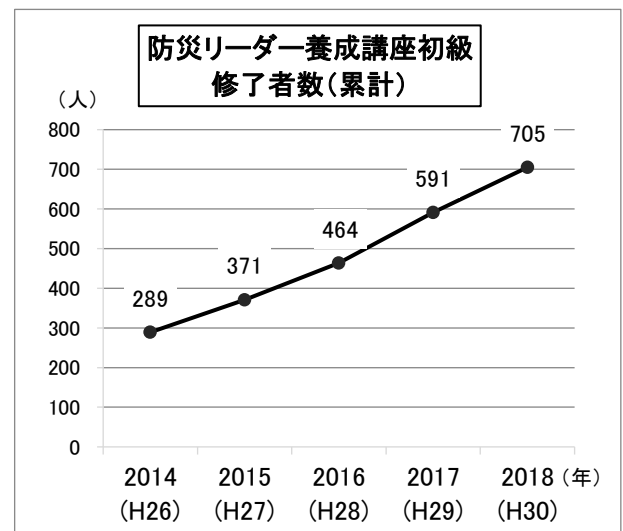
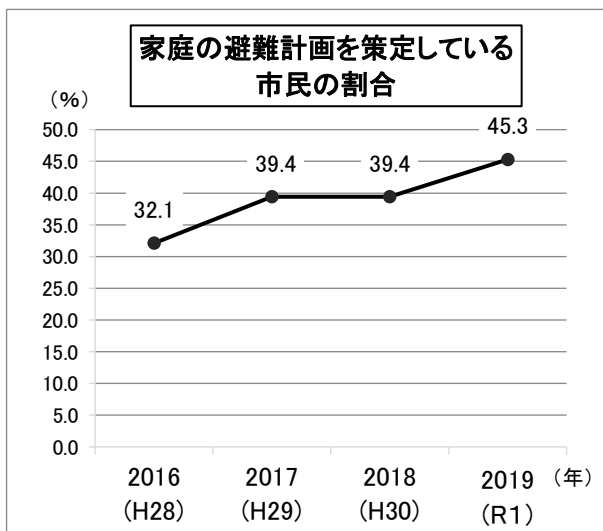
近年、全国で台風や集中豪雨などの大雨による洪水や土砂災害による甚大な被害が、毎年のように発生しています。

そのような中、本市では、市民、事業者及び行政が一体となって日本一防災意識の高いまちを築き、全ての市民が安全で安心して暮らせる地域社会を実現するため、平成 31 年（2019 年）4 月に「掛川市防災意識を高めるまちづくり条例」を施行しました。また、市民等の防災意識の向上を図るため、地域や学校、幼稚園、事業所等で防災出前講座を開催するとともに、災害はいつでも起こりうることを念頭に置き、災害種別ごとの「家庭の避難計画」の作成や「自主防災会防災計画」、「地区防災計画」の策定を進めています。

また、南海トラフの巨大地震を想定した「静岡県第 4 次地震被害想定」や 1000 年に 1 度の最大規模の浸水想定では、本市に甚大な被害が発生するとされており、「掛川市地域防災計画」や「防災ガイドブック」の見直しが求められます。さらに「掛川市地震・津波対策アクションプログラム 2014」「掛川市国土強靱化地域計画」に基づいた防災・減災対策を進め、あらゆる自然災害による死亡者ゼロを目指した、地域防災力の強化や家庭内の安全対策、要支援者対策、外国人の防災対策の推進が必要です。

近年は、市民の防災・減災への意識は全体的に高まってきているものの、地域や各家庭における災害種別ごとの避難行動に対する認識不足、地域ごとの防災減災に対する意識に温度差がみられます。地域や家庭での防災力を高めるため、今後も市民や地区への一層の啓発や全市民参加による各種防災訓練の実施、人口減少や高齢化を見据えた地域で防災活動する人材の育成及び女性の参画を進めることが求められます。

原子力災害については、本市の全域が「緊急時防護措置を準備する区域（UPZ）」に定められているため、「掛川市原子力災害広域避難計画の方針」を策定しました。しかし、冬期避難や渋滞対策、要支援者対策など課題が多いことから、今後は市民への計画の周知を行うとともに、国や県、関係機関と連携して、課題の解決に向けた取組を継続的に進めることが求められます。



■施策の方向

①総合的な防災・減災体制の確立

あらゆる自然災害による死亡者ゼロを目指し、「掛川市地震・津波対策アクションプログラム 2014」や「掛川市国土強靱化地域計画」を全庁横断的に取り組むとともに、「掛川市防災意識の高いまちづくりを推進する条例」に掲げているように、市民、地域、事業者等と協働ですべての自然災害について防災・減災対策を推進します。また、要支援者対策や外国人対策を進めます。

あわせて、「掛川市地域防災計画」や「掛川市防災ガイドブック」を見直すとともに、災害対策本部体制の充実を図り、防災資機材等の整備を進め災害時に備えます。

②自助を基本とする防災意識・防災力の向上

防災講座や防災訓練を通じて、自らの命は自ら守るための「家庭の避難計画」作成や家庭内の防災対策、食料やその他必要品の備蓄など事前の備えについて普及啓発し、自助による防災力の向上を図ります。

③共助による地域防災力の向上

自主防災会防災計画や地区防災計画の策定を推進し、地域での防災意識の向上や防災資機材の充実など事前の備えについて普及啓発するとともに、防災リーダーの養成や家族全員が参加する実践的な防災訓練の実施により、共助による地域防災力の向上を図ります。

④原子力災害に関する対策の推進

「掛川市原子力災害広域避難計画の方針」の市民等への周知や避難訓練等を実施するとともに、要支援者対策や冬期対策、渋滞対策など課題の解決に向け、国や県、関係機関と連携した取組を進めていきます。

⑤情報発信の強化と相互受発信体制の整備

被災状況を迅速に確認するためのシステム導入を進めるとともに、同報無線、防災ラジオ、携帯メール、SNS など情報伝達の多様化を促進し、効果的な活用を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
アクションプログラム及び国土強靱化地域計画の推進	・「掛川市地震・津波対策アクションプログラム 2014」及び「掛川市国土強靱化地域計画」の進捗管理と確実な推進
災害時要配慮者支援事業	・災害時要配慮者の避難支援体制の確立、福祉避難所の設置促進
防災教育の推進	・防災リーダーの育成、子どもへの防災教育、防災研修や出前講座の開催
家庭内防災対策推進事業	・耐震シェルター、防災ベッド、家具の固定など防災対策の啓発や利用促進、補助金の交付 ・「家庭の避難計画」の作成推進
自主防災会支援事業	・自主防災会防災計画の策定、防災資機材の整備補助、防災リーダーの育成、防災講座への講師派遣
地区防災計画策定	・地区まちづくり協議会を基本とした災害時要配慮者への支援を含む「地区防災計画」の策定、
原子力災害避難体制の確立	・「掛川市原子力災害広域避難計画の方針」の市民への周知、避難訓練の実施
情報伝達機材整備事業	・防災ラジオの全戸配布（貸与）、防災メールの登録推進 ・同報無線、地域防災無線等の維持管理

5-② 災害に強い住宅や都市基盤施設等の整備

■目指す姿

- ・住宅、公共施設や都市基盤施設の耐震化により災害に強いまちとなっています。

■現状と課題

地震による倒壊被害を最小限にとどめるためには住宅の耐震化が重要ですが、家屋所有者の高齢化、多額の施工費用が掛かることなどから、思うようには進んでいません。耐震化に取り組みやすい助成制度の整備や啓発を進め、耐震化率の更なる向上が必要です。

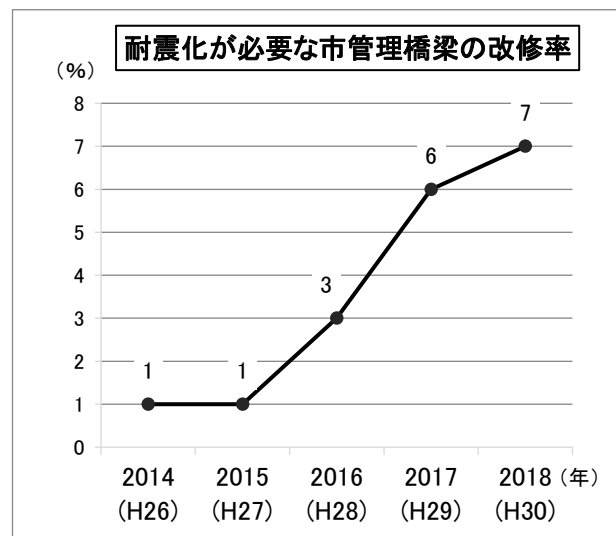
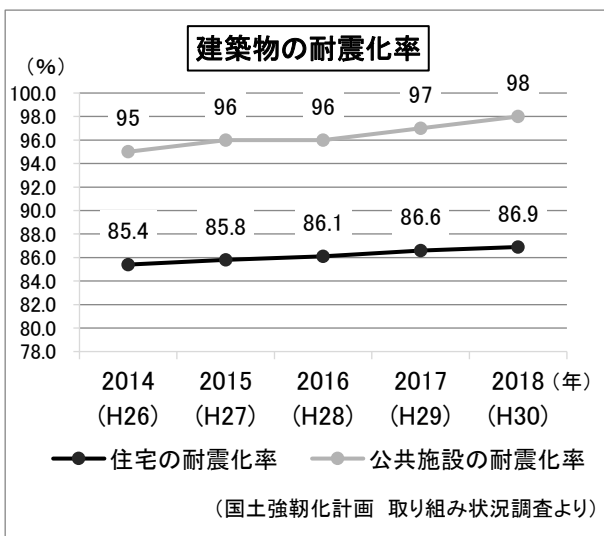
公共施設(建築物)については、耐震補強工事等が優先的に進められており、今後は行革・公共施設マネジメントの推進を図る中で、各種施設の適切な改築、改良を進めることが求められます。

水道施設は、被災時のライフライン確保のため基幹管路を耐震管へ早期に布設替える必要がありますが、管路耐震化は事業費が多額であり、計画的な事業推進が求められます。

道路については、緊急輸送路等の主要な道路の整備を推進するとともに、道路ネットワーク上の橋梁のうち67橋において、早期の耐震補強対策が必要です。

近年の局地的集中豪雨や台風の多発に対しては、浸水被害の軽減及び解消対策として、河道の拡幅・堤防の嵩上げ・バイパス水路等の整備が必要です。

また、東日本大地震を契機に津波に対する備えの重要性が高まっており、海岸線を有する本市において喫緊の課題であることから、津波防御機能の強化が求められています。



■施策の方向

①水道施設の計画的な更新と耐震化

耐震性にすぐれた水道管路(基幹管路及び一般管路)の整備とともに、浄水場、ポンプ場、主要配水池の耐震化を計画的に進めます。

②危機管理対策の強化

主要な自己水源6箇所に非常用電源を設置し、災害発生による停電時でも取水・送水を可能とし安定した給水を可能にします。

また、施設の危機管理対策として、各水道施設に侵入防止柵の設置を進め、施設の安全を図ります。

③下水道処理施設の耐震化

下水道施設の耐震化と、被害の最小化を図る「減災」を組み合わせた対応を進めつつ、耐震性の劣る汚水処理施設については下水道事業へ編入して施設再編を行います。

また、地震被害によるマンホールの浮上防止、風水害や停電に備えた体制整備を進めます。

④住宅等耐震化の促進

住宅等の耐震化を促進します。特に、旧耐震基準により建設された(昭和56年(1981年)以前)木造住宅や危険なブロック塀については、助成制度の整備充実を図り、事業者や地域とも連携して耐震化の啓発を進めます。

⑤公共建築物の安全・安心の確保と適正管理

耐震性能の強化等、安全性の向上を図ると共に、公共施設の適正配置等に向けて各種施設の改築・改良を推進します。

⑥農業用ため池の耐震化と豪雨災害対応の推進

農業用ため池は、耐震性と被害想定を把握するとともに、堤体の補強及び危険箇所の整備を推進します。

⑦海岸防災林強化事業「掛川モデル」と希望の森づくりの推進

国や県事業との協力・連携、市民や企業との協働により、レベル2津波に対応した高さへ防潮堤の嵩上げを進めるとともに、希望の森づくり事業等により、海岸防災林を植樹・育樹します。また、平時には市民や自転車道利用者らが集い、散策できる森林レクリエーションや交流の場の創出を図ります。

⑧橋梁の耐震化の推進

大規模地震時における避難路や緊急輸送路を確保するため、橋梁の耐震化を推進します。

⑨河川整備の促進

台風・豪雨等の自然災害による洪水や浸水を防ぐため、河川整備の促進を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
基幹管路及び一般管路の耐震化事業	・基幹管路(導水管、送水管、口径φ300mm以上の配水管)総延長90.0kmの布設替え及び管路全体の耐震化率の向上
浄水場、ポンプ場及び配水池の耐震化事業	・浄水場6箇所、送水ポンプ場6箇所、配水池19箇所の耐震化の推進
水源施設への非常用電源整備事業	・主要な市内6箇所の水源への非常用電源の設置
水道施設の危機管理対策事業	・水道施設の監視体制の強化と侵入防止対策の実施
汚水処理施設の耐震化と公共下水道への編入	・耐震性の劣る老朽化施設の公共下水道への編入
下水道総合地震対策事業	・重要な幹線管渠等耐震化工事、マンホールの液状化対策の実施
住宅等耐震化の促進事業	・住宅やブロック塀の耐震改修の促進 ・掛川市耐震改修促進計画の見直し(R3~R7計画) ・市民が安心して相談できる体制づくり及び助成制度の整備充実
屋内運動場改築等事業	・老朽化した屋内運動場の耐力度調査に基づく改築事業または長寿命化のための大規模改造事業の実施
ため池等整備事業	・耐震性点検及び洪水に対する予防に対応する工事の実施
海岸防災林強化事業 (掛川モデル)	・レベル2に対応した防潮堤の嵩上げ、市民や事業者等との協働による植樹・育樹の実施による海岸防災林強化 ・森林レクリエーションや交流の場の整備
橋梁耐震補強事業	・耐震補強の計画的な促進
河川整備事業	・河川断面の確保・護岸整備等の河川整備の促進
浸水対策事業	・台風・豪雨時における浸水被害の軽減及び解消のための整備

5-③ 消防救急の迅速化・高度化の推進

■目指す姿

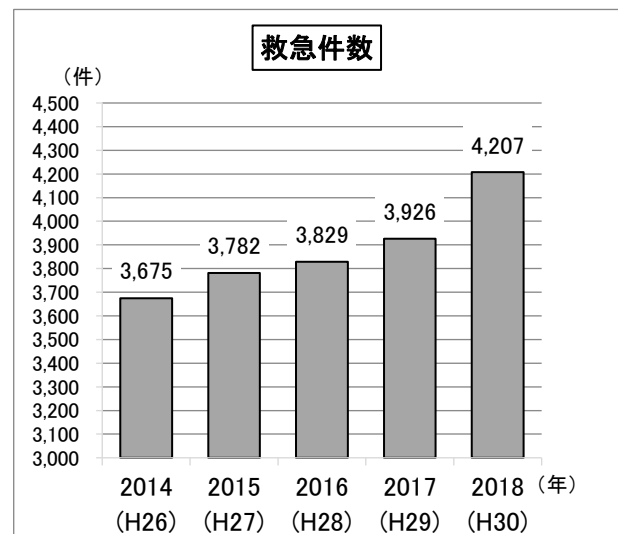
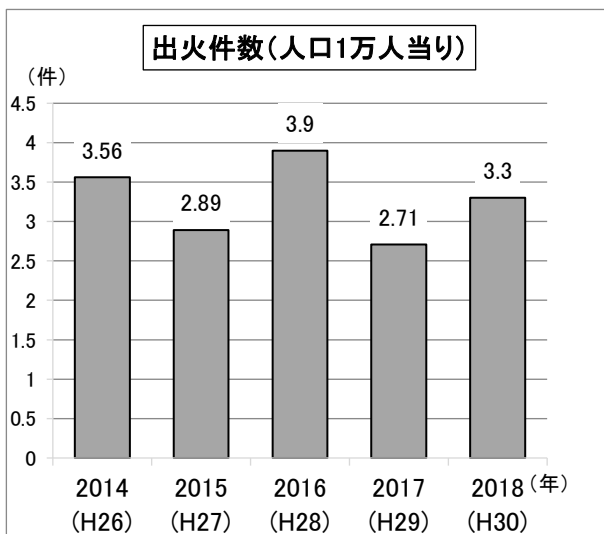
- ・消防救急体制の充実により、市民の生命、身体及び財産への被害が最小限に食い止められており、市民から信頼されています。

■現状と課題

近年、社会情勢の変化の中で、本市においても既存の常識では予想されない災害や事故が発生する可能性があり、また、想定される南海トラフ巨大地震による甚大な被害も懸念されているため、災害対応力の強化が急務となっています。

年々増え続ける救急件数は、人口の集中する市街地への出場が多発しています。また、市民の高齢化に伴い更なる増加が予想され、救急需要への対応として、救急体制の充実や救急業務の高度化などの対策が早急に求められます。

消防においては、消防を取り巻く環境の変化に的確に対応し、多様化する市民ニーズや期待に応じていく必要があります。加えて、少子化やコミュニティ意識の希薄化に伴う消防団員確保の問題など、魅力ある消防団づくりに向けた施策の工夫が求められます。



■施策の方向

①救急体制の強化

中央消防署の救急隊を増隊し、救急体制の充実を図り、少しでも早い現場到着の実現により、救命率と社会復帰率の向上を目指します。

また、救急業務の高度化を図るため、救急救命士の養成や隊員教育、高規格救急車の配備、医療機関との連携強化を進めるとともに、市民への救命手当の普及と救急車の適正利用の啓発に努めます。

②消防力（人・機械・水）の充実

災害対応力の強化を図るため、各署所に必要な人員の配備を行うとともに、消防を担う人材の確保や育成に努めます。

また、はしご付消防車などの車両や資機材の配備、耐震性貯水槽及び消火栓の計画的な整備を進めます。

③予防体制の強化

火災から市民の生命、身体及び財産を守るため、住宅用火災警報器の設置と維持管理を推進し、住宅火災による死亡者ゼロを目指します。

また、大型店舗や大規模工場などの防火対象物に対し、予防査察による法令遵守の指導、中高層建築物の防火対策と危険物施設の安全対策の強化に努めます。

④消防の広域化

市民サービスの向上、人員配備の効率化と充実、消防体制の基盤の強化を目指し、広域における消防救急体制のあり方について検討を進めます。

また、広域化に向けて、近隣消防本部との一部消防業務の応援など、柔軟な連携・協力体制の構築について検討を進めます。

⑤消防団組織・活動の活性化

地域防災力の要である消防団組織を維持するため、消防団拠点施設の整備、消防ポンプ車の更新や団員の処遇の改善を行うとともに、消防団員を確保するため地域や企業への要請を継続していきます。

また、消防団の能力向上に努めるとともに、地域防災のエキスパートとして自主防災会と連携した消防団活動を推進していきます。

■主要事業

事業名	事業概要
中央消防署専従救急隊2隊配備	・中央消防署への専従救急隊2隊配備
耐震性貯水槽・消火栓の整備事業	・火災による被害の軽減を図るため、「消防水利の基準」に基づく消防水利の計画的整備の推進
住宅用火災警報器の設置・維持管理の推進	・住宅所有者への住宅用火災警報器の設置と維持管理の啓発
東遠地区3消防本部による消防・救急業務の連携・協力	・消防・救急業務の一部について、柔軟な連携・協力体制整備の検討
消防団拠点施設の整備、車両更新、個人安全装備品の貸与	・老朽化した分団消防センターの改築や長寿命化 ・消防ポンプ車の更新、個人安全装備品の貸与

5-④ 交通安全と防犯の意識向上と環境整備

■目指す姿

- ・市民や地域の交通安全と防犯への意識が高く、交通事故と犯罪に遭う市民が減り、誰もが安心して住めるまちづくりが行われています。

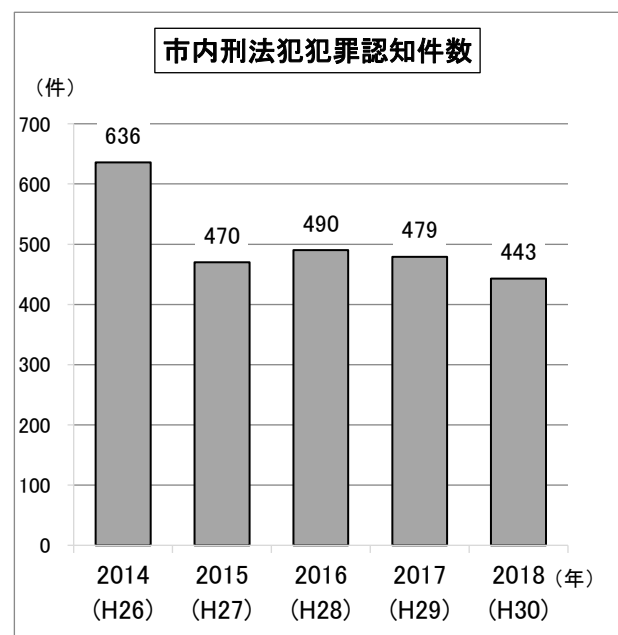
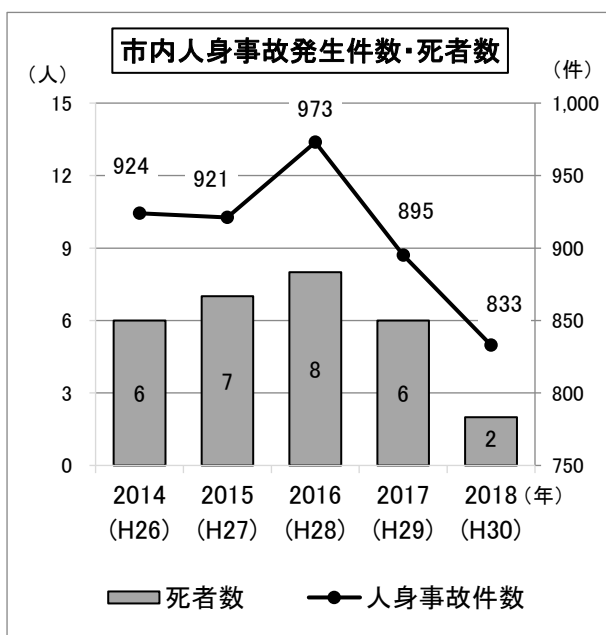
■現状と課題

市内の交通事故(人身事故)は平成15年(2003年)の1,167件をピークに減少傾向が続いているものの、現在でも年間800件程度が発生しています。本市の事故の特徴は、追突事故と出会い頭事故の割合が高く、交通事故の約7割を占めており、脇見運転、ながら運転の防止啓発と「止まる、見る、待つ」の周知徹底を行う必要があります。

また、子どもや高齢者等の自発光式反射材の着用率向上を図るとともに、交通安全意識の高揚や通学路における安全施設の整備及び経年劣化等への対処による安全確保が求められています。

自転車利用については、平成31年(2019年)4月1日に「静岡県自転車ので適正な利用の促進に関する条例」が施行され、本市においても自転車利用者の運転マナーの向上、自転車損害賠償責任保険等への加入を促進していく必要があります。

掛川警察署管内の刑法犯犯罪認知件数は、平成15年(2003年)の1,929件をピークに減少傾向にありますが、依然として空き巣、自転車盗難等の身近な犯罪が年間450件程度発生しています。また、高齢者を狙った振り込め詐欺や架空請求詐欺等、犯罪が多様化しています。子どもや高齢者等を犯罪から守るため、地域、学校、警察、行政等の関係機関の連携を強化し、一体となった取組が必要です。



■施策の方向

①交通安全教育の充実等による交通安全意識の高揚

学校、自治区、警察、交通安全協会掛川地区支部等の関係機関と連携し、交通安全指導員による交通安全教室の開催により、市民の交通安全意識の高揚を図るとともに、自発光式反射材の着用推進を継続して推進します。特に子どもと高齢者を対象とした交通安全教育を進めます。

②交通安全推進団体等による交通安全推進への取組支援

掛川市交通指導員会、掛川市交通安全母の会、交通安全協会掛川地区支部等、関係機関と連携し、家庭や職場、各地域における交通安全推進活動を支援します。

③交通安全施設の整備と維持管理

市内各自治区からの要望を踏まえ、道路標識、道路標示、横断歩道、カーブミラー、その他の安全施設整備を進めます。特に通学路やお散歩ルート（幼保園）の安全対策については、関係機関と連携し、早期改善に努めます。

④高齢運転者の事故防止の推進

高齢者やその家族からの安全運転相談に応じアドバイス等を行います。また、「高齢者安全運転自主宣言書」の提出を呼び掛け、安全運転の意識高揚と交通事故抑止を図ります。

さらに、アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故防止を図るため、車両への急発進・誤発進防止装置の普及に努めます。

⑤自転車安全利用の推進

学校、警察、交通安全協会掛川地区支部等の関係機関と連携し、自転車運転マナーの向上と自転車損害賠償責任保険等への加入促進を図ります。

⑥防犯体制の強化

掛川市防犯リーダーの会等の自主的な防犯活動に取り組む団体の育成・支援を推進するとともに、警察、自治区、掛川地区防犯協会等の関係機関との防犯体制の強化を図ります。

また、駅周辺の市街地に街頭防犯カメラの設置を推進するとともに、自治区が設置する防犯灯への補助事業を継続して行います。

⑦地域防犯力の向上

防犯リーダーの育成や掛川地区防犯協会、防犯リーダーの会等関係機関との連携により、犯罪を未然に防ぐ対策や犯罪に遭わないまちづくりを推進します。

また、自治区による街頭防犯カメラの設置について、補助制度の創設を引き続き検討します。

⑧家庭内防犯力の向上

防災（交通安全・防犯）メールマガジンへの登録を推進し、メールマガジンによる不審者発生等の情報提供と注意喚起を呼びかけます。また、高齢者がいる世帯を対象に詐欺電話防止装置の普及を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
交通安全運動推進事業	・春、夏、秋、年末等の交通安全運動計画を策定し、警察、関係団体と共に市内全域で様々な運動を展開
交通安全教育事業	・子どもや高齢者等を対象とした、学校や自治体、事業所等による交通安全教育の実施
交通安全活動団体支援事業	・掛川市交通指導員会、交通安全協会掛川地区支部、掛川市交通安全母の会等の交通安全推進活動に対する支援金の交付
交通事故相談事業	・交通事故当事者に対する、示談や事務手続きに関する相談窓口の設置
高齢者安全運転自主宣言事業	・75歳以上の高齢運転者に「補償運転」の実行宣言への啓発及び認定証の交付
自転車の安全利用推進	・小、中学生、高校生を中心に自転車利用時のマナー向上、点検整備の推進や万が一の事故に備えた損害賠償責任保険への加入推進
防犯団体支援事業	・掛川地区防犯協会や各地区において自主的な防犯パトロールを実施する団体への支援金の交付及び備品等の貸与
防犯灯設置支援事業	・新たにLED防犯灯を設置する自治区に対する補助
防犯リーダーの育成	・防犯リーダーの育成及び犯罪防止活動への活用
街頭防犯カメラ設置事業	・自治区による街頭防犯カメラ設置への補助
詐欺電話等対策機器購入費支援事業	・詐欺電話等対策機器設置の補助制度の創設

5-⑤ 人が集い、賑わいを生む中心市街地の再形成

■目指す姿

- ・中心市街地は市の玄関口及び歴史・文化を背景とした情報発信地として、人が集い、賑わいがあふれています。

■現状と課題

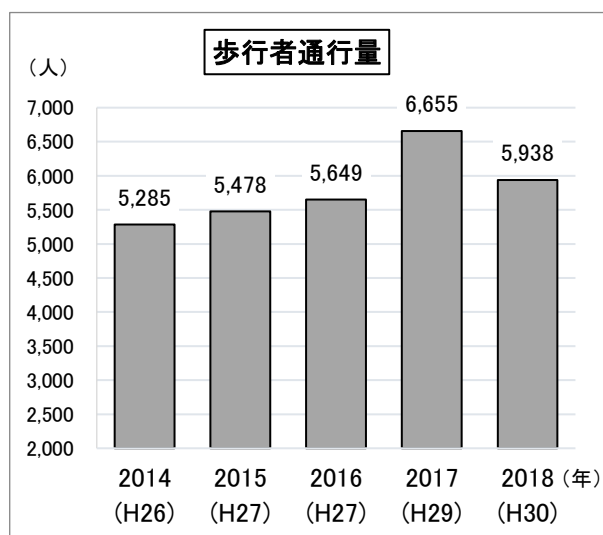
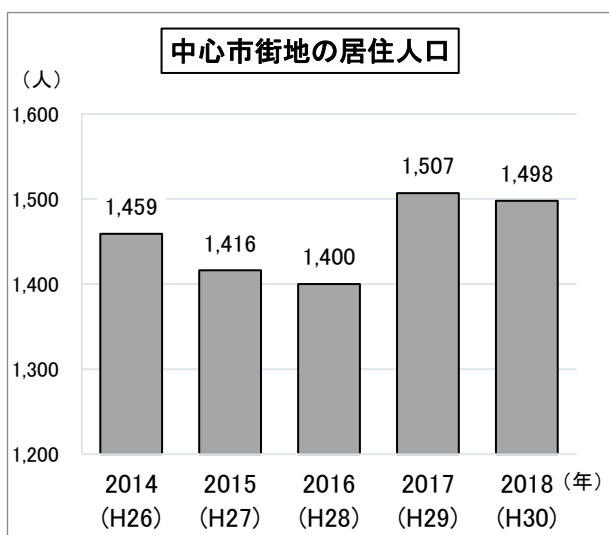
掛川駅周辺に広がる本市の中心市街地では、定住人口の減少、少子高齢化の進行、空き店舗の増加、賑わいの低迷等が起こっています。

それらの課題に対応するため、既に駅前東街区再開発事業により商業施設や住宅が整備され、駅前西街区開発事業では民間施設を核に子育て支援関連施設の設置が計画されていることから、今後も事業を着実に推進していくことが重要です。

また、これまでは車優先の都市構造や道路構造でまちづくりが進められてきましたが、駅周辺のまちなかにおける地域消費の拡大や交流人口の増加を促進するため、人々が集い、憩い、多様な活動を展開しやすい街路空間への転換が求められています。

一方で、近年では中心市街地の賑わいを創出する取組として、「けっトラ市」や「納涼まつり」等のイベントが根付き、今後も継続的な実施が求められます。

さらに、空き店舗を活用した魅力ある店舗の誘致や来訪者が利用しやすい憩いの場づくり等、来訪者の滞在時間を延ばし、地域を回遊させる工夫が求められます。



資料：かけがわ街づくり(pedestrian traffic volume survey
中心市街地主要7地点定点観測調査

■施策の方向

①中心市街地における活発な人の交流促進及び賑わい創出

本市の財産である掛川城周辺の地域資源を積極的に活用し、観光客をはじめ、様々な文化活動に市民が積極的に参加できる仕組みを整えます。

あわせて、「けっトラ市」や「納涼まつり」など、まちなかに賑わいをもたらすソフト施策の実施を推進します。

②中心市街地居住の推進

多極ネットワーク型コンパクトシティの構築に向け、中心市街地居住を推進していくため、都市拠点として都市機能の整備促進を図るとともに、空き店舗の解消、駅前西街区開発事業を着実に推進し、駅前東街区との相乗効果により生活利便性の向上を図ります。

③居心地が良く歩きたくなるまち「ウォーカブル推進都市」の構築

まちなかの公共空間を車中心から人中心の空間へ転換し、居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成することにより、多様な人々の交流を促し、まちが持つ魅力を向上させ、様々な人を惹きつける好循環を生み出します。

また、空間整備にあたり、市民や観光客等の来訪者にも利用しやすいよう、ユニバーサルデザインに配慮し、移動経路のバリアフリー化を推進するなど、歩きやすい歩行空間の実現を目指します。

■主要事業

事業名	事業概要
けっトラ市等歩行者天国イベント開催事業	・「けっトラ市」や「納涼まつり」など、まちなかに賑わいをもたらすイベントの開催
空き店舗等創業支援事業	・空き店舗を活用した物販や飲食などの創業支援、テナントミックス等の実施による空き店舗解消、賑わいの創出
西街区開発事業	・民間のノウハウや資金を活用した、子ども館、多目的ホール、駐車場等の整備
ウォーカブル推進都市に基づく事業の推進	・街路空間を再構築し、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりの取組を進め、まちなかを車中心から人中心の空間への転換の推進

5-⑥ 快適な都市環境づくりの推進

■目指す姿

- ・高度に機能集積された市街地から郊外の農村集落まで、地域それぞれの特性が活かされた快適な居住環境で市民が暮らしています。

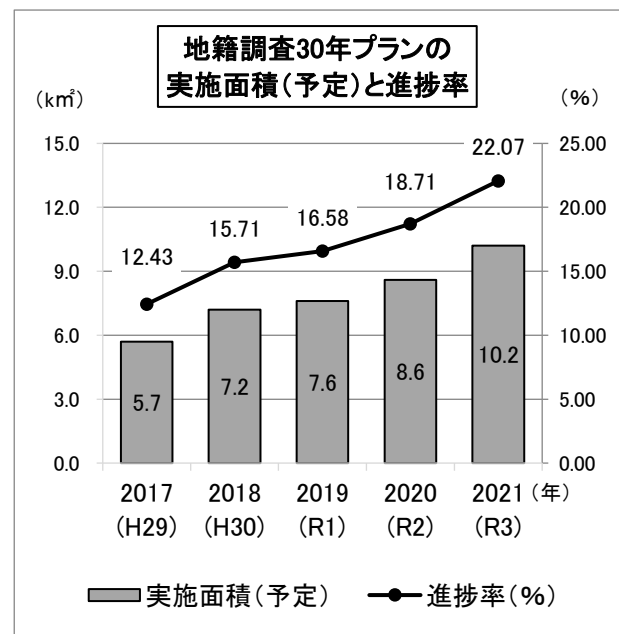
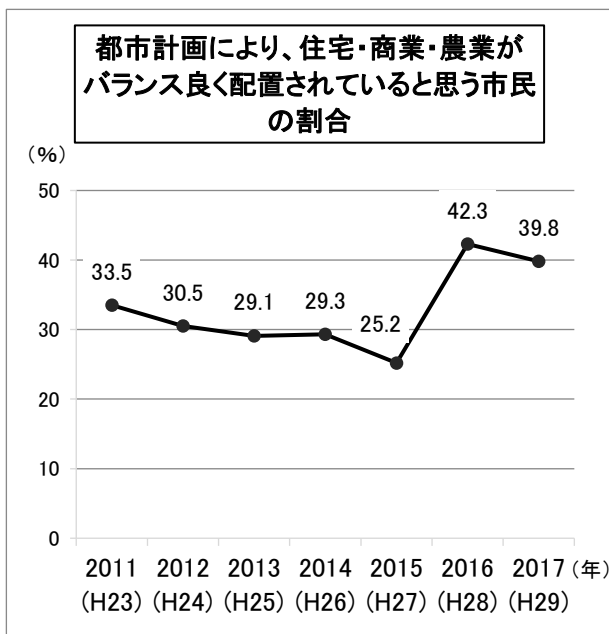
■現状と課題

少子高齢・人口減少社会が到来するなかで、一定の区域においては人口密度を保ち、都市として必要な機能を維持し、持続可能で快適な都市環境づくりを推進するコンパクトな都市構造への転換が求められます。

さらに、景観や歴史的な資源は、市民共有の財産であるという意識を持ち、保全や維持向上を図るとともに、地域資源として活用を努めることが求められます。

また、土地の境界の明確化と保全により、土地異動の円滑化や災害復旧等に対応するための地籍調査事業の推進が必要です。

生涯学習まちづくり土地条例に基づく特別計画協定区域においては、協定締結後、10年以上経過している場合があり、地区の現状を踏まえて、協定内容を見直すなど、協定に基づき、適切に土地利用を誘導していくことが求められます。



■施策の方向

①多極ネットワーク型コンパクトシティの推進

多極ネットワーク型コンパクトシティの都市構造を目指し、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に基づく都市構造の転換に加え、地域公共交通ネットワークの構築を図ります。

②良好な都市景観の形成

景観計画及び屋外広告物の適正な管理による良好な景観形成の推進に加え、歴史的風致維持向上計画に基づく歴史的風致の維持向上を図ります。

③地籍調査 30 年プランに沿った事業の推進

地籍調査事業においては、適切な事業区域の設定と調査業務の効率化により、事業の進捗を図るとともに、地籍調査事業以外の測量・調査についても同等以上の成果がある地区として指定を受ける（国土調査法第 19 条第 5 項指定制度）ことで、地籍調査 30 年プランの効率的な事業の推進を図ります。

④住民主体のまちづくりの促進

生涯学習まちづくり土地条例に基づく特別計画協定区域については、地区の現状を踏まえて協定内容を見直すなど、住民が参画する適切な土地利用の誘導を進め快適なまちづくりを推進します。

■主要事業

事業名	事業概要
都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に基づく事業	・都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に基づく事業の実施
立地適正化計画の推進	・立地適正化計画の周知 ・居住誘導区域内の居住メリットを高め、区域内への居住を促す支援の実施
都市計画事業の実施	・未整備の都市計画事業（道路、公園及び駐車場等）の実施
スマート IC 設置事業	・東名及び新東名高速道路のスマート IC の設置及び IC 周辺の土地利用の方向性の検討
街なみ環境整備事業の実施	・道路や公園等の公共施設や住宅等の修景整備
都市景観形成事業	・景観計画に基づく施策の推進
違反屋外広告物の指導	・違反屋外広告物の是正指導の強化
歴史まちづくり推進事業	・歴史的風致維持向上計画に基づく事業の推進
地籍調査 30 年プランの推進	・地籍調査や各種事業等による地籍の明確化
特別計画協定区域における届出制度による土地利用の規制・誘導	・協定区域の協定内容の見直し及び協定に基づく土地利用の誘導

5-⑦ 地域の足となる公共交通の整備・利用促進

■目指す姿

- ・通勤、通学、通院、買い物など市民生活に必要な移動手段が確保され、市民が不便を感じません。

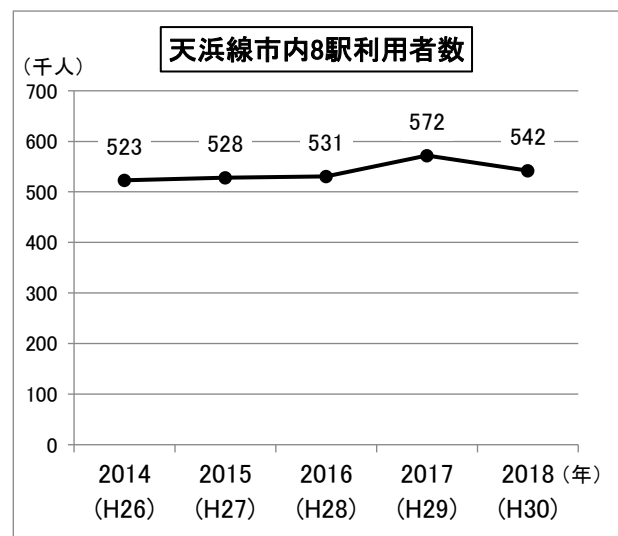
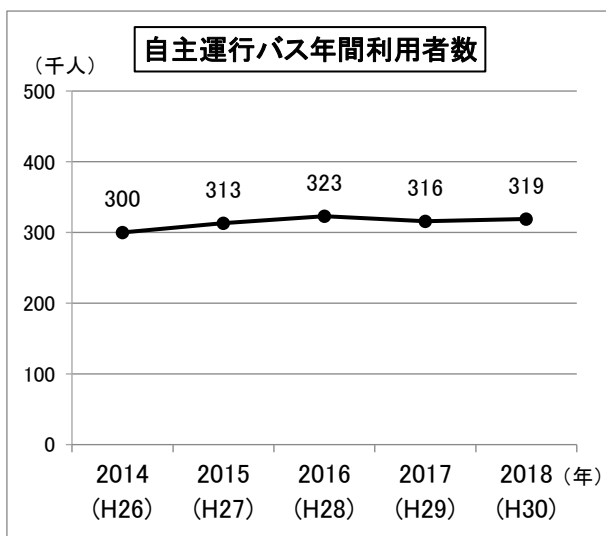
■現状と課題

本市は、東名高速道路及び新東名高速道路の IC、JR 東海道本線及び東海道新幹線掛川駅を擁し、東には富士山静岡空港が近接、西に向かっては天竜浜名湖鉄道が伸びるなど、恵まれた交通体系を持っています。これまで、天竜浜名湖鉄道、路線バス、自主運行バス、デマンド型乗合タクシーが市内の主な公共交通機関としての役割を果たしてきました。しかし、少子高齢やモータリゼーションの進展などにより利用者の減少が続き、行政による財政負担も大きくなってきています。また、最寄りの公共交通機関までの移動手段が無い高齢者世帯等が増加しています。

このような中、地域との協働による交通弱者の移動手段確保策として、中地区、原田地区、倉真地区で、道路運送法に基づく制度により地区が主体となって運行する生活支援車を導入しています。

市内の各地域では、地理的条件や人口密度等が異なり、公共交通に対する考え方にも相違があることから、各地域の地域交通協議会等において地域住民が主体となって、地域事情・特性を踏まえた移動手段を検討する必要があります。

また、異なる交通手段の連携や多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けた施策の検討が求められています。



■施策の方向

①利用しやすい地域公共交通の構築

交通事業者、関係市町、県と連携し、各路線の維持・改善を図るなど、地域公共交通全体を考えるなかで、市民にとって利用しやすい持続可能な地域公共交通網の形成を目指していきます。また、自動運転等の実用化を見据え、移動手手段の最適化を検討します。

②天竜浜名湖鉄道の利用促進

天竜浜名湖鉄道の利用促進を図るため、観光客のみならず、通勤・通学利用者の利用促進に向けた施策を積極的に天竜浜名湖鉄道市町会議に提案します。

③交通弱者の移動手手段の確保

運転免許返納時のサポート制度を活用し、高齢者の免許返納を促進するとともに、公共交通への転換を支援します。

デマンド型乗合タクシー及び生活支援車の運行改善や地域の実情に応じた交通手段の導入等を検討します。

④地域公共交通利用の利用促進

公共交通協働エリア内で、地域、交通事業者、行政が連携し、公共交通の利用促進や公共交通に愛着をもってもらふ取組を実施するとともに、分かりやすい公共交通の情報提供を行います。

■主要事業

事業名	事業概要
利用しやすい地域公共交通の構築	<ul style="list-style-type: none">・掛川市、交通事業者、関係市町、県などとの連携による軸線に位置づけた鉄道やバスの各路線の維持・改善・菊川市、御前崎市、袋井市、森町と連携した地域公共交通ネットワークの検討・自主運行バスの路線改善や運行方式等の検討
交通弱者の移動手手段の確保	<ul style="list-style-type: none">・高齢者免許返納支援制度を活用した高齢者の免許返納の促進及び公共交通への転換を促す支援・デマンド型乗合タクシー及び生活支援車の運行改善や地域の実情に応じた交通手段の導入検討・市民にとって利用しやすい料金体系の検討
天竜浜名湖鉄道利用促進事業	<ul style="list-style-type: none">・利用促進に向けた施策の検討及び天竜浜名湖鉄道市町会議への提案
地域公共交通利用促進事業	<ul style="list-style-type: none">・定期券、回数券、車体ラッピング等への、マスコットキャラクター・ロゴマークの積極的活用・「広報かけがわ」などを通じた公共交通の情報提供や、乗換案内サイトへの時刻情報の提供
広域交通利便性向上の研究	<ul style="list-style-type: none">・東海道新幹線掛川駅への「ひかり」の停車についての研究

5-⑧ 定住を促進する良質な住宅・住宅地の供給と空き家対策の推進

■目指す姿

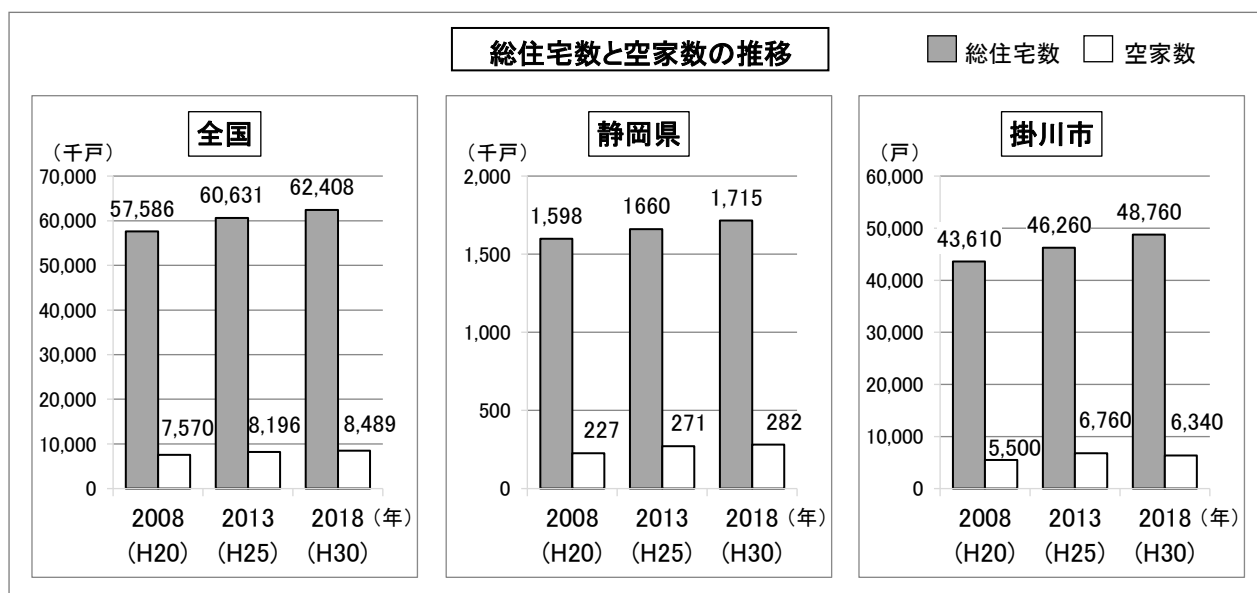
- ・良質な住宅が十分に供給され、誰もが安全で快適な居住環境の中で暮らしています。

■現状と課題

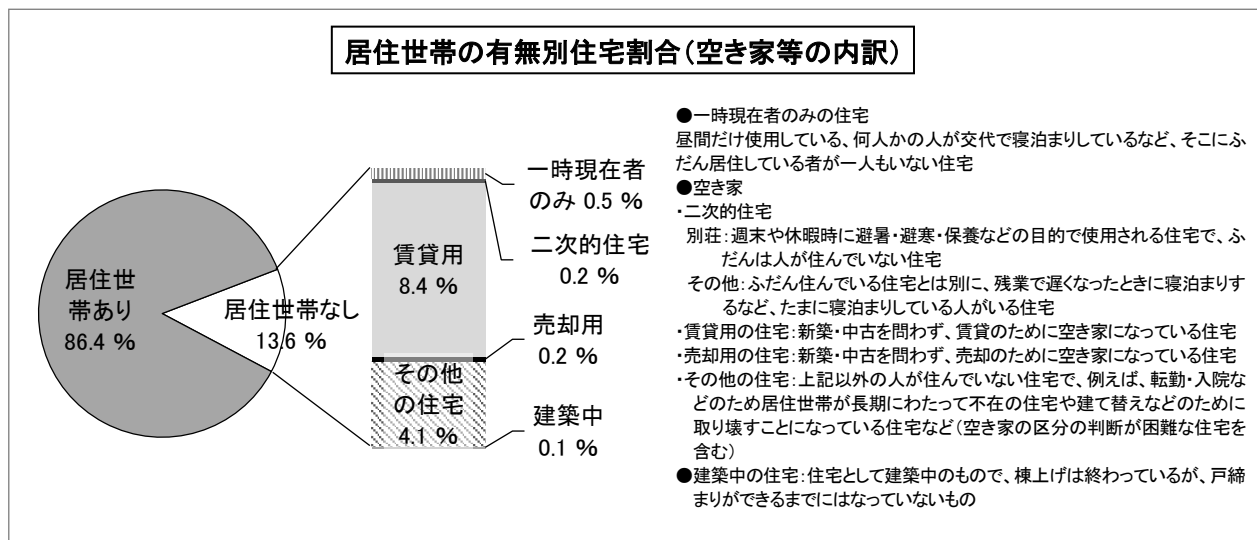
人口が減少傾向に転じているなかで、定住人口を維持していくための一つの手段として、居住誘導区域内における民間による宅地開発の誘導を進めるとともに、用途地域内に残る未利用地の利用促進や良質な宅地や住環境の維持・改善に取り組んでいく必要があります。

公営住宅については、単身高齢世帯の需要の増加など社会情勢にあった良質で安全な公営住宅の供給に努める必要があります。

平成 30 年度（2018 年度）の住宅・土地統計調査によると、本市の空き家（共同住宅等の空室を含む）は 6,340 戸であり、そのうち、賃貸・売却用等を除いた一戸建住宅は 2,150 戸、さらに腐朽や破損している住宅は 970 戸あります。これらの空き家への対策として、危険空き家の撤去や、空き家の活用（中古住宅の流通・リフォーム推進等）が求められます。



出典：平成 30 年住宅・土地統計調査



■施策の方向

①魅力的な住宅地の供給の推進

社会経済情勢、地域の現状等から将来的な住宅需要を的確に予測し、民間活力を積極的に生かし、移住・定住の場として選ばれる魅力のある住宅地の供給や住環境の整備を図ります。

②用途地域内低・未利用地における宅地の整備促進

社会情勢や市場ニーズに基づく土地区画整理事業の見直しと地区計画の策定等による良好な環境の整備、都市計画事業の実施や居住誘導の支援を行うなど、用途地域内における低・未利用地の効果的な活用を促進します。

③既存市営住宅の適切な維持管理

市営住宅は、社会情勢にあった運営を行うため、適切な維持管理を推進するとともに、適正なストックや配置を検討するなかで、既存施設の有効活用や集約を検討していきます。

④空き家活用の推進

増加傾向にある空き家について、撤去しなければならない物件、活用できる物件を仕分けし、活用できる物件については地域資源と捉え、所有者や地域と協力して活用を促進します。

■主要事業

事業名	事業概要
都市計画マスタープランに基づく都市計画の見直し	・未整備の土地区画整理事業の見直しや地区計画制度を活用したまちづくりの推進
民間開発による住宅地供給の促進	・未整備都市計画道路区間の整備促進等による、民間事業者の宅地開発の整備促進
市営住宅等長寿命化及び再編計画の策定	・市営住宅のストック及び配置の検討や、既存施設のユニバーサル化や長寿命化を図るための計画策定
空き家カルテの作成事業	・空き家の所有者や状態などをとりまとめた空き家カルテの作成
空き家等適正管理マネジメント事業	・危険空き家の撤去及び空き家活用に関する相談会の開催 ・空き家情報の発信 ・NPO団体との協働による啓発活動の推進

5-⑨ 中山間地域の生活環境の保全と維持

■目指す姿

- ・中山間地域の豊かな自然環境や歴史・文化、景観が保全され、それらを生かした暮らしや営みが維持されています。

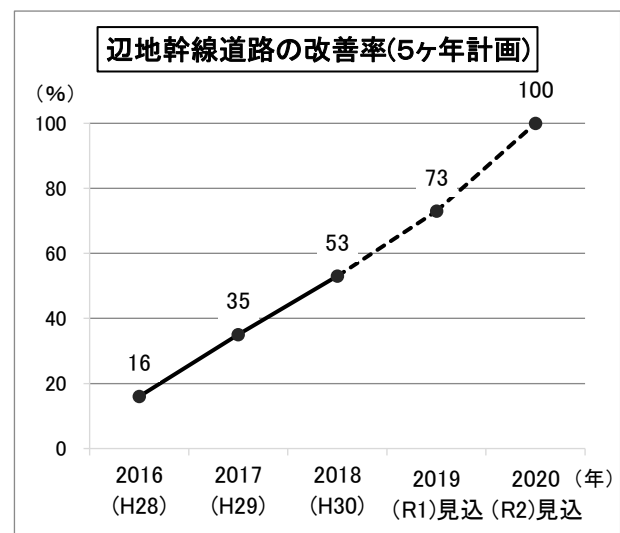
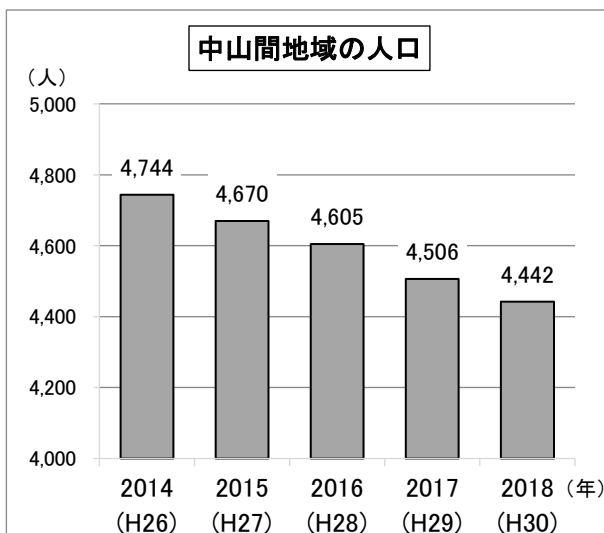
■現状と課題

本市に存在する中山間地域は、平地部に比べ地理的に条件不利地域であるため、人口流出が著しく、少子高齢化が進んでいます。このような地域では、将来的にコミュニティの維持が困難になる恐れがあり、NPO法人など新たな地域の担い手を育成する必要があります。

一方で、中山間地域は、田舎暮らし希望者に注目されている地域でもあります。倉真や原泉等の一部の中山間地域では、地域団体が移住・定住の相談を受けたり、移住者を受け入れたりしています。地域の観光施設やふじのくにフロンティア推進区域の指定等を生かすとともに、中山間地域の魅力をアピールする方を検討し、中山間地域居住をより一層推進することが求められます。

また、地理的条件の問題から、大規模災害時に集落が孤立することが想定されます。辺地総合整備計画に基づいた生活道路の整備を推進しているものの、事業期間が長期化していることから、孤立集落の発生防止に向け、中山間地域の暮らしを支える道路等の生活基盤の整備が求められます。

それらに加え、森の都ならここの里（ならここの里キャンプ場、温泉館）等の施設が老朽化していることから、施設の延命化、長寿命化を図り、更なる中山間地域の活性化に寄与することが求められます。



■施策の方向

①中山間地域居住の推進

中山間地域の移住・定住の促進を図るため、市内外及び県内外の移住希望者に対して、中山間地域の空き家情報を地域や市民団体と協働で提供します。

②道路等生活基盤施設の整備

災害時における孤立集落の発生防止及び都市と山村との交流促進、生活環境向上のため、生活基盤施設の整備を推進します。

③観光レクリエーション施設の整備

施設の延命化、長寿命化を図るため、森の都ならこの里（ならこの里キャンプ場、温泉館）等の整備を推進します。

■主要事業

事業名	事業概要
中山間地域の居住・定住の促進事業	・中山間地域の居住・定住の促進に資する中山間地域の空き家情報の発信
多面的機能交付支払交付金	・農地の多面的機能を支える共同活動の支援
辺地対策道路整備事業	・中山間地域の暮らしを支える生活基盤整備
中山間地域の観光レクリエーション施設等の改修・改築	・「森の都ならこの里」等の中山間地域の観光レクリエーション施設の改修・改築

5-⑩ 活発な交流を支える幹線道路の整備

■目指す姿

- ・市民の生活圏や物流の広域化に対応し、渋滞の無い快適な道路交通が確保され、人・もの・情報が活発に行き来しています。

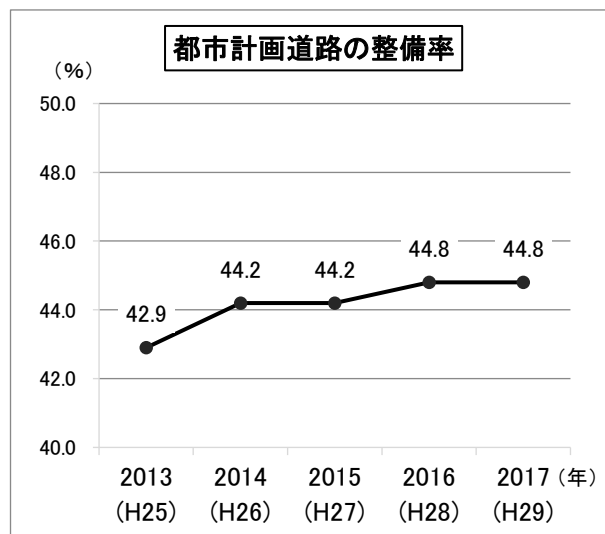
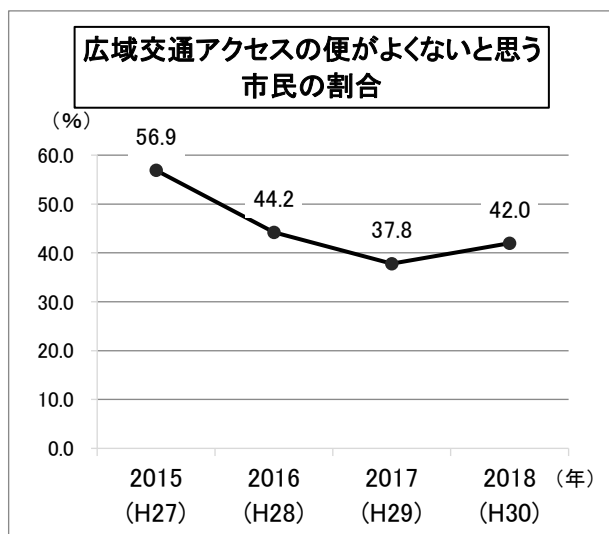
■現状と課題

本市では、これまで主要幹線道路の自然渋滞箇所の整備を着実に進めており、現在は、本市の南北を結ぶ南北幹線道路や東西方向の大動脈である国道1号線を中心に整備が進められています。

近年は、新東名高速道路、中東遠総合医療センター、工業団地等が新たに開発され、交通情勢は変化してきています。また、ふじのくにフロンティア推進区域の指定（寺島・幡鎌地区、倉真第2PA地区）により、新東名高速道路周辺の整備促進が図られています。

一方で、交通混雑の解消や防災面等から、道路整備に対する地元要望は多く、未着手路線が増加しています。

このような状況を踏まえ、多極ネットワーク型コンパクトシティを目指し道路整備プログラムに位置づけられた優先順位等に基づき、幹線道路の整備を計画的に推進することが求められます。



■施策の方向

①国道、県道の整備促進

整備が求められている国道、県道について、事業実施主体である国や県に対して、市や期成同盟会から積極的に働きかけるとともに、地区及び地権者との調整を推進します。

②コンパクトシティに向けた必要な道路の選定

都市計画道路の見直し等を進め、新たな道路体系を構築します。

③都市計画道路や幹線道路の整備推進

道路整備プログラムに位置づけられた優先順位等に基づき、幹線道路の整備を計画的に推進します。また、高速道路へのスマート IC 設置に向けて検討します。

■主要事業

事業名	事業概要
国道、県道事業の促進	<ul style="list-style-type: none">・ 国道や県道整備の事業実施主体である国や県に対して、市や期成同盟会からの積極的な働きかける・ 地区及び地権者との事業化に向けた調整の実施
広域連携道路ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none">・ 都市計画道路の見直し及び新たな道路体系の構築
道路整備プログラムの見直し	<ul style="list-style-type: none">・ 都市計画道路の見直しと道路整備に関する計画の再評価
幹線道路網の整備	<ul style="list-style-type: none">・ 道路整備プログラムに基づいた幹線道路整備
スマート IC 設置	<ul style="list-style-type: none">・ 東名高速道路及び新東名高速道路へのスマート IC 設置に向けた検討

5-⑪ 歩行者も車も安全に通行できる生活道路の整備

■ 目指す姿

- ・ 市民誰もが、市民生活を支える身近な道路を安全に、安心して利用しています。

■ 現状と課題

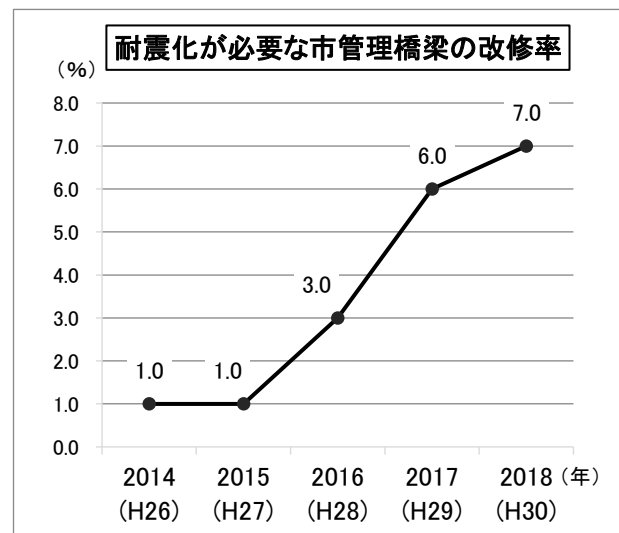
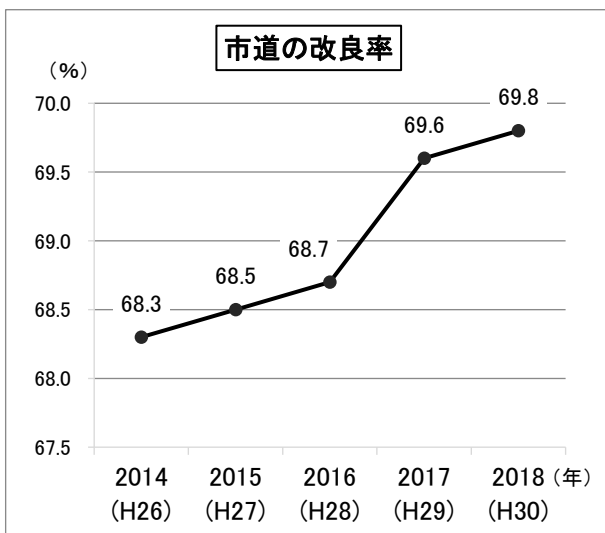
利便性が高く、安全で円滑な地域内交通を実現するためには、幹線道路整備に加え、市民生活に最も密接した生活道路の整備が求められています。特に、子どもの通学路や散歩コースとなっている箇所では、安全な歩行空間の確保が重要性を増しており、通学路交通安全プログラムに基づき通学路を中心とした合同点検（警察、教育委員会、道路管理者）を実施し、危険箇所の早期改善が必要です。

また、市街地の生活道路における歩行者の安全確保のために、警察と連携して“ゾーン 30”の区域を設定し、整備を実施しています。

市内の既成住宅地においては、緊急車両（消防車、救急車）が進入できない区域があるとともに、排水施設が整備されていない区域も多いことから、道路拡幅等を合わせた道路側溝等の整備が求められています。

また、大規模工場の通勤ルートやショッピングセンター周辺、福祉施設周辺等においては、渋滞緩和、あるいは自転車、歩行者の安全確保が求められています。さらに災害時の緊急車両通行のために、広域避難所等への避難路の整備や橋梁の耐震化も進める必要があります。

これらの整備においては、ユニバーサルデザインに配慮しつつ、効率的かつ効果的な事業推進のために、緊急性、必要性等を考慮した計画的な道路整備を行う必要があります。



■施策の方向

①市民ニーズを反映した安全で安心できる生活道路整備の推進

暮らしやすいまちづくりを目指し、市民生活を支える快適で安全な生活環境の整備推進を図ります。

②歩道等の歩行空間の安全性の確保

通学路や散歩コースを中心に、歩行者等の安全を考慮した道路・歩道の整備を図ります。

③産業を支え、周辺生活環境を維持する道路の整備

工場、流通、商業施設周辺における経済活動の促進と生活環境を守るため、必要な道路整備を進めます。

④高齢者や障がい者等に配慮した道路整備

高齢者や障がい者等が安全に利用できる、ユニバーサルデザインに配慮した道路整備を図ります。

⑤身近な避難路の確保

災害に強い安全・安心なまちづくりを目指し、避難場所への円滑かつ迅速な避難が行えるよう各地域の避難路となり得る生活道路の整備推進を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
生活道路新設改良事業	・安全な歩行者空間の確保や道路の拡幅など、地域の要望、緊急性、必要性に応じた道路の新設・改良等
交通安全施設整備事業	・通学路や散歩コースでの道路、歩道整備、交通安全施設（区画線、防護柵、グリーンベルト等）の整備、改修
都市再生整備計画事業	・市街化区域内の一定地域における、幹線道路、生活道路等の整備、改修
事業関連道路改良事業	・施設整備や河川改修等、環境の変化に伴い必要となる道路の整備、改修

5-⑫ 安全確保と長寿命化に向けた道路施設の維持管理の推進

■ 目指す姿

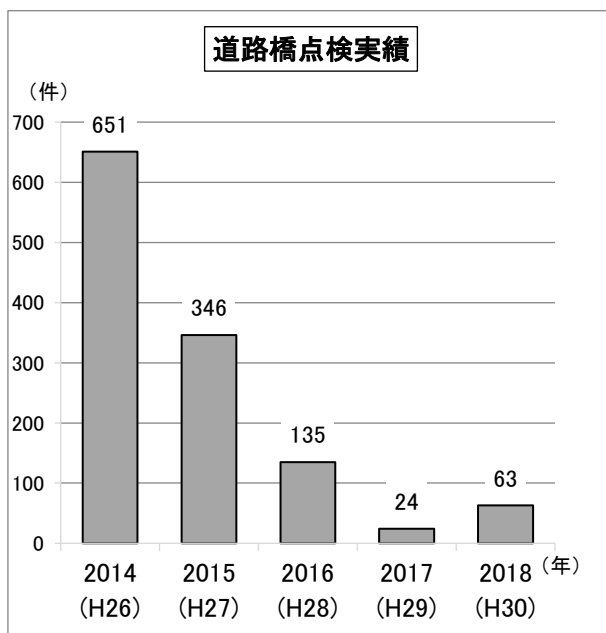
- ・ 効率的かつ計画的な維持管理により、道路を安全・安心に利用できます。

■ 現状と課題

道路施設の全体量の増加に伴い、維持管理業務も増加傾向にあることから、道路台帳や施設台帳の適切な整備により、効率的、計画的な維持管理を行う必要があります。

国の予算も新設改良型から維持管理型にシフトしてきており、橋梁、トンネル、横断歩道橋、門型標識等の構造物については、法令により定期的な点検が義務付けられ、全国的には事後保全型から予防保全型への取組に移行しています。静岡県においても道路メンテナンス会議等、維持管理に対する体制が強化され、本市においても、橋梁長寿命化計画等に基づき、計画的な補修を行っています。

一方、高齢化や人口減少等により、草刈り等、道路やその周辺の維持管理をする担い手が減少しています。道路管理に対する市民ニーズは多様化、複雑化しており、それらに応えるためには、市民、事業者、行政が協働で、維持管理を進めることが重要となります。今後も、多数の道路施設を中長期的に管理していく体制を整え、予防保全に努めていく維持管理のあり方を確立することが求められます。



道路構造物点検の結果

対象施設	点検実施済	判定区分			
		I	II	III	IV
橋梁	1,219	290	771	157	1

2018(H30)末実績

判定区分

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている。または生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

■施策の方向

①道路等の効率的かつ計画的な維持管理

道路台帳の更新及び施設台帳の整備を推進します。また、優先順位に基づく事後保全的、予防保全的な管理の整理を行い、効果的な維持管理の実現と計画的な修繕による経費の節減を図ります。

②協働による維持管理の推進

道路等の定期的なパトロール、点検等による危険箇所の早期発見と解消、修繕を実施するとともに、草刈り等の日常管理においては、住民、地域の事業者、行政等の協働により適切な維持管理を図ります。

③道路施設の長寿命化、ライフサイクルコストの縮減

橋梁、トンネル、横断歩道橋、道路標識等について、定期的な点検に基づく計画的な修繕を推進します。また、予防保全型の施設管理を推進し、ライフサイクルコストの縮減を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
道路台帳整備事業	・道路台帳の更新及び整備 ・道路整備の優先順位及び事後保全的、予防保全的な管理の整理
かけがわりバー・ロードサポーター制度活用事業	・市道等の草刈り団体の活動に必要な物品を補助するかけがわりバー・ロードサポーター制度に基づく協定締結地域の拡大
地域協働環境整備事業	・地区要望に応じた小規模な維持修繕工事と生コンクリート等、道路用資材の支給
橋梁長寿命化修繕事業	・老朽化する道路橋の急速な増大に対する、計画的な修繕実施
橋梁点検・補修	・市内の全橋梁における5年毎の法定点検実施
道路施設点検・補修	・市内のトンネル、横断歩道橋、大型カルバート、門型標識をはじめとする道路施設の点検及び補修
舗装改良事業	・老朽化により平坦性が悪く、ひび割れ等が発生している路面の計画的な点検・補修

6-① 多文化共生のまちづくりの推進

■目指す姿

- ・外国人市民と日本人市民が、相互に理解を深め、異なる文化をもつ人々が共生しています。

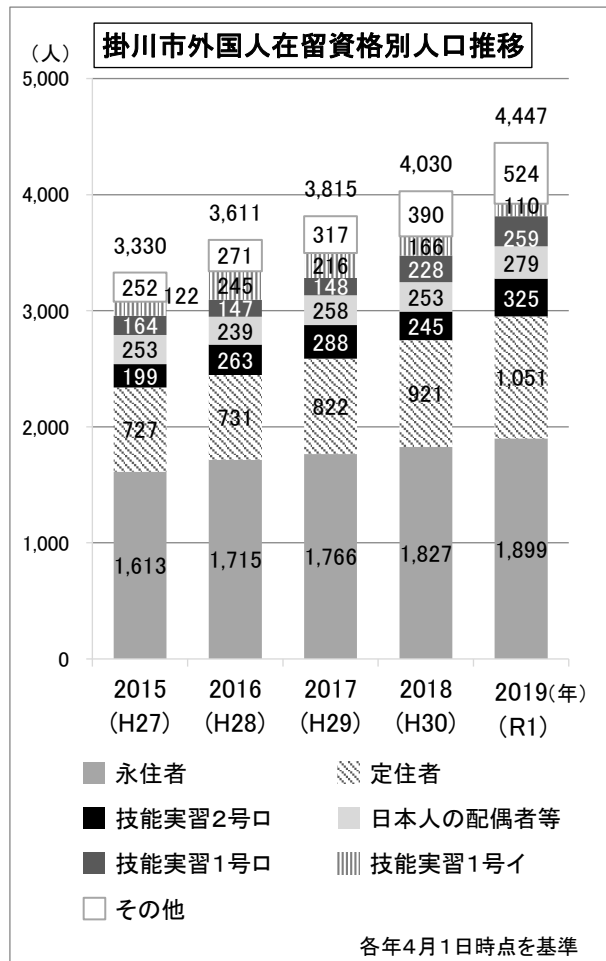
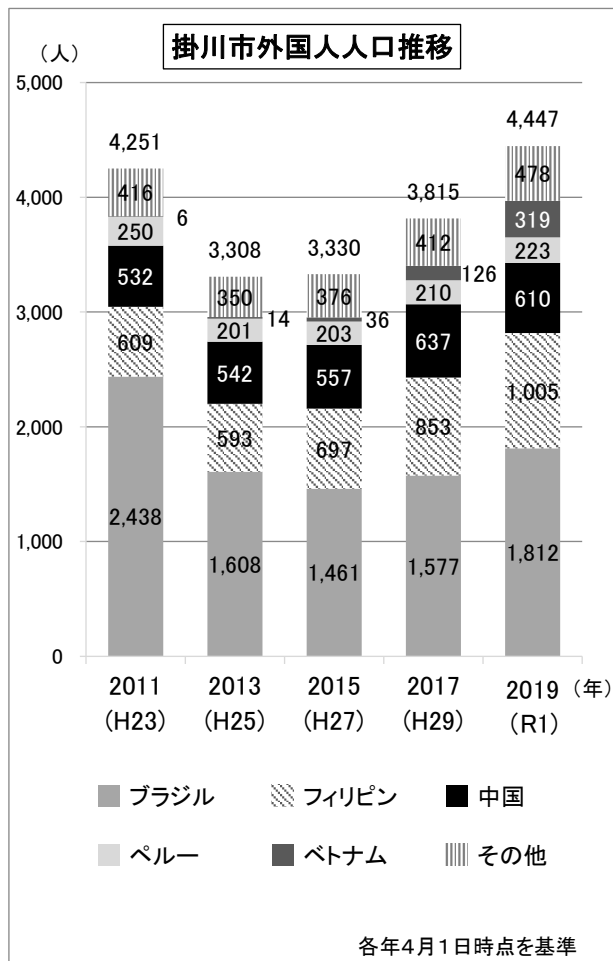
■現状と課題

我が国では、平成20年（2008年）の世界同時不況や平成23年（2011年）の震災の影響で外国人人口は減少傾向にありましたが、平成26年（2014年）を境に再び増加傾向となり、平成31年（2019年）4月の出入国管理及び難民認定法の一部改正の施行にともない、さらに増加することが予想されています。本市の外国人人口の推移を見ても、平成27年（2015年）から増加しています。

多文化共生社会の実現には、外国人市民が日本語や日本社会について理解を深めると同時に、受け入れ側である日本人市民にも外国人市民がもつ文化的背景や習慣への理解が求められます。今後、外国人市民が日本人市民とともに地域を支えていく仲間として、自治会活動への参加者を増やす取組などにより、多文化共生の意識が地域に根付き、多様性を生かしたまちづくりにつなげていくことが求められます。

外国人を雇用している企業においては、日本語学習機会の提供や支援、言語や住居・ごみの出し方など、生活習慣に関する問題を雇用するうえでの課題としてとらえており、地域における生活者としての相談窓口や支援体制の充実が求められます。

国際交流については、社会全体のグローバル化が進むなか、国際社会で活躍できるグローバルな人材育成が必要となります。



■施策の方向

①総合的な多文化共生社会の推進

外国人市民の生活や就労などの実態を把握し、外国人市民の行政サービスへの理解を促す情報提供や外国人市民の政策形成過程への参加を推進するなど、多文化共生への取組を行います。さらに、多文化共生意識の高揚を図り、外国人市民と日本人市民がともに地域の一員として、まちづくりに参画することを推進します。

②外国人市民の日本への理解を深める取組と教育環境の整備

外国人市民が日本の生活や習慣・文化、日本語を習得できる機会を増やし、外国人児童生徒が学校生活へ円滑に参加できるよう支援します。

③国際性豊かな人材の育成

グローバル化が進んでいく社会経済のなかで、国際姉妹都市との交流を促進するとともに、多様な文化、言語に触れる機会を充実させ、国際感覚豊かな人材の育成をします。

④国際交流の推進

市民主体の国際交流が進むよう外国人市民との交流の機会を創出し、異文化等への理解を促すとともに、世界に向けて本市の魅力を発信することにより、交流人口の拡大や経済交流を推進します。

■主要事業

事業名	事業概要
協働による多文化共生事業	<ul style="list-style-type: none">・ 在住外国人市民の活躍の場の創出・ 外国人市民等の参画による掛川市多文化共生社会推進協議会の開催、多文化共生推進プランの進捗管理及び推進
多文化共生事業の広域化	<ul style="list-style-type: none">・ 近隣市町との連携による情報の共有化・ 広域化による外国人市民への相談窓口等サービスの充実・ 多文化共生への理解促進を図る広域での研修会の開催
多言語による情報提供	<ul style="list-style-type: none">・ 広報かけがわ等のあらゆる提供情報の多言語化
多文化共生研修会開催事業	<ul style="list-style-type: none">・ 多文化共生への理解促進を図る研修会の開催
日本語教室開催事業	<ul style="list-style-type: none">・ 日本語及び日本の習慣等に関する学習機会の提供
外国人生活支援事業	<ul style="list-style-type: none">・ 外国人児童生徒に対する就学・生活等の相談支援・ 外国人市民の生活相談体制の多言語対応の充実・ 外国人市民への情報発信、地域社会活動への参加促進
就学支援事業	<ul style="list-style-type: none">・ 初期日本語指導教室（虹の架け橋教室）への案内等、就学案内の充実・促進
国際姉妹都市交流事業	<ul style="list-style-type: none">・ 姉妹都市提携、海外姉妹都市訪問団の派遣・受入及び多様な交流活動の推進と交流会等の開催
国際交流事業	<ul style="list-style-type: none">・ 食文化等、異文化に触れ合う機会の創出

6-② 多様性に富み個性と能力を発揮できる社会の実現

■目指す姿

- ・各々が個性と能力を十分に発揮しつつ、自らの意思により仕事や社会活動に参画し、活躍しています。

■現状と課題

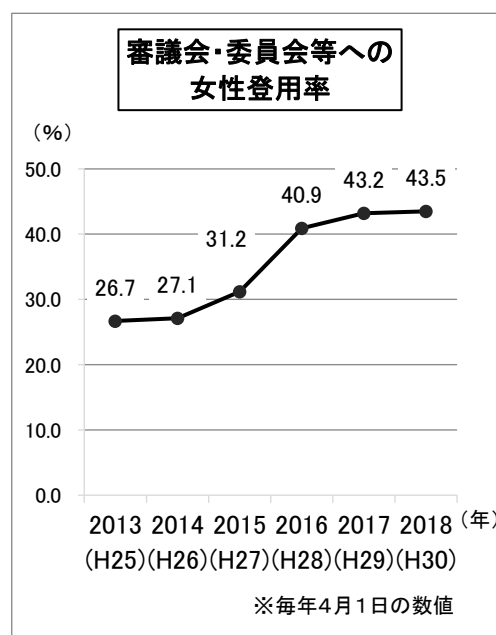
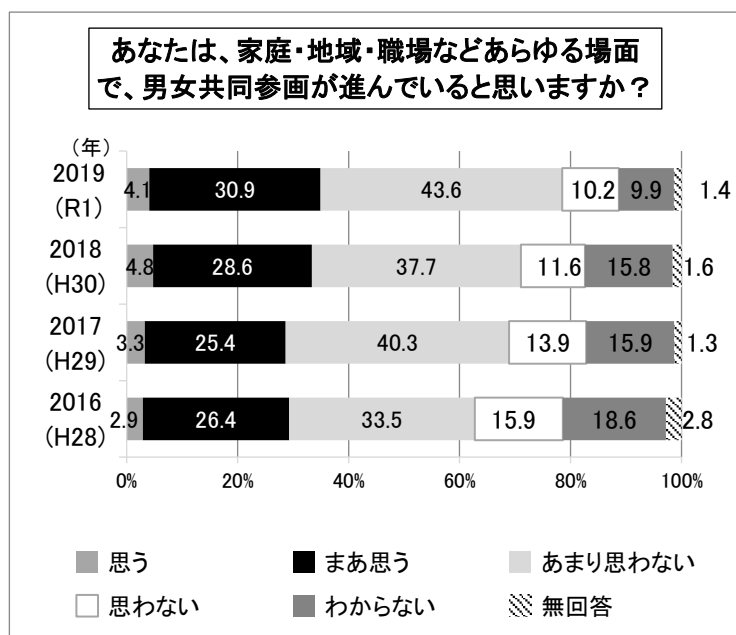
人口減少社会の中、労働力の確保だけではなく、社会経済を活性化する観点からも誰もが個性と能力を十分に発揮して活躍できる環境を整備していく必要があります。

本市の市民意識調査においては、「男女共同参画が進んでいると思う割合」は29.3%（平成28年度（2016年度））から35.0%（令和元年度（2019年度））に上昇しているものの、過半数に達していません。多様性に富み個性と能力を発揮できる社会の実現には、生活習慣の中で無意識に身につけていく性別による固定的役割分担意識の解消や男性の家庭参画への促進が必要であり、若年層からの意識啓発が重要です。

また、市の審議会・委員会等への女性登用については、近年横ばい状況であり、政策・方針決定過程への女性の参画は進んでいません。今後は、地域づくりや防災など、これまで女性の参画が少なかった分野においても、女性の意見を取り入れたまちづくりを進めていくことが、誰もが暮らしやすい社会の実現につながります。あらゆる分野における女性の参画拡大を図るため、地域や企業などにおいて意欲ある女性が活躍できる機会の創出や誰もが結婚、出産、子育てなどのライフイベントに合わせた柔軟な働き方を実現できる就業環境づくりへの取組が求められます。

また、民間の調査※によると、LGBTなどの性的少数者は人口規模の約8%との報告があり、性自認や性的指向などを理由に困難な状況に置かれている方々についての社会的認識を深めるとともに、誰もが自分らしく生きられるよう、多様な生き方に対する理解促進と配慮の視点が求められています。

※出典：平成28年5月株式会社LGBT総合研究所によるインターネット調査結果



■施策の方向

①地域や職場等における男女共同参画の推進

性別による固定的な役割分業意識にとらわれず、誰もが様々な分野に参画できるように、地域や職場等の慣行等の見直しを促進し、市民の意識改革を進めます。

②自らの意思により社会活動に参画し、活躍できる社会の推進

自らの意思であらゆる分野に参画し、男女が対等な立場でいきいきと活躍し続けることができる環境の整備を進めます。また、子どもや若者に対して、男女共同参画に関する理解の促進や意識啓発を図ります。

③柔軟な働き方を実現できる就労環境の推進

誰もが仕事、家庭生活、地域活動等にバランスよく参画できるよう、セミナーの開催や情報誌の発行等により、働き方の見直しやテレワーク等の多様な働き方等を啓発します。

④個性を十分に発揮できる社会の推進

性別による差別無く、誰もが個人として尊重されるとともに、多様な生き方を自らの意思で選択できる環境を整備します。また、LGBTなどの性的少数者への理解促進を図ります。

■主要事業

事業名	事業概要
男女共同参画関連講座事業	・男女共同参画推進に関する各種講座や意識啓発セミナー、働き方セミナー等の開催
男女共同参画の啓発事業	・男女共同参画に関する情報誌の発行
働き方セミナー開催事業	・ワーク・ライフ・バランスの啓発を促すためセミナーの開催
女性相談事業	・家庭や仕事等に悩みを持つ女性に対して相談の実施

6-③ 市民、自治組織、市民活動団体等の協働によるまちづくりの推進

■ 目指す姿

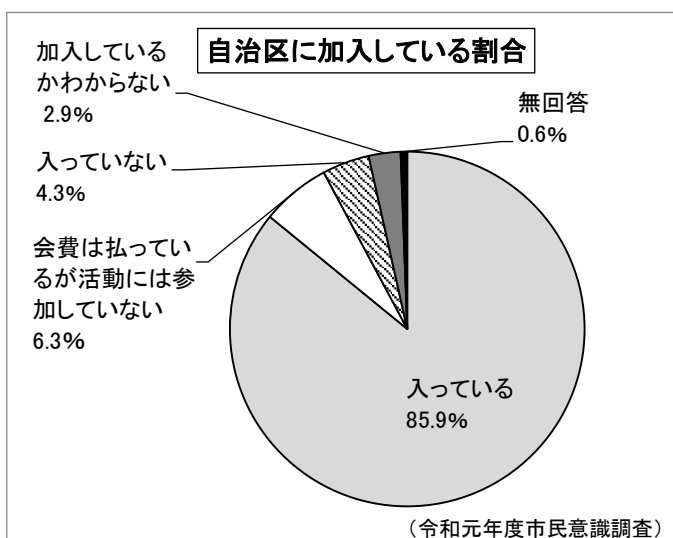
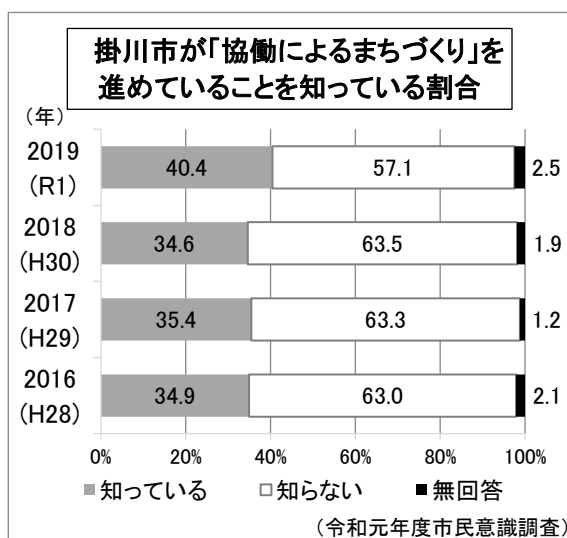
- ・ 公共的活動が、地区、市民、企業、行政など、自立した多様な担い手によって支えられています。

■ 現状と課題

本市では自治基本条例及び協働によるまちづくり推進条例を制定し、地域が主体となり、多様な主体と連携しつつ、人づくりやまちづくりのあるべき姿を共有しながら、自ら決める住民自治の実現を目指していく「協働によるまちづくり」を推進しています。

現在、「協働によるまちづくり」は、市民、地区まちづくり協議会、自治区及び市民活動団体の活動とともに発展を続けており、地域の課題解決に取り組む活動が増え、住民の自治への関心度は高まりつつあります。しかし、具体的な行動に結びついていないケースや、世代間によって自治活動（地域活動）への関心度に格差が見受けられるほか、自治区加入率も少しずつ低下しているなど、更なる地区のまちづくりに対する意識の醸成や自治活動の活性化に係る取組が必要となっています。

また、今後、市民自治を推進していくためにも、行政と市民の役割を明確にし、協働によるまちづくりが積極的に進むように環境を整備することが求められるとともに、地域がさらに輝き、市民の暮らしを豊かにしていくために、地域の稼ぐ力や課題解決の手法を多方面から考えていくことも必要になります。



■ 施策の方向

① 地区まちづくり協議会の活性化

多機能型地縁組織として様々なまちづくりが実施できるよう、地区まちづくり協議会が法人化されることを最終目標に掲げ、そのために必要な取組として、事務局組織の強化とコミュニティビジネスの実施を目指した有償ボランティア事業の実施等による自主自立化を推進します。

② 公共サービスの地域社会への転換

NPO 法人等や企業への公共サービス委託化促進と、地区まちづくり協議会への活動を支援し、公共サービス分野の充実強化を推進します。

③市民活動団体等の活性化

市民、NPO 法人等の非営利団体、市民活動団体、企業等、国や県及び市が、様々なまちづくりのテーマごとに連携して課題解決に取り組めるよう、事業実施に向けた取組支援の充実に加え、同じまちづくりのテーマで活動する人々を繋ぐ機会を創出します。

④協働の担い手づくりの推進と地域力の向上

報徳や生涯学習の考え方を基礎に、若者から高齢者まで全ての年代の市民があらゆる機会・場所において学習するとともに、その成果を生かして地区のまちづくりに参画し、生きがいや絆づくりに繋げることができるよう、地域や市民活動団体等と連携し、協働の担い手づくりを進め、地域力の向上を図ります。

⑤持続可能な自治組織の構築

地域住民の安全・安心・快適で幸せな暮らしづくりに重要な役割を果たす、基礎的地縁団体である自治区組織を育成するとともに、自治区活動拠点の整備改修を進め、自治区活動の充実強化を支援します。

また、転入者などに自治区の重要性の周知を図り、自治区加入を促していきます。

■主要事業

事業名	事業概要
地区まちづくり協議会への支援	<ul style="list-style-type: none">・地区まちづくり計画の実施に対する活動支援及び交付金の交付・まちづくりの担い手の発掘、育成とまちづくりに関する多彩な学びの機会の提供を目的とした講座等の開催
まちづくり協働センターの運営	<ul style="list-style-type: none">・まちづくりの疑問等に対する相談窓口の開設や諸団体同士の意見交換、学び合う機会の提供・ホームページや SNS を通じた各地区まちづくり協議会や団体の活動情報の発信・NPO 法人への資金計画や事業運営等へのアドバイス
市民活動活性化推進	<ul style="list-style-type: none">・地域の課題解決や他の団体のモデルとなる市民活動団体等への事業計画アドバイス、補助金交付等の活動支援・市内における先進的、具体的なまちづくり活動の発表会等の開催・市民活動団体が自由に活動できる交流センターの維持管理
地区区長会及び自治区への支援	<ul style="list-style-type: none">・自治区組織活動の中心となる地区区長会への活動支援・持続可能な組織体制構築に向けた自治区（単位自治会）への各種支援・リーフレットの配付等による転入者への自治区の役割等の理解普及と自治区加入促進に向けた啓発
コミュニティ施設整備への支援	<ul style="list-style-type: none">・集会施設の新築、改築、耐震補強、ユニバーサルデザイン化工事等に対する事業費補助

6-④ 計画的・効率的で適正な行政経営に向けた改革の推進

■目指す姿

- ・市民ニーズや社会経済状況に対応して、既存事業の見直しや公共サービスの民間開放等を進め、将来の債務残高を削減し、健全で計画的な行政経営を行っています。

■現状と課題

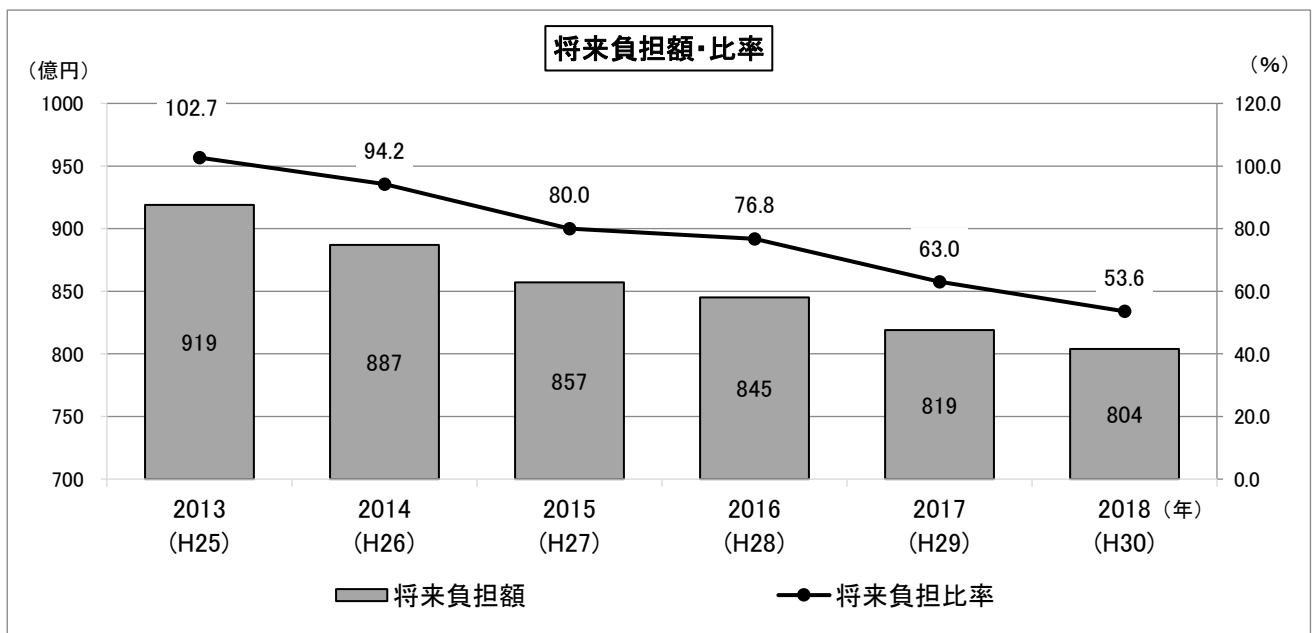
適正な行財政運営のために、複雑・多様化する業務プロセスの徹底した可視化とそれに伴う見直しが求められるとともに、それらの成果を質の高い市民サービスとして提供することが求められます。そのためには、社会経済情勢の変化や多様化する市民ニーズ等に柔軟に対応できる政策形成能力と意欲の高い職員が必要です。また、その能力を十分に発揮できる組織力の強化及び職場環境の整備に取り組む必要があります。

本市の財政に関しては、これまでの行財政改革により、人件費や公債費等の経常経費、起債残高等は減少するものの、令和元年度（2019年）以降の歳入見通しとして、市税収入は減少し、普通地方交付税についても今後も減少する見込みです。

一方、歳出面では社会保障関係経費や公共施設の老朽化対策費は増加すると考えられ、自主財源の増強策や事業の選択と集中を、更に進めていくことが求められます。特に、公共施設の多くが昭和50年代に整備されており、近い将来、大規模改修や建替が集中することが見込まれ、全ての施設を現状のまま維持するためには多額の維持更新費用を要します。また、少子高齢化の進展に伴う市民ニーズの変化への対応も求められます。

多様化する市民ニーズや公共的課題を解決するためには、市民と行政との情報共有が不可欠であり、行政は市民等からの意見や要望等を的確に施策へ反映し、新しい政策や制度等が市民に周知されるよう、迅速かつ確実に発信する必要があります。特に、若い世代を中心に情報格差が生まれている近年において、SNSをはじめ、ICT、IoT、AIなどの最新技術を活用した適切な情報発信を進める必要があります。

加えて、「ひと」や「しごと」の流れは、周辺地域等との連携が必要とされています。現在も一部事務組合等を構成して、病院・火葬・ごみ処理等を周辺市町と共同で行っていますが、今後は、多文化共生の推進、商工業振興や広域観光等、個別の政策課題において、有効な広域連携を積極的に推進することが求められます。



■施策の方向

①公共施設マネジメントの推進

既存の公共施設等のあり方を見直し、現在のニーズに即した形に改めることで、公共施設等の安全・安心を確保するとともに、機能と利用圏域の重複する施設等の「統合、複合化、廃止、譲渡」等の検討を進めます。

②計画的な財政運営

長期的な視点に立ち、市財政が健全に運営されるよう、中長期の財政見通しを定期的に見直すとともに、地方公会計制度に基づく財務書類を活用し、計画的、効率的な財政運営及び債務の削減に努めます。

③行政経営の抜本的な見直し

持続可能な行政経営を行うために、職員の人材育成や年功序列の職員配置、給与体系、市民参画による行政評価、計画的・効率的な財政運営、公共サービスの適正化等、行政経営の根幹をなす仕組みについて、見直しを進めます。

④組織力・職員力の向上

組織目標と職員個々の目標を連動させ、役割と責任を明確にし、個人の能力を最大限発揮できる環境を整えます。さらに適材適所に職員を配置し、目標を達成できる組織を目指します。

また、個々の職員が将来予想される社会変化を見極め、新たな行政経営に求められるスキルの獲得、向上に取り組める環境づくり、あるいは、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の整備を図ります。

⑤市税及び税外債権の適切な徴収

公平適切な市税の徴収とともに税外債権の全庁横断的な回収業務の推進を図ります。

⑥質の高い窓口サービスの提供

窓口手続きの一元化やネット上での窓口サービスの開設等、市民の満足度向上に向けた窓口対応と適切な業務遂行に努めます。

⑦投票率の向上

中高校での選挙出前授業など若年層への選挙啓発を推進するとともに、市民全体の投票率向上のために、投票環境の改善や、選挙に関する幅広い情報提供に努めます。

⑧行政情報の発信と共有

行政情報の発信と共有のため、従来方式に加え、ICTやIoTなどの最先端技術を最大限活用し、多様な手法により幅広い立場・年齢の方へ情報発信、意見収集を進めていきます。

⑨広域連携の推進

効率的かつ効果的な行政経営を進めるため、周辺市町と共同による事業展開、あるいは地域課題や施策の情報共有等、広域行政を推進します。

また、姉妹都市等との広域連携の推進により、経済や文化、ひとやしごとに関する相互交流を進めます。

■主要事業

事業名	事業概要
公共施設マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設再配置計画に基づく計画的な改修や更新等の実施
市財務状況の把握及び資産・債務管理	<ul style="list-style-type: none"> 財務書類による市財政状況の把握及び資産、債務管理 公共施設等総合管理計画との連携を図りつつ、計画的かつ効率的な財政運営
行政評価	<ul style="list-style-type: none"> 各施策の成果目標の達成状況の把握と見直し、新規事業等の立案、検討
人事給与制度	<ul style="list-style-type: none"> 職員個々の適性と意欲の向上に資する人事配置と給与制度の運用及び評価制度の見直し
職員採用	<ul style="list-style-type: none"> 市政に携わることの魅力の発信により採用試験応募者を集め、優秀な人材を確保 多様な任用形態による高い専門性の確保
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 対人関係能力の向上、高度な専門知識の習得などに関する職員研修の実施 個々の職員の能力開発や目標達成支援に資する研修の実施や情報の提供による管理職員のマネジメント力の強化
債権回収対策事業	<ul style="list-style-type: none"> 債権の適切な管理及び回収の取組強化の推進のための対策会議や研修会の開催
選挙啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> 中高生を対象とした選挙出前授業の開催 市ホームページを活用した選挙や投票方法等に関する情報の発信
広報広聴活動事業	<ul style="list-style-type: none"> 「広報かけがわ」（紙・電子広報）や SNS 等を活用した情報発信、市ホームページや市民会議などを活用した広聴活動の実施
広域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 個別の政策課題における広域連携の推進

第4章 計画の推進にあたって

第1節 計画の推進にあたって

1 戦略的かつ計画的な施策の推進

本計画で掲げられている多様な施策を効果的に推進するためには、多様な施策の戦略的かつ計画的な推進が求められます。

市域を取り巻く社会情勢、市の財政状況を踏まえつつ、施策の目的や内容を明らかにし、同時に推進すべき施策や段階的に推進すべき施策を時間軸の枠の中で総合的に捉え、施策効果が十分に発揮できるよう、関係する施策間の連携を強化するとともに、有機的な施策推進に配慮します。

また、個々の施策については、確実に目標を達成するための推進プログラムを綿密に練り上げ、推進を図ります。

2 広域連携の推進

「ひと」や「しごと」の流れは、ひとつの市の中で完結するものではありません。互いに切磋琢磨しつつ、各市町の取組等についての情報共有と研究を進め、本市が周辺地域とともに発展していけるよう、有効な連携を推進していきます。

今後の各施策の目標達成のために、施策効果が波及すると想定される市町には、本市から連携を呼びかけ、それらの市町及び関係機関等によって必要な体制の整備を図ります。

3 庁内連携の強化

本計画に位置付けられた個別施策においては、関係課が複数にわたるものがあります。また、関係する施策間の連携を強化するとともに、有機的な施策の推進を図っていくためには、庁内関係各課の連携が必要不可欠です。

個別施策の推進にあたっては、プロジェクトチームを組織するなど必要な体制を整えるとともに、積極的な情報共有を進め、庁内連携の強化を図り、職員が一丸となって、着実な施策の推進を図ります。

4 成果重視及び市民参画による進捗管理

本計画の推進にあたっては、掛川市の将来像の実現を目指し、着実に成果を上げていくことが重要です。そのため、具体的な成果を表す成果指標を設定し、成果指標の達成状況等を基に、事業の進捗・効果等について効果検証を着実にを行い、必要に応じて見直しを行います。

また、掛川流「協働力」を発揮するためには、本計画の進捗管理においても、様々な関係者とともに行っていくことが不可欠です。そのため、本計画の推進状況について積極的に情報発信をするなど情報共有に努めるとともに、効果検証・見直しは、基本理念である「協働のまちづくり」に基づき、行政だけで行うのではなく、市民や外部有識者等関係者の参画を得て行います。